小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ･取扱説明書･パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。
本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。
また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更は威容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社（小橋工業株式会社）が著作権その他知的財産権を保有します。
無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、１部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。
弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシねぎ収穫機（ソフィ）

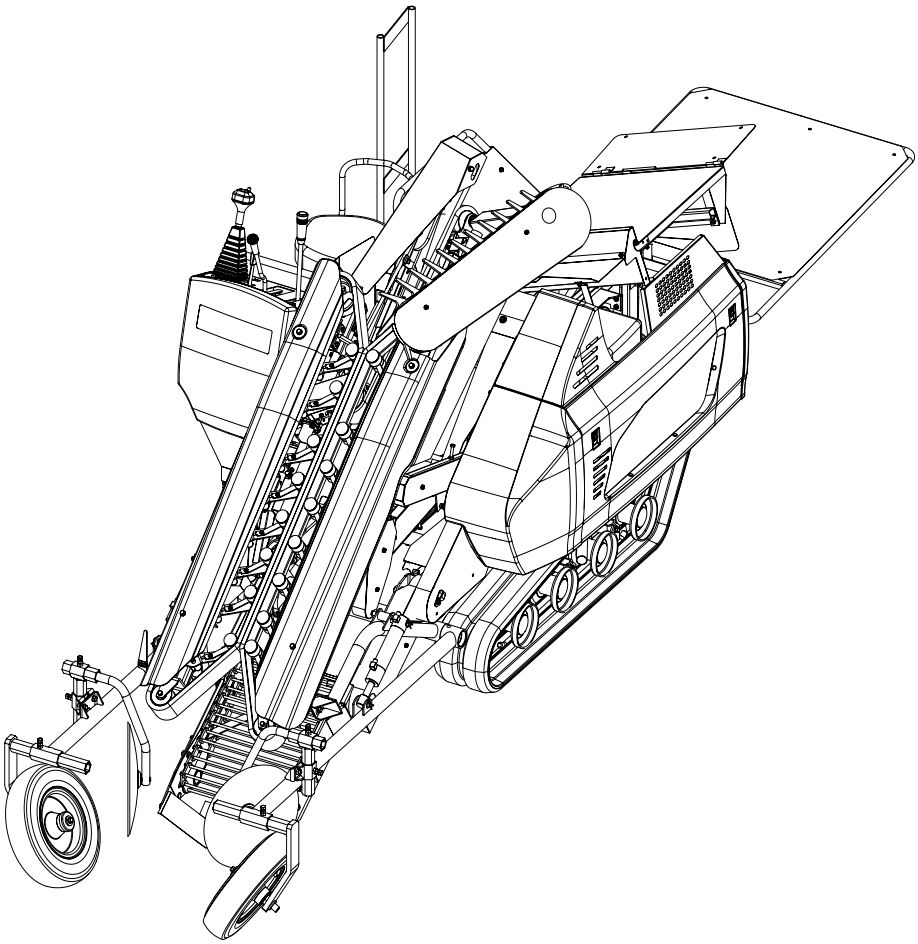
HGX100 取扱説明書

お役立ちガイド

このたびはコバシねぎ収穫機（ソフィ）をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、はじめに（→p.2）および安全について（→p.4 ～ 11）は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず機械の近くに保管し、いつでも読めるようにしてください。



KOBASHI

目　次

必ず読む▼

はじめに ▶p.2
詳細目次 ▶p.3
安全について ▶p.4

使いかた▼

各部の名称 ▶p.12
移動・圃場への出入り ▶p.19
運転のしかた ▶p.20
作業の準備 ▶p.28
作業のしかた ▶p.37
保守・点検 ▶p.45
消耗品一覧 ▶p.73
電気配線図 ▶p.77

必要に応じて▼

標準付属品・Vベルト規格 ▶p.78
主要諸元 ▶p.79
異常診断一覧表 ▶p.80
廃棄について ▶p.82

2023.05
0142203
-003

はじめに

コバシねぎ収穫機（ソフィ）（以降「機械」と記す）を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱い方法を理解してください。この取扱説明書は、機械の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

使用目的・使用範囲

この機械は白ねぎ（根深ねぎ）の収穫用です。
使用目的以外の作業や機械・部品の改造などは決してしないでください。故障した場合は、保証の対象になりません。

取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負うことができませんので厳守してください。
  - 取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
  - 機械・部品を改造しないでください。
  - 操作・保守作業は、通常必要とされる注意をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、機械の本体に貼付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。この取扱説明書に記載した警告や指示を守ってください。
  また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの機械を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。

貸出時および譲渡時の注意

- 機械を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を機械に添付してお渡しください。
- この機械は、国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が違うため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

仕様について

- この取扱説明書では、仕様が異なる製品を下記のように記載しています。お買い上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
  なお、説明は HGX100 を基本としています。取扱いが異なる HGX100F の場合は、その都度追加説明してあります。

  収容部の仕様について
  昇降コンテナ台　…　HGX100
  固定コンテナ台　…　HGX100F

取扱説明書について

- この取扱説明書は、機械の組み立て、操作、および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は機械の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この機械とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。
  また、機械内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を有します。当社の事前の文書による同意なしに、この取扱説明書の全体もしくは部分的にも複写、翻訳しないでください。また、読み取り可能ないかなる電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報が必要となる場合や、ご質問などがある場合、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合わせください。

詳細目次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **2**

詳細目次 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **3**

安全について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **4**

警告表示について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
安全に作業するために ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
警告表示ラベルの種類と位置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
サービスと保証について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

各部の名称 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **12**

本体（HGX100）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
本体（HGX100F）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
レバー関係 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
レバー関係の操作 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

移動・圃場への出入り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **19**

圃場への出入り ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
移動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

運転のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **20**

乗車について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
運転について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

作業の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **28**

各部の調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
作物と圃場の条件 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
枕地の確認と作業準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

作業のしかた ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **37**

収穫作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
土落としドラムの高さ調整 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
収容作業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
ワンポイントアドバイス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

保守・点検 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **45**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
保守・点検の準備 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
保守・点検一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
作業内容 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
作業後の手入れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71

消耗品一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **73**

電気配線図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **77**

標準付属品・V ベルト規格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **78**

標準付属品 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
V ベルト規格 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78

主要諸元 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **79**

異常診断一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **80**

廃棄について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ **82**

注意事項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・82

安全について

ここに示した注意事項は、機械を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

警告表示について

警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載しています。

⚠危 険	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害の可能性が高いことを意味します。
⚠警 告	誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害を負う恐れがあることを意味します。
⚠注 意	誤った取扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。

その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

取扱上の注意	誤った取扱いをしたときは、機械が故障する可能性があることを意味します。
お知らせ	機械本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。

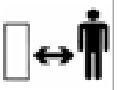
絵表示

危険に対する注意・表示は次の 3 種類の記号を使って表しています。

	禁止（してはいけないこと）を示します。
	強制（すること）を示します。
	注意を示します。

安全に作業するために

全般

⚠危 険		
禁止	**使用目的以外の作業や機械・部品の改造をしないでください。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。	
必ず実行	**取扱説明書はいつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。	
必ず実行	**取扱説明書をよく読み、機械・部品の使いかたを理解してから使用してください。** **エンジンの取扱説明書も併せてよく読んでください。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。	
必ず実行	**操作・作動しているとき、周りの人は機械から離れ、作業者は周囲との距離が十分ある状態で作業を行ってください。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。	
必ず実行	**故障・異常に気付いたら直ちに作業を中止し、修理してから使用してください。** ＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。	
必ず実行	**ねぎ収穫機は常に掃除した状態で使用してください。** **エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺に堆積している枯れたねぎや雑草などは、きれいに取除いてください。** ＊ 火災が発生する恐れがあります。	

⚠警 告

禁止

次のような状態では、運転しないでください。

- 飲酒運転
- いねむり運転
- 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- 若年者（18 歳未満）
- 妊娠中の方

機械の操作に熟練し、心身ともに健康な状態で運転してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

機械を他人に貸出す場合は、取扱説明書を添付し正しい取扱いを指導してください。

＊ 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、滑らない靴、キチンとした作業服を着用してください。

ボタンもキチンと留めてください。

＊ 回転部分に巻き込まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

共同作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底してください。

＊ 機械が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

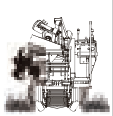
作業前点検

⚠危 険

必ず実行

エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺に堆積している枯れたねぎや雑草などは、きれいに取除いてください。

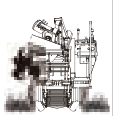
＊ 火災が発生する恐れがあります。



必ず実行

収穫作業前は、うね周辺の枯れたねぎや雑草などを取除いてください。

＊ 火災が発生する恐れがあります。



⚠注 意

必ず実行

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。

＊ 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

トラックへの積み・降ろし

⚠危 険

禁止

積み・降ろし中は、副変速レバーの「高速（走行）」「低速（収穫）」への切り換えは絶対にしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

積み・降ろしの際は、コンテナ台を収納し、機体にものを載せないでください。また、機械に乗車しての操作も絶対にしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろしは、平坦で安全な場所で行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

アユミ板を使用するときは、次のことを守ってください。

- 基準に合った滑り止め付きのものを使用すること（→ p.25）
- アユミ板を確実に固定し、傾斜角度、平行度を確認すること
- アユミ板の傾斜は、15°以内となるようにすること

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み込みは必ず前進で行い、積み降ろしは必ず後退で行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

副変速レバーは必ず「低速（収穫）」で行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

積み・降ろし中は絶対にアユミ板の下へは入らず、落下などの場合に危険回避できる状態で作業してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

一般走行

⚠危 険

禁止

高速運転・急発進・急ブレーキ・急旋回をしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

トラックなどに積んで、圃場まで運んでください。

公道走行は、道路交通法違反となります。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

その場旋回（スピンターン）は、必ず副変速レバーを「低速（収穫）」に切り換えてから行ってください。

「高速（走行）」でのその場旋回（スピンターン）は、危険です。

＊ 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

移動するときは、掘取りコンベアを持ち上げ、昇降コンテナ台・カラコンテナ台は格納状態にしてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地での走行は次のことを守ってください。

- 傾斜地では速度を落とし、前後・左右のバランスに十分注意して走行すること
- 機械が前後左右とも 5° を超える傾斜地を移動するときは機体から下りて操作すること
- 傾斜地では、副変速レバーの「高速（走行）」「低速（収穫）」への切り換えは絶対にしないこと

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

ブザーが鳴ったら作業を中止し、機械が水平になる場所に移動してください。

機械には傾斜警報装置が装備されており、一定角度（約 14°）以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせます。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

圃場への出入り

⚠危 険

禁止

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は乗車しないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

圃場に入るときは、必ず速度を下げて、掘取りコンベアを地面と接触しない程度に下げて、圃場に対して直角に進んでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。

また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。

機械は構造上、重心が前にあります。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作業中

⚠危 険

必ず実行

いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止

機械の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

回転部分など、動くところには触れないでください。

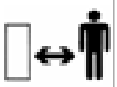
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

禁止

作業中は、周りに人を近寄らせないでください。

特に子供には十分注意してください。
補助作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底してください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

掘取り作業中は以下のことを守ってください。

- 掘取りコンベアの昇降をするときには共同作業者との安全確認を十分行うこと
- 作業クラッチレバーが「入」の状態では、掘取りコンベアの昇降位置により、コンベアが回転するので注意すること
- 掘取り作業中は、絶対に副変速を「高速（走行）」で使用しないこと
- 故障・異常に気付いたら直ちに作業を中止し、修理してから使用すること

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作業中の点検

⚠危 険

必ず実行

機械の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

- 駐車ブレーキをかけている
- 主変速レバー、副変速レバーが「中立」になっている
- エンジンが停止している
- 機械のキーを抜いている

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

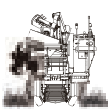
点検のために外したカバー類は、必ず元どおりに取付けてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

エンジン部分・マフラ周辺部・ベルトカバー内・バッテリ周辺に堆積している枯れたねぎや雑草などは、きれいに取除いてください。

＊ 火災が発生する恐れがあります。

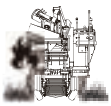


⚠警 告

必ず実行

収穫作業前は、うね周辺の枯れたねぎや雑草などを取除いてください。

＊ 火災が発生する恐れがあります。



⚠注 意

禁止

エンジン部分・マフラ・ラジエータなどには触れないでください。

＊ 火傷をする恐れがあります。

必ず実行

点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い正しい使用をしてください。

＊ 整備不良で事故につながる恐れがあります。

停車のしかた

⚠危 険

必ず実行

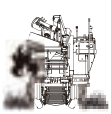
傾斜地に駐・停車するときは、駐車ブレーキをかけ、ゴムクローラに輪止めをしてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

機械を止める場合には、枯れたねぎや雑草などのない平坦な場所に機械を止めてください。

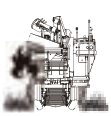
＊ 火災が発生する恐れがあります。



必ず実行

エンジン部分・マフラ周辺部・ベルトカバー内・バッテリ周辺などの高温部に堆積している枯れたねぎや雑草などを点検し、きれいに取除いてください。

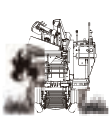
＊ 火災が発生する恐れがあります。



必ず実行

機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジン、マフラが冷えてから行ってください。

＊ 火災が発生する恐れがあります。



⚠注 意

必ず実行

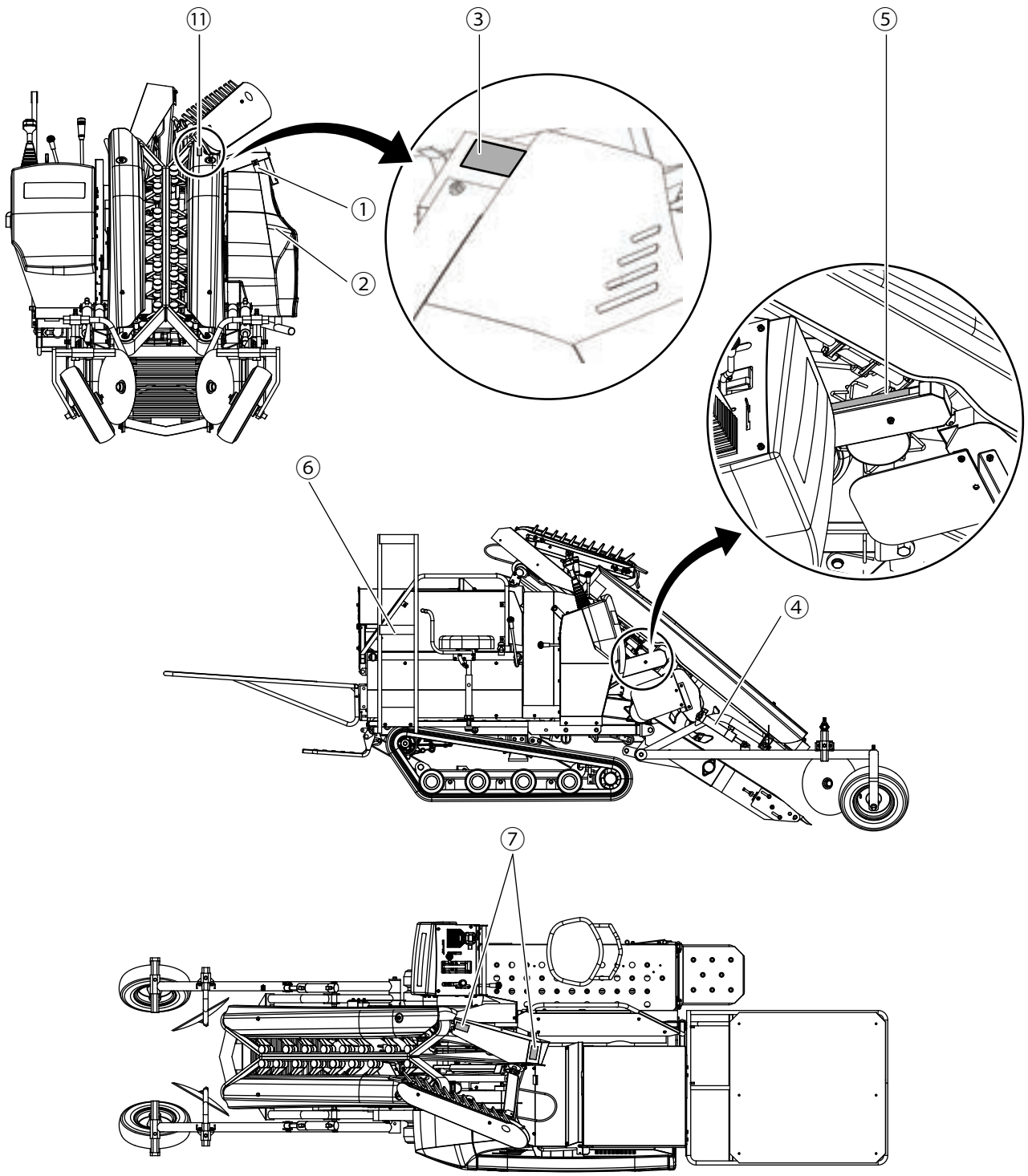
平らな場所に止め、掘取りコンベアを降ろしてエンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

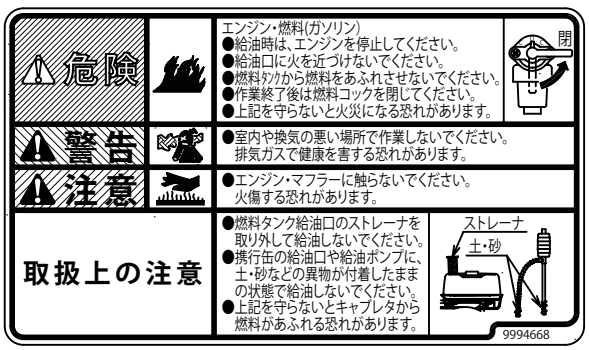
警告表示ラベルの種類と位置

この機械には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解したうえで作業してください。

- いつも汚れや泥を取り、警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- 警告表示ラベルが損傷したり破損したりしたときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。
- 下図は HGX100F を記載していますが、HGX100 についても警告表示ラベルの種類と位置は同じです。

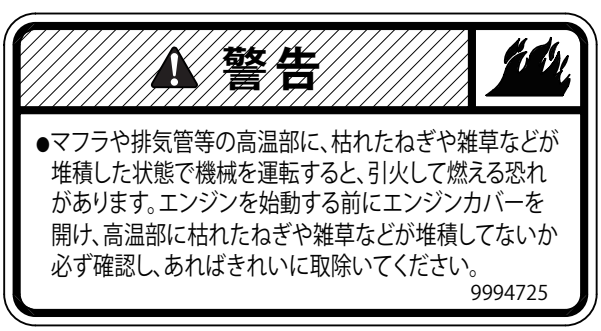


① コード No.9994668



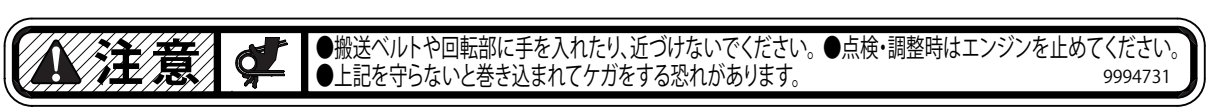
② コード No.9994669

③ コード No.9994725



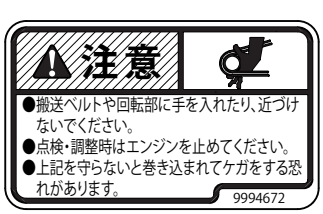
④ コード No.9994670

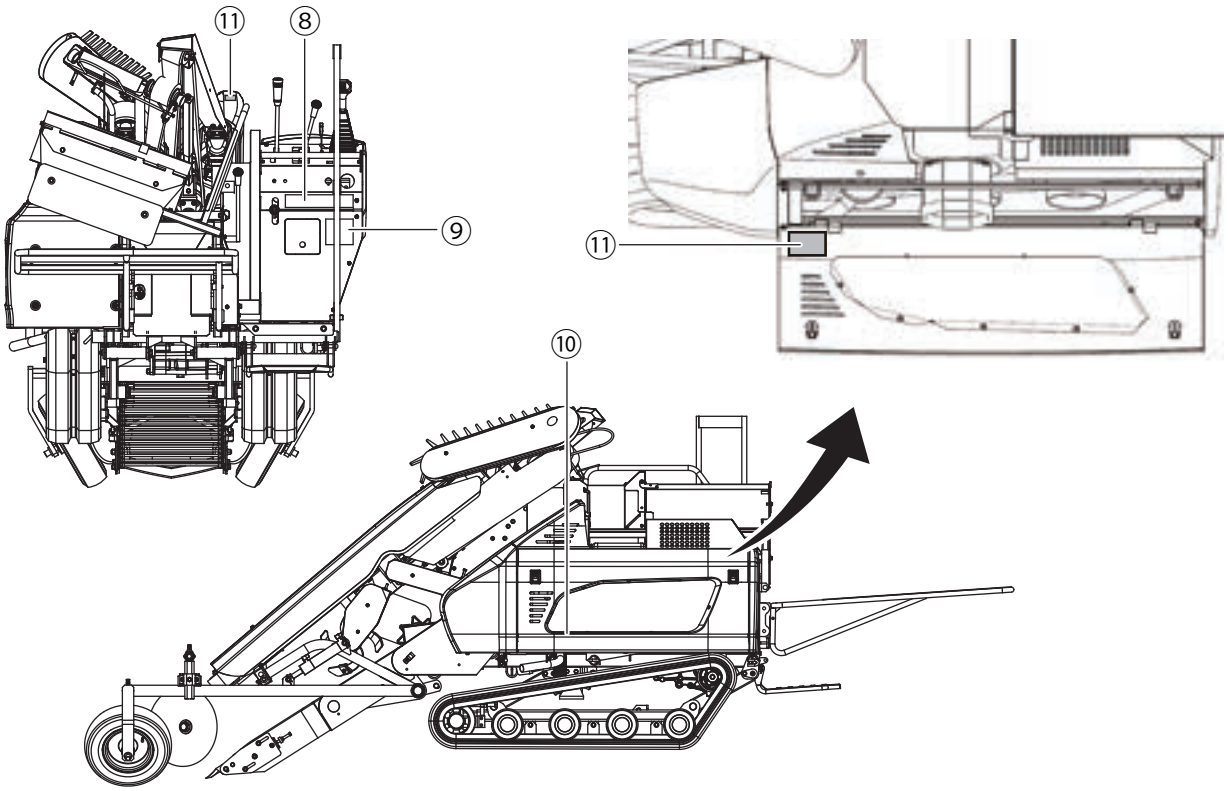
⑤ コード No.9994731



⑥ コード No.9994843

⑦コード No.9994672





⑧ コード No.9994673

⚠注意

取扱説明書を読んで安全で正しい作業をしてください。事故・ケガの恐れがあります。

- ●エンジンを始動する前に、クラッチレバー類を切または中立の位置にしてください。
- ●自然通気が悪い所や換気ができない所で作業をしないでください。
- ●移動および点検整備時は、収穫部昇降レバーをロックしてください。
- ●点検整備は、エンジンを止め各部が完全に停止してから行ってください。
- ●移動時は、シートを前向きにしてシートパイプ下端のロックをしてください。
- ●運転者以外乗車しないでください。

移動時　作業時

- ●公道は走れません。
- ●作業時は、シートを横向き・最上げ位置で固定しシートを傾けてください。
- ●あぜや障害物を越えるときは、直角に低速で越えてください。
- ●あぜや障害物高さが10cm以上のときは、段差の4倍以上の長さですべり止めがあるあゆみ板を使用してください。
- ●トラックへの積込みは、前進で行なってください。
- ●急な傾斜地は、低速でバランスを考慮して走行してください。
- ●やむをえず傾斜地で駐車する場合は、駐車ブレーキをかけ輪止めをしてください。
- ●昇降台の積載量は100kg以下を守ってください。

9994673

⑨ コード No.9994739

⚠警告

- ●エンジンの不調やマフラ断熱パイプなどが破損している場合は直ちに作業を中止し、修理してください。
- ●収穫作業前はうね周辺の枯れたねぎや雑草などを取除いてください。
- ●収獲作業前後はエンジン部周辺に枯れたねぎや雑草などが堆積していないか必ず確認し、あればきれいに取除いてください。
- ●機械を止める場合には、枯れたねぎや雑草などのない平坦な場所に機械を止めてください。
- ●機体にカバー（おおい）をかけるときは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

※上記内容を守らないと火災が発生するおそれがあります。
詳細は取扱説明書を参照ください。

9994739

⑩ コード No.9994730

⚠注意

エンジン・マフラに触らないでください。
火傷する恐れがあります。　9994730

⑪ コード No.9994729

⚠注意

点検・調整後はカバーを必ず取付けてください。　9994729

サービスと保証について

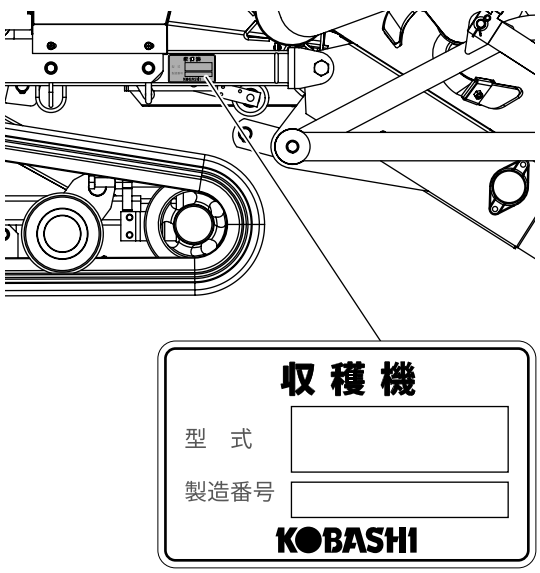
保証書

この機械には保証書を添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービス

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げいただいた販売店まで連絡してください。

- お客様名
- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約○○アール・約○○時間使用後）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えください。



補修用部品の供給年限について

この機械の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
したがって、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

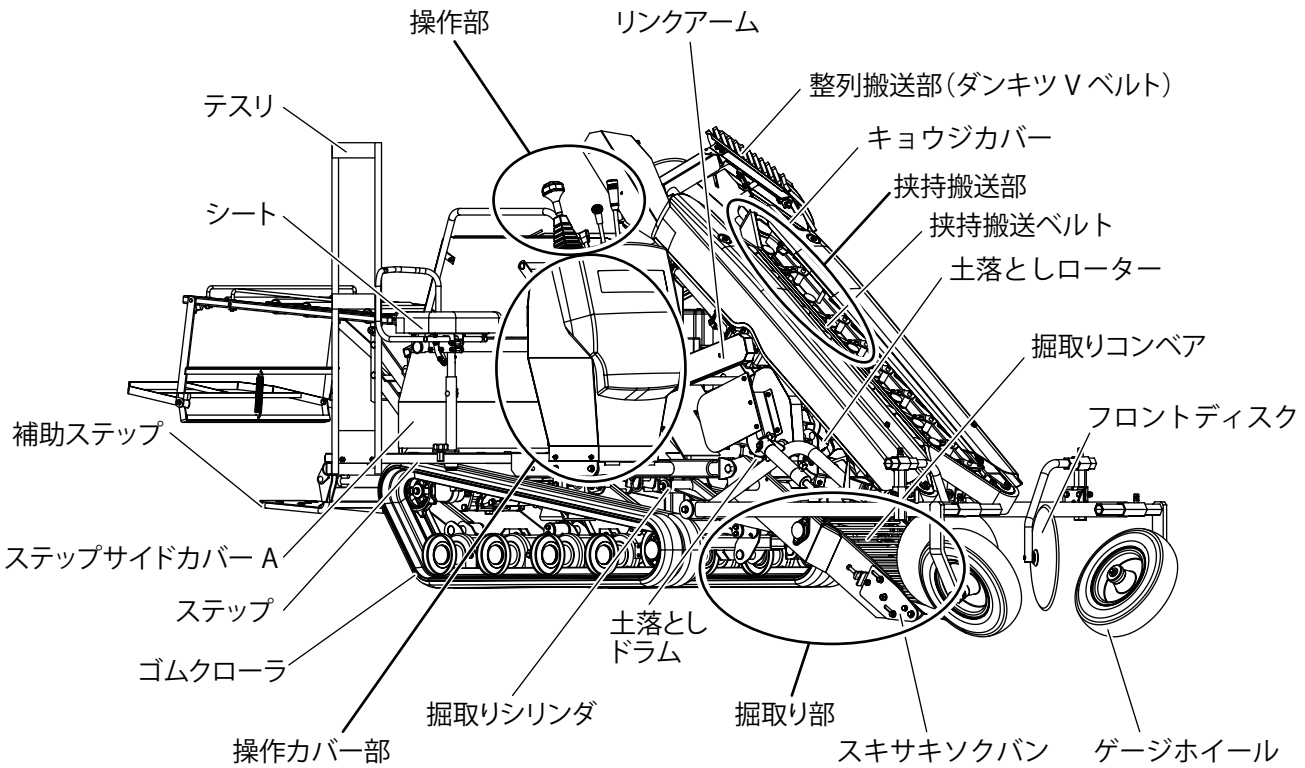
補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになると、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。
また、部品の改造はしないでください。

各部の名称

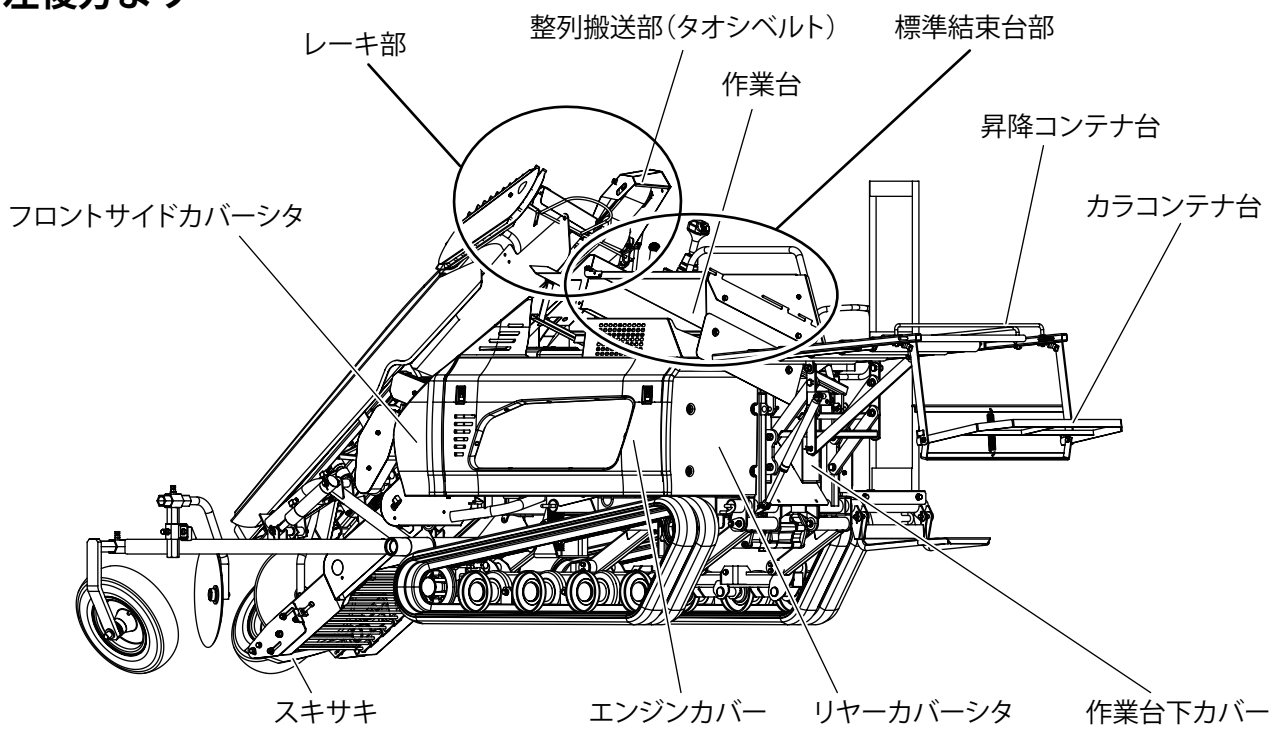
機械本体の各部の名称について記載をしています。

本体（HGX100）

■ 右前方より

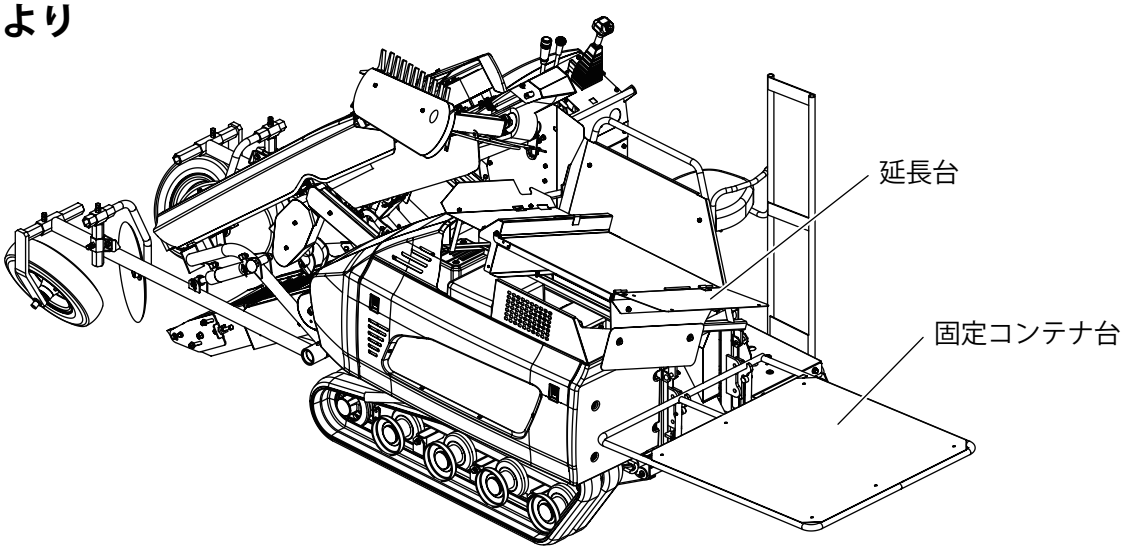


■ 左後方より



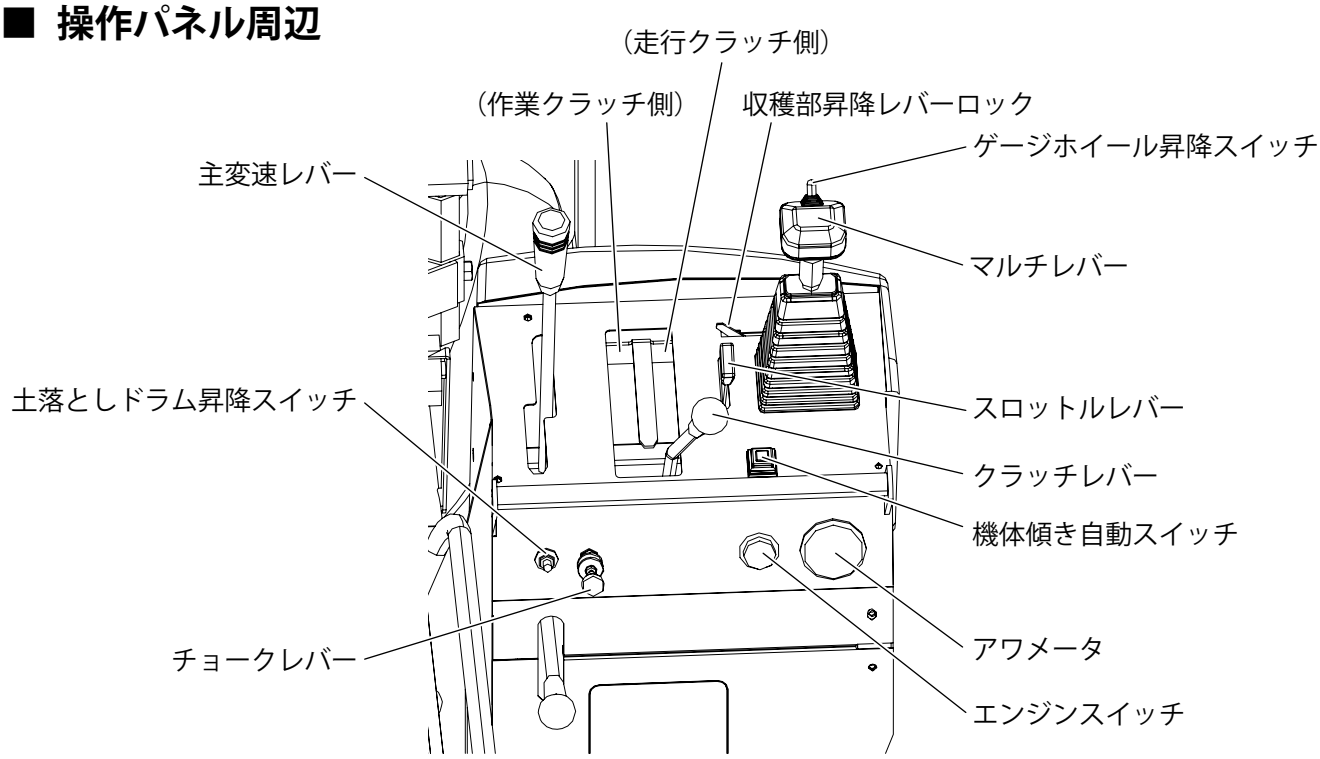
本体（HGX100F）

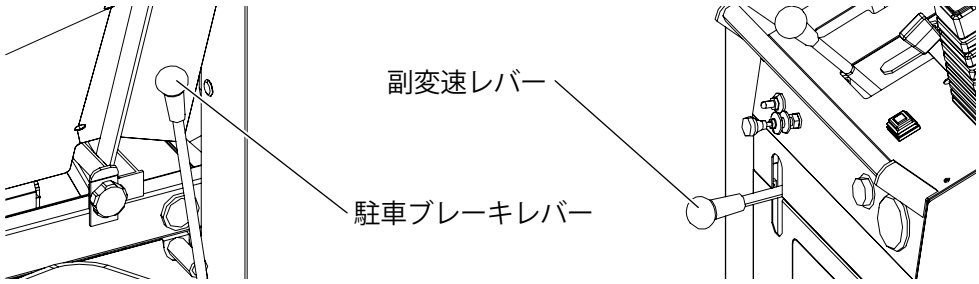
■ 左後方より



レバー関係

■ 操作パネル周辺





レバー関係の操作

ここではレバー関係の操作について記載しています。作業前によく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

レバー関係の説明

■ エンジンスイッチ

1 キーをエンジンスイッチに差し込み、「ON」の位置にします。さらに右（「START」位置）へ回します。

⇒ エンジンが始動します。

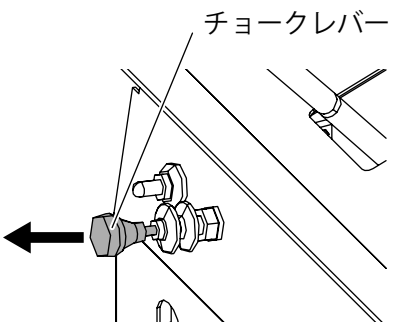
2 始動後、キーから手を離します。

⇒ キーは「ON」の位置に戻ります。

■ チョークレバー

1 チョークレバーを引きます。

- 寒いときやエンジンが冷えているときは、いっぱいに引いてください。
- 暖かいときや運転停止直後に再始動するときは、半分引くか、もしくは引かないでください。



2 エンジンスイッチを「START」位置に回します。

取扱上の注意

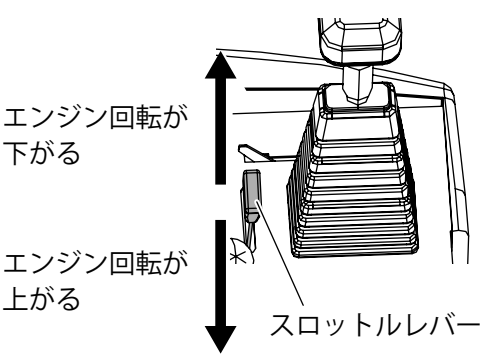
- スタータは大電流を消費します。10 秒以内で始動しない場合は、一度エンジンスイッチを「STOP」位置に回して、1 分以上休止してから再度始動させてください。

3 エンジン始動後、チョークレバーを戻します。

- チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に戻し、最後には必ず完全に戻してください。

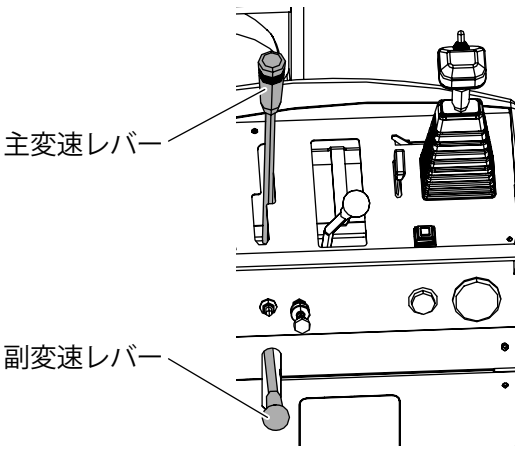
■ スロットルレバー

エンジン回転を調整します。



■ 変速レバー

主変速レバーと副変速レバーで速度を調整します。

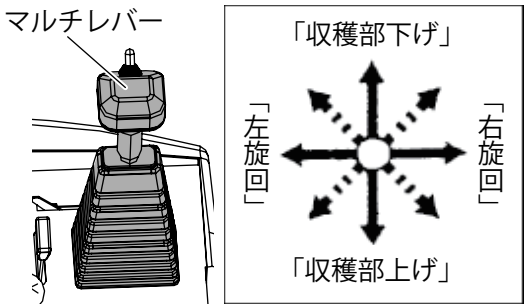


(a) 主変速レバー
「中立」の位置から、前に押すと「前進」し、左に倒し手前に引くと「後進」します。速度は倒す角度によって速くしたり遅くしたりできます。

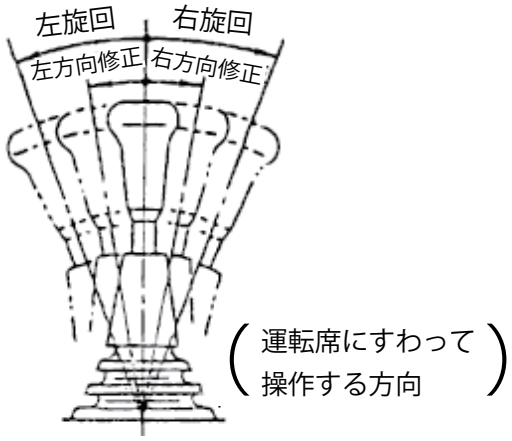
(b) 副変速レバー
「中立」の位置から上にすると「高速（走行）」に、下にすると「低速（作業）」になります。

■ マルチレバー

方向を変えたり、旋回したりするときや、収穫部を上下するときに使用します。
レバーを前・後に操作すると、収穫部の上げ下げができます。
レバーを左・右に操作すると、方向修正から旋回までできます。

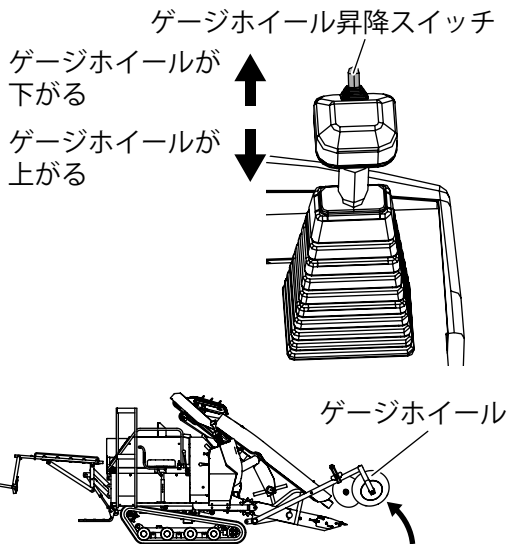


レバーの倒し量に応じて、緩やかな方向修正からその場旋回まで、条件に合わせて操作してください。
緩やかな方向修正の場合は、左・右へ軽く倒してください。
その場旋回の場合は、左・右いっぱいに倒してください。



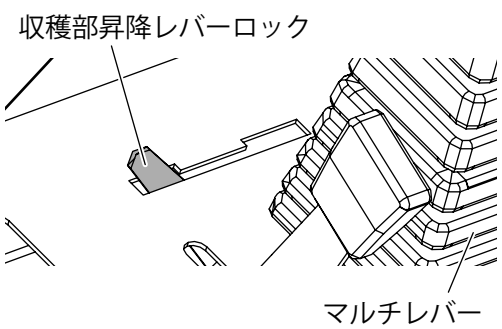
■ ゲージホイール昇降スイッチ

ゲージホイールの高さを調整します。
ゲージホイール昇降スイッチを前方に倒すとゲージホイールが下がります。後方に倒すとゲージホイールが上がります。



■ 収穫部昇降レバーロック

エンジン運転中に、収穫部を上げた状態でマルチレバーを「下」にすると、収穫部が下がります。安全のため、収穫部昇降レバーロックを「ロック」の位置にし、マルチレバーが前後に動かないようにしてください。



⚠注 意

必ず実行

保管・格納時はスキサキが地面に接地するまで下げてください。

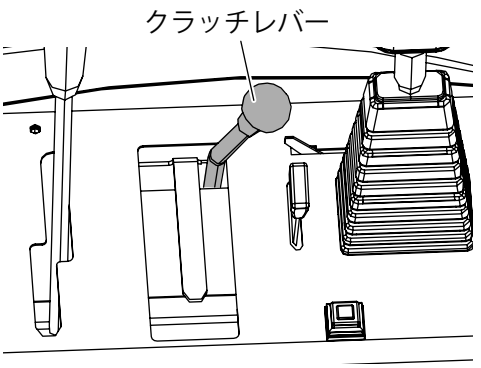
収穫部昇降レバーロックを「ロック」位置にしていても、長時間放置すると収穫部は少しずつ降下します。

＊ 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

■ 走行クラッチ

収穫作業時以外の走行で使用します。

1 クラッチレバーを走行クラッチ側にします。



2 クラッチレバーを動かして、動力の「入」「切」を行います。

- 手前に引くと「切」、前方に押すと「入」になります。手順❶の図は「入」の状態です。

■ 作業クラッチ

収穫作業時に使用します。

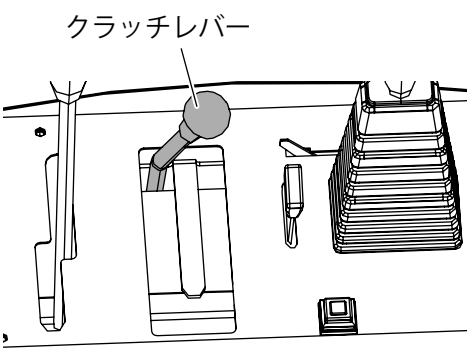
⚠警 告

必ず実行

作業クラッチを「入」にするときは、必ず副変速レバーが「低速（作業）」になっていることを確認してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 クラッチレバーを作業クラッチ側にします。



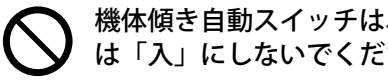
2 クラッチレバーを動かして、動力の「入」「切」を行います。

- 手前に引くと「切」、前方に押すと「入」になります。手順❶の図は「入」の状態です。
- 作業クラッチを入れると、走行と収穫部・搬送部が同時に動きます。

■ 機体傾き自動スイッチ

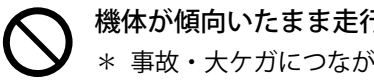
機体傾き自動制御の「入」「切」を行います。

⚠警 告


禁止

機体傾き自動スイッチは、収穫作業以外では「入」にしないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意


禁止

機体が傾向いたまま走行しないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

機体が水平であることを確かめてから、機体傾き自動制御を切ってください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

副変速レバーを高速位置にするときは、機体を水平にしてから行ってください。
副変速レバーを高速位置にすると、機体傾き自動ランプは点灯したままで自動制御状態が解除されます。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

収穫作業は、次の手順で行います。

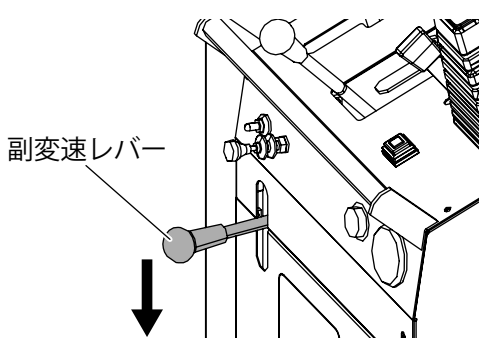
1 **エンジンを始動します。**

- エンジンを始動する度に、機体傾き自動スイッチの操作をしてください。

お知らせ

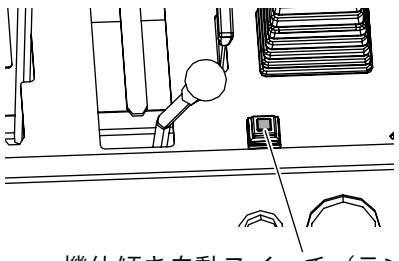
- 機体が左右に 8°以上傾くと、機体傾き自動スイッチが「入」の状態でも水平になりません。

2 **副変速レバーを下にして「低速（作業）」にします。**



3 **機体傾き自動スイッチを押します。**

⇒ 機体傾き自動スイッチのランプが点灯し、自動制御状態になります。

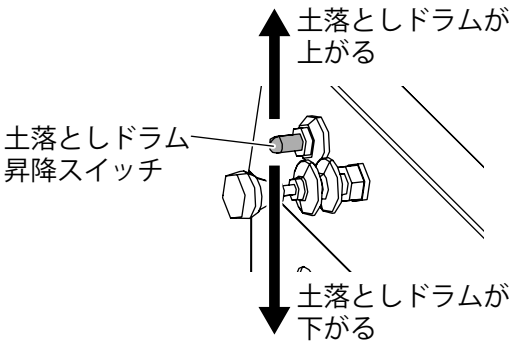


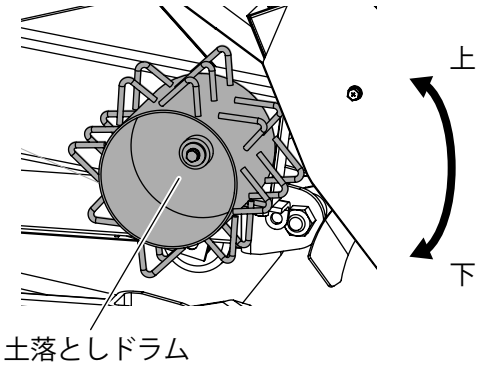
お知らせ

- エンジンスイッチを「STOP」にすると安全のため機体傾き自動スイッチのランプが消灯し、自動制御状態は停止します。

■ 土落としドラム昇降スイッチ

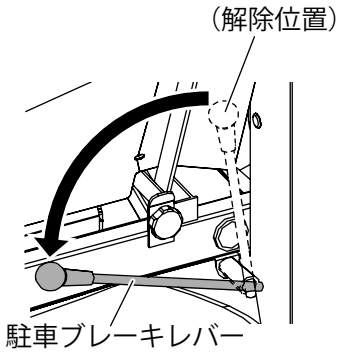
土落としドラムの高さを調整します。





■ 駐車ブレーキレバー

駐車ブレーキレバーを後方に倒すと、駐車ブレーキが入ります。



取扱上の注意

- 走行する前には、必ず駐車ブレーキレバーが解除されていることを確認してください。

■ アワメータ

使用時間を示すメータです。エンジンスイッチを「ON」にすると作動します。
時間表示は最小桁が 1/10 時間です。

お知らせ

- エンジンを停止した場合、エンジンスイッチを必ず「STOP」にしてください。
  「ON」状態のままにしていると、メータが積算されます。

移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を以下に示します。
よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

圃場への出入り

⚠危 険

禁止

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は乗車しないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

圃場に入るときは、必ず速度を下げて、掘取りコンベアを地面と接触しない程度に下げて、圃場に対して直角に進んでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

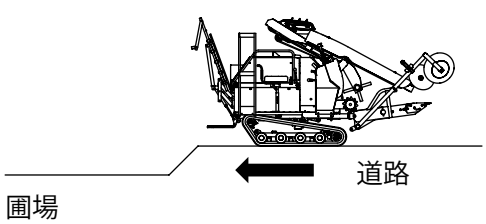
必ず実行

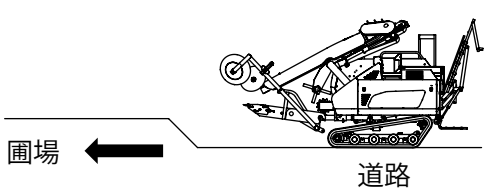
圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ってください。

また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出てください。

機械は構造上、重心が前にあります。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。





必ず実行

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

移動

⚠危 険

禁止

高速運転時、急発進・急ブレーキ・急旋回はしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

傾斜地では、機体傾き自動スイッチを絶対に「入」にしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

ブザーが鳴るような傾斜地では、転倒の危険があるので走行しないでください。

機械には、傾斜警報装置が装備されています。

一定角度（約 14°）以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせます。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

ブザーが鳴ったら作業を中止し、機械が水平になる場所に移動してください。

機械が水平になるとブザーは止まります。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地での走行は、速度を下げ安全に運転してください。平坦地に比べ、特に危険です。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地の上りは前進で行い、下りは後進で走行してください。

機械は構造上、重心が前にあります。

収穫部を降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地や悪路では機械に乗車せず、歩きながら運転してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

運転のしかた

ここでは運転のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

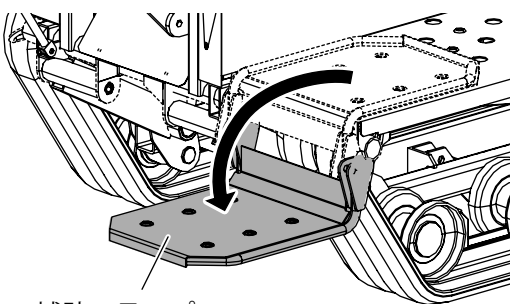
乗車について

⚠警 告

禁止

運転席以外の場所には乗車しないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 補助ステップを後方に開きます。

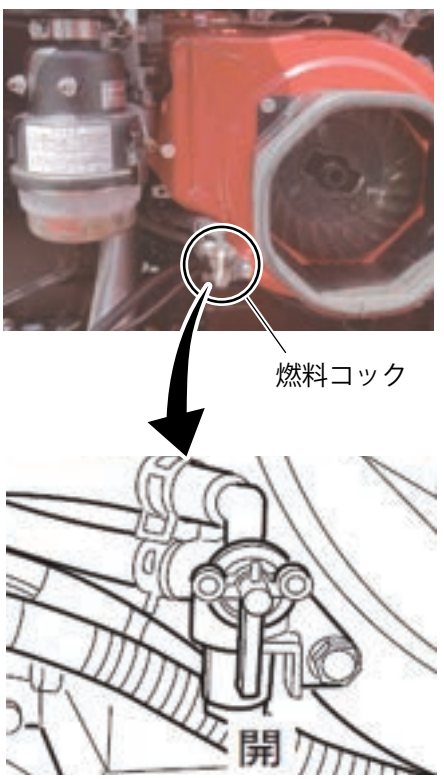


2 テスリを持ち、補助ステップを使用して乗車します。

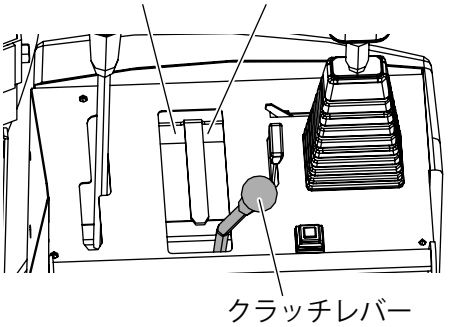
運転について

始動のしかた

1 燃料コックを「開」にします。



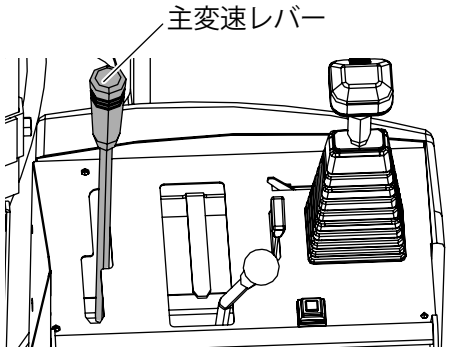
2 作業クラッチ、走行クラッチを「切」にします。



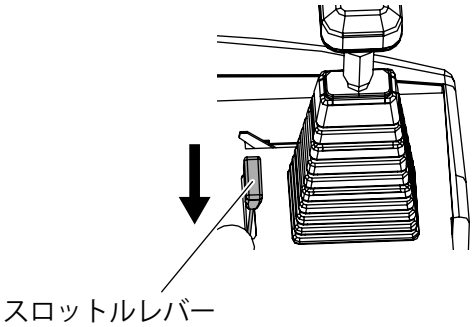
お知らせ

- クラッチが「切」になっていないと、スタータが作動しない構造となっています。

3 主変速レバーを「中立」位置にします。

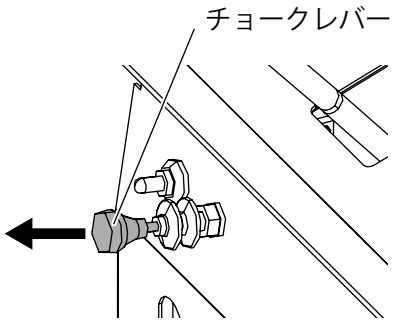


4 スロットルレバーを図のように「低速」から「高速」の方向に約 1/3 開いた位置にします。



5 チョークレバーを引きます。

- 寒いときやエンジンが冷えているときは、いっぱいに引いてください。
- 暖かいときや運転停止直後に再始動するときは、半分引くか、もしくは引かないでください。



6 エンジンスイッチを「START」位置に回します。

取扱上の注意

- スタータは大電流を消費します。10 秒以内で始動しない場合は、一度エンジンスイッチを「STOP」位置に回して、1 分以上休止してから再度始動させてください。

7 エンジン始動後、チョークレバーを戻します。

- チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に戻し、最後には必ず完全に戻してください。

発進のしかた

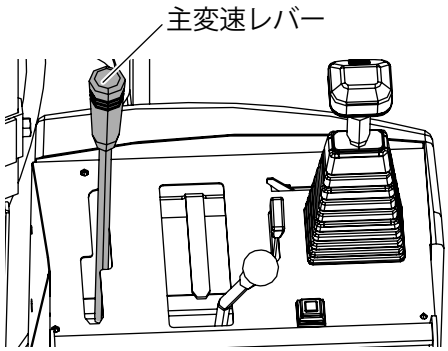
⚠ 注 意

必ず実行

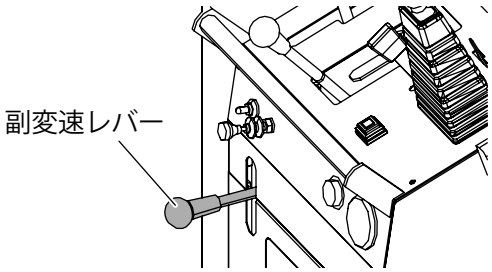
副変速レバーが「高速」の位置にある場合は、必ず主変速レバーを「中立」位置にしてください。

＊ 急発進して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

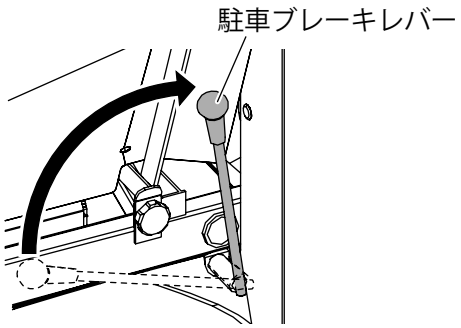
1 主変速レバーを「中立」位置にします。



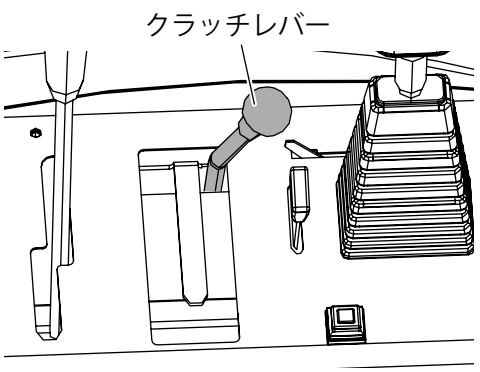
2 副変速レバーを「低速」または「高速」にします。（「■変速レバー」（→ p.15））



3 駐車ブレーキレバーを前方に倒して、駐車ブレーキを解除します。



4 クラッチレバーを走行クラッチ側にして「入」にします。



5 主変速レバーを進む方向にゆっくり倒します。（「■変速レバー」（→ p.15））

走行のしかた

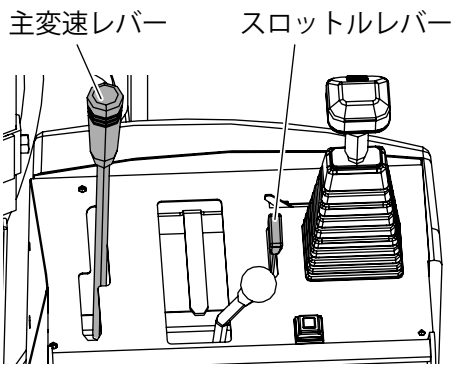
⚠ 警 告

禁止

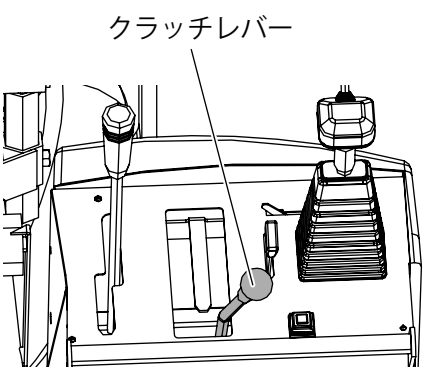
傾斜地では、副変速レバーの「高速」「低速」への切り換えは絶対にしないでください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 走行中は、主変速レバーとスロットルレバーで速度を調整します。

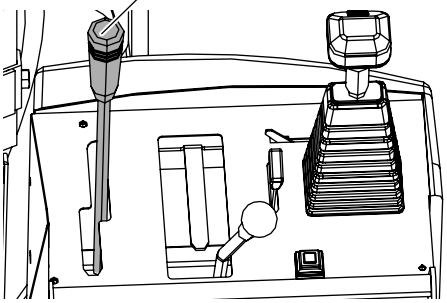


2 副変速レバーの「高速」と「低速」の切り換えは、走行クラッチを「切」にした状態で行ってください。

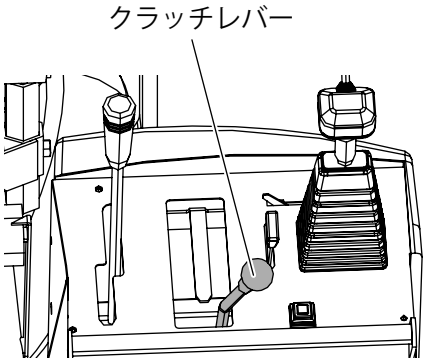


停止のしかた

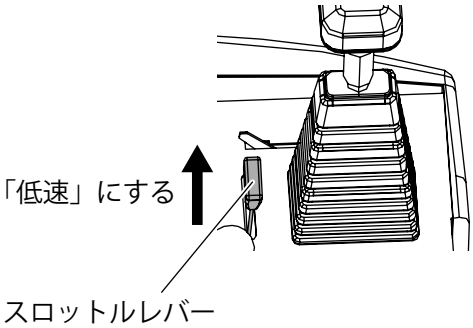
1 主変速レバーを「中立」位置にします。



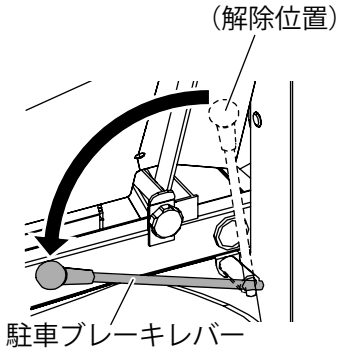
2 走行クラッチを「切」にします。



3 スロットルレバーを「低速」にして、エンジンスイッチを「STOP」にします。

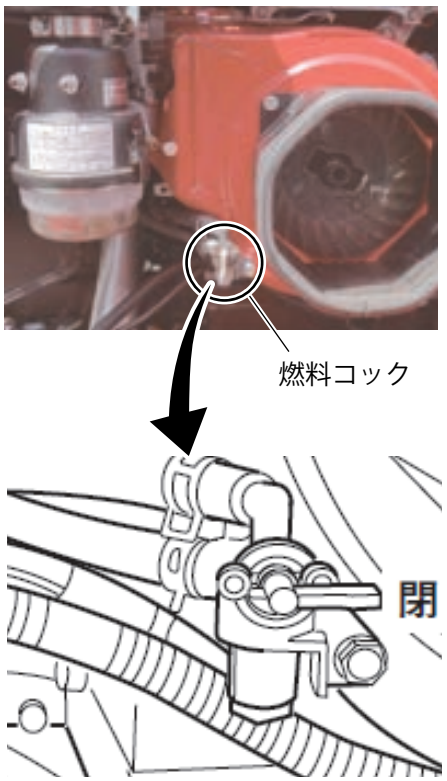


4 駐車ブレーキレバーを後方に倒して、駐車ブレーキを入れます。



5 キーを抜きます。

6 燃料コックを「閉」にします。



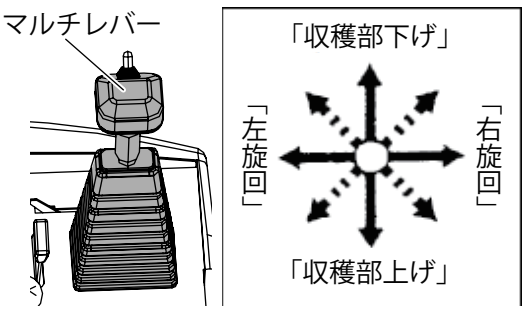
旋回のしかた

⚠危 険	
必ず実行	**旋回する場合は、機体の前後左右に十分注意して行ってください。** **特にその場旋回のときは、後方が大きく動くので後方の確認を十分に行ってください。** ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	**その場旋回をする場合は、必ず「低速」に切り換えて行ってください。** ＊「高速」でのその場旋回は、大変危険な上、機械にも大きな負担がかかり、故障の原因となります。

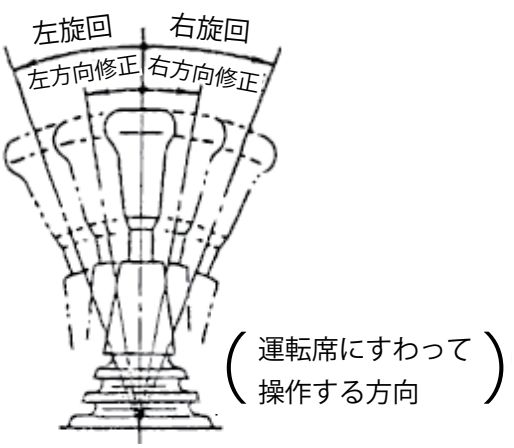
1 副変速レバーを「低速」にします。
（「■変速レバー」（→ p.15））

- 副変速レバーを「高速」で使用する場合は、ゴムクローラが逆転しない程度にマルチレバーを軽く倒して大きく回ってください。小さく回る必要がある場合は、副変速レバーを「低速」にしてから、その場旋回（スピンターン）を行ってください。

2 旋回したい方向にマルチレバーを倒します。



- マルチレバーは軽く倒すとクラッチが切れ、それから旋回用ブレーキが効き始めます。
- 強く倒すと、ブレーキが完全にロックされ片側のゴムクローラが逆転して、その場旋回（スピンターン）となります。
- レバーの倒し量に応じて、緩やかな方向修正からその場旋回まで、条件に合わせて操作してください。
- 緩やかな方向修正の場合は、左・右へ軽く倒してください。
- その場旋回の場合は、左・右いっぱいに倒してください。



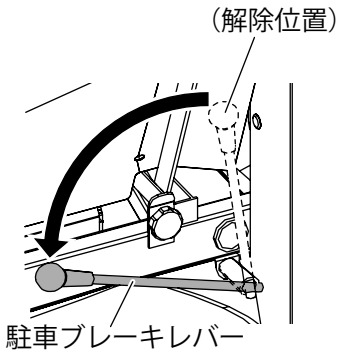
傾斜地の駐車

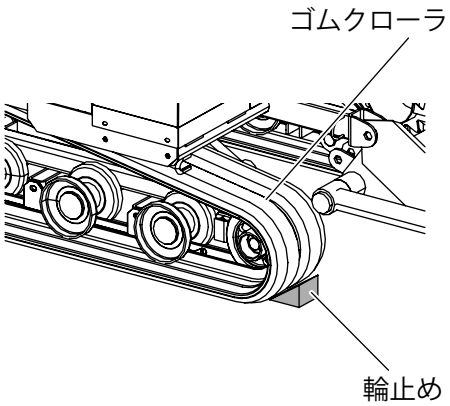
⚠警 告

必ず実行

傾斜地に駐・停車するときは、駐車ブレーキをかけ、ゴムクローラに輪止めをしてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。





トラックへの積み・降ろし

⚠危 険

必ず実行

トラックへの積み・降ろしをするときは、ゴムクローラの土を除去してください。

ゴムクローラに土が付着すると滑りやすくなり危険です。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

基準に合った滑り止め付きアユミ板を使用してください。

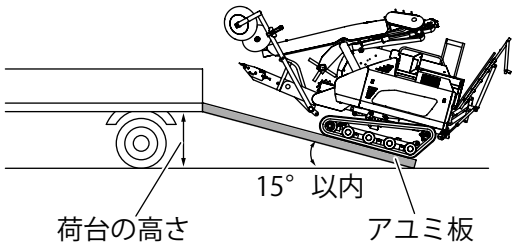
＊ 転倒して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠危 険

必ず実行

アユミ板は傾斜が 15°以内またはトラックの荷台高さの 3.5 倍以上の長さのものを使用してください。

傾斜がきつくなると大変危険です。



＊ 転倒して事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 トラックが移動しないよう、しっかりとブレーキをかけます。

2 丈夫な滑り止め付きのアユミ板を、ゴムクローラのドレッドに合わせ、確実に固定します。

アユミ板推奨基準仕様

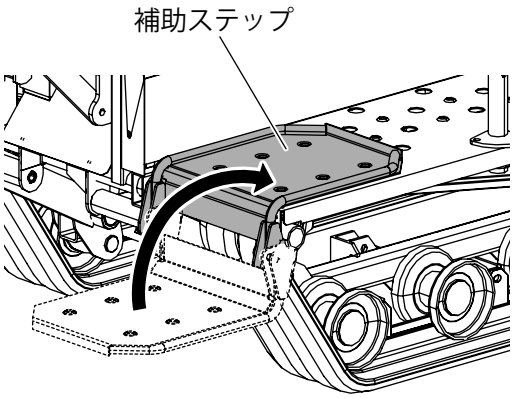
全長（mm）	トラックの荷台の高さの 3.5 倍以上
全幅（mm）	380mm 以上
数量	2 枚
最大積載質量（kg）	2 枚組で 1500kg 以上

3 周囲に人がいないことを確認します。

4 HGX100 の場合は、後方の昇降コンテナ台とカラコンテナ台を折りたたみます。（→ p.29 ～ 31）
HGX100F の場合は、固定コンテナ台を取外します。（→ p.31）

5 収穫部は前後のバランスを見ながらアユミ板に接触しない程度に持ち上げます。前後のバランスを見ながら、持ち上げ量を調整します。

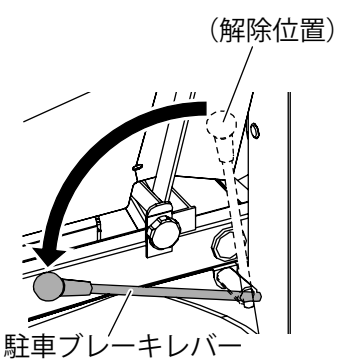
6 補助ステップを格納します。



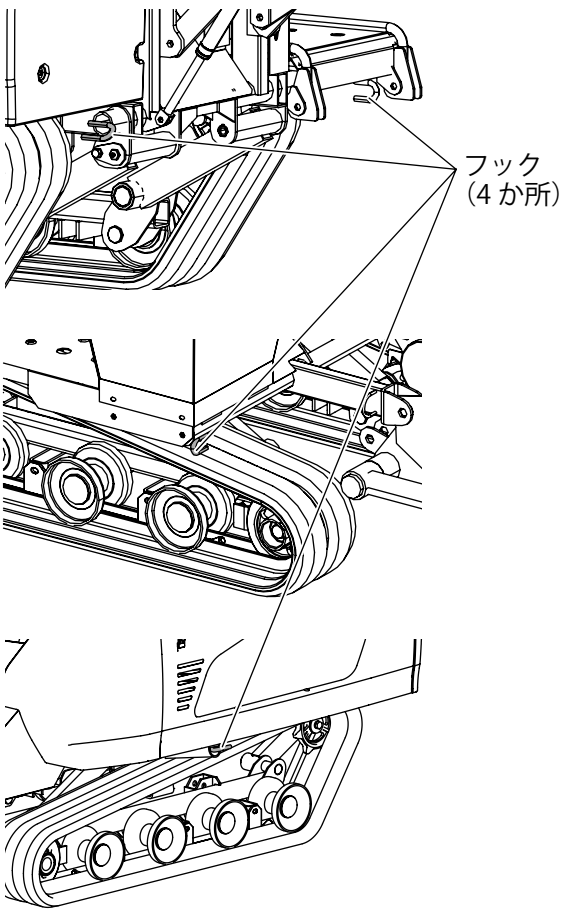
7 機械をアユミ板にまっすぐ合わせ、「低速」で積み込みをします。

⚠警 告	
禁止	副変速レバー「高速」での積み込み、積み降ろしは絶対にしないでください。 ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
禁止	アユミ板の途中で方向を変えたり、停止したりしないでください。 ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	積み込みは必ず「前進」で、積み降ろしは必ず「後進」で行ってください。 機械は構造上、重心が前方にあります。 ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

8 積み込みが終わったら駐車ブレーキレバーを後方に倒して、駐車ブレーキを入れます。



9 機械のフックにロープをかけてしっかりと固定します。



10 積み降ろしについては、積み込みと同じ要領で行います。

圃場への出入り

⚠危 険

禁止

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は乗車しないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠警 告

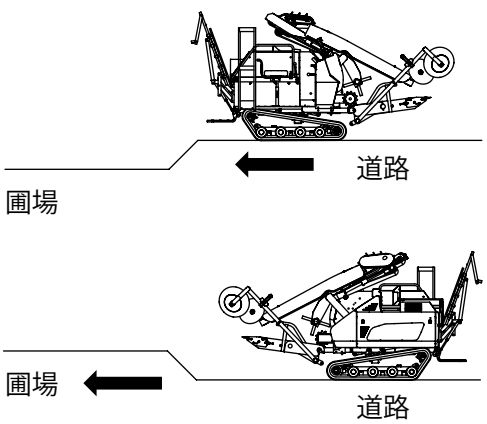
必ず実行

傾斜地や高い段差、溝ごえなどの場合は、必ずアユミ板を使用してください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 **圃場に入るときは、必ず速度を下げて、圃場に対して直角に進みます。**

- 掘取りコンベアを地面と接触しない程度に下げてください。

2 **圃場が道路より低い場合は後ろから、道路より高い場合は前から入ります。**
また出るときは、圃場が道路より低い場合は前から、道路より高い場合は後ろから出ます。
機械は構造上、重心が前にあります。



傾斜地での走行

⚠危 険

禁止

傾斜地では、機体傾き自動スイッチを絶対に「入」にしないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

ブザーが鳴るような傾斜地では、転倒の危険があるので走行しないでください。
機械には、傾斜警報装置が装備されています。
一定角度（約 14°）以上の傾斜になるとブザーで危険を知らせます。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

ブザーが鳴ったら作業を中止し、機械が水平になる場所に移動してください。
機械が水平になるとブザーは止まります。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

傾斜地や悪路では機械に乗車せず歩きながら運転してください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 **傾斜地での走行は、速度を下げ安全に運転します。**

- 平坦地に比べ特に危険です。

2 **前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行します。**

- 高速運転時、急発進・急ブレーキ・急旋回はしないでください。

3 **傾斜地の上りは前進で行い、下りは後進で走行します。**

- 機械は構造上、重心が前にあります。
  収穫部を降ろし、重心を下げるのも安全走行の有効な手段です。

作業の準備

ここでは作業の準備について詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

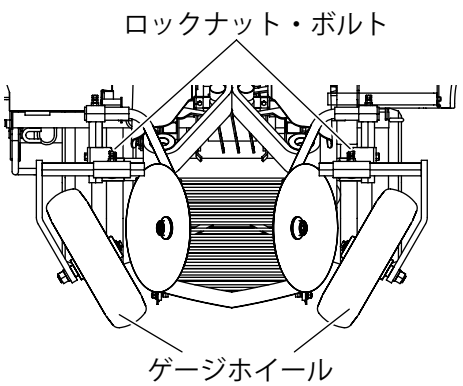
各部の調整

ゲージホイール

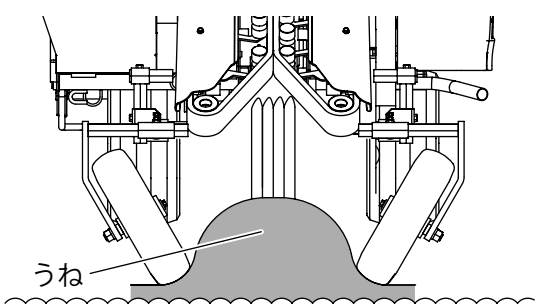
ゲージホイールは、掘取り深さの安定と機械をうねに沿って自動走行させる働きをします。必ずうね幅に合わせて取付け幅を調整してください。

■ 幅の調整

1 ゲージホイール左右スライド部のロックナット・ボルトを緩めます。



2 ゲージホイールの内側がうねの底の固い部分と同じになるよう左右均等に調整します。



3 ねぎがうねの中央にないときには、ゲージホイールを調整します。

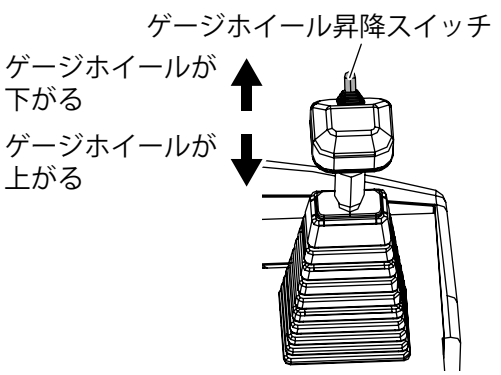
お知らせ

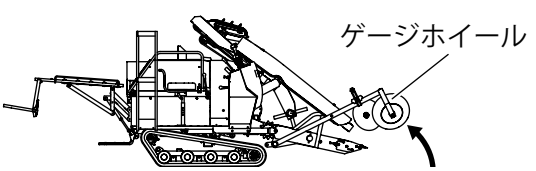
- ここでの調整は、収穫作業をするための準備で目安です。

4 調整後、ロックナット・ボルトで固定します。

■ 高さの調整

ゲージホイール昇降スイッチを前方に倒すとゲージホイールが下がります。
後方に倒すとゲージホイールが上がります。



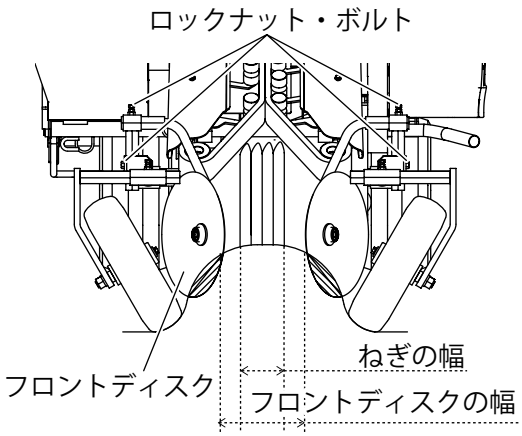


取扱上の注意

- 収穫作業をする前は、ゲージホイールを一番上まで上げてください。

フロントディスク

フロントディスクは、ねぎをベルトで挟持しやすくするために、うねの上部側面の土を取除く働きをします。必ずうねに合わせて調整してください。



1 **ロックナット・ボルトを緩めます。**

2 **フロントディスクは、ねぎの幅より広くし、ねぎを傷めない幅にします。**

3 **フロントディスクの深さはフロントディスク直径の 1/3 以内になるように調整します。**

お知らせ

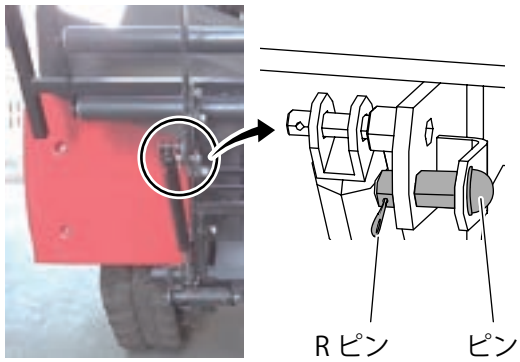
- ここでの調整は、収穫作業をするための準備で目安です。

4 **調整後、ロックナット・ボルトで固定します。**

昇降コンテナ台（HGX100）

昇降コンテナ台を次の手順で開いてください。

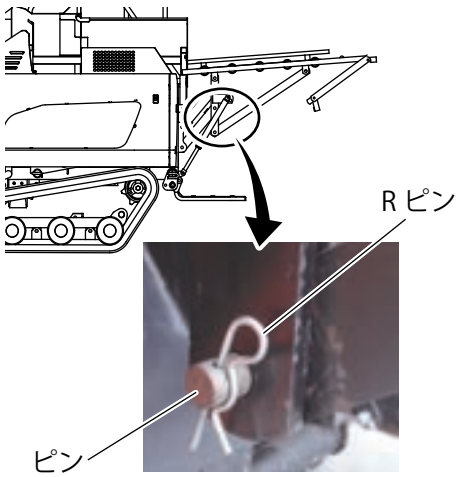
1 **ピンと R ピンの位置を確認します。**



2 **昇降コンテナ台を支えながら、ピンと R ピンを外し、コンテナ台ステーも外します。**

3 昇降コンテナ台を下げながら、コンテナ台ステーを下側ステーの固定穴に位置を合わせます。

4 位置を合わせたら、ピンと R ピンで固定します。



5 昇降コンテナ台を格納するときは、逆の手順で格納します。

カラコンテナ台（HGX100）

カラコンテナ台を次の手順で開いてください。

⚠注 意

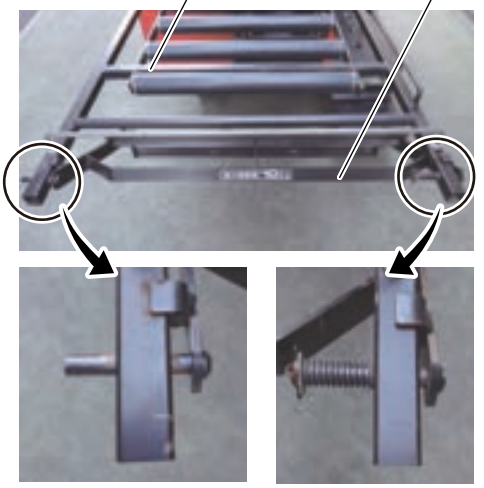
移動するときは、昇降コンテナ台とカラコンテナ台を格納してください。
必ず実行　＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります

各コンテナ台は最大積載量以下で前後左右バランスよく積んでください。
必ず実行　＊ 片荷での積載は破損の原因となります。

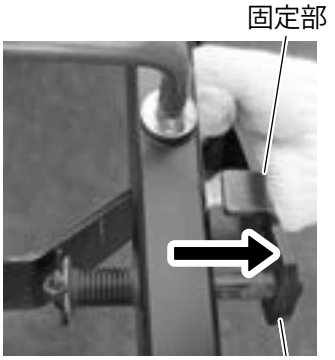
取扱上の注意

- 最大積載重量（昇降コンテナ台 100kg、カラコンテナ台 10kg）を超えないようにしてください。

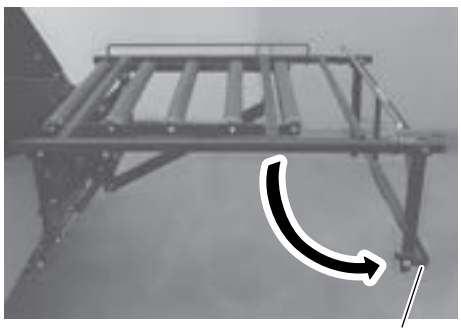
1 カラコンテナ台の固定位置を確認します。



2 カラコンテナ台支点部を横スライドさせ、昇降コンテナ台から固定を解除します。



3 カラコンテナ台を下方向へ回転します。

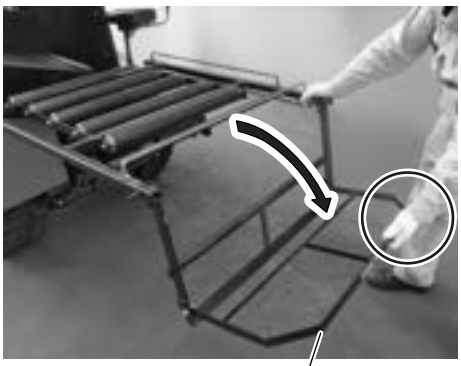


固定部は下図のような状態になります。

左側固定部

右側固定部

4 下図の部位を持ってカラコンテナ台を開きます。



⚠注 意

必ず実行 **カラコンテナ台は、図示した部位を持って開閉してください。**
＊ ケガにつながる恐れがあります

5 カラコンテナ台を格納するときは、逆の手順で格納します。

固定コンテナ台（HGX100F）

固定コンテナ台を次の手順で取付けてください。

⚠注 意

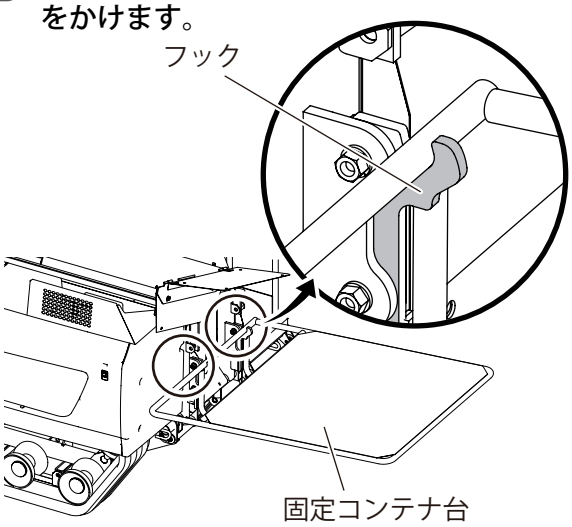
禁止 **固定コンテナ台には乗らないでください。**
＊ 転落してケガをする恐れがあります。

必ず実行 **移動するときは固定コンテナ台を取外してください。**
＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります

取扱上の注意

- 固定コンテナ台は最大積載量以下で、前後左右バランスよく積んでください。片荷での積載は破損の原因となります。

1 メインフレーム後方のフックにコンテナ台をかけます。



2 固定コンテナ台を矢印の方向に回転し、固定します。

3 固定コンテナ台を取外すときは、逆の手順で取外します。

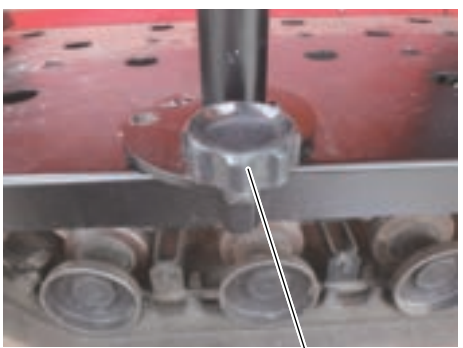
固定コンテナ台の使いかた

収容方法に合わせて、使用してください。

シート

■ 向きの調整

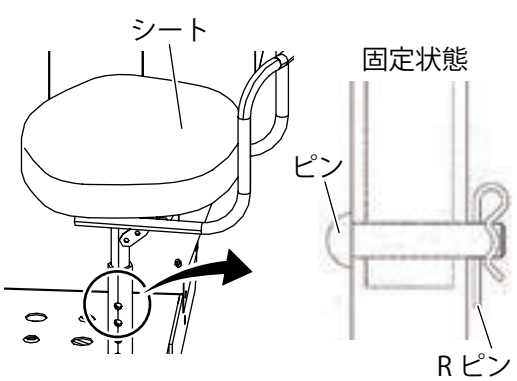
1 ノブボルトを外して、シートの向きを変更します。



2 変更した後は、必ずノブボルトで固定します。

■ 高さの調整

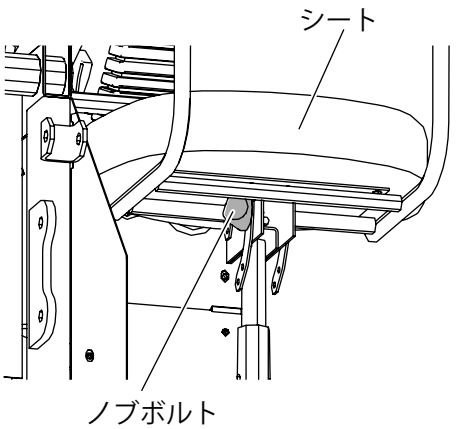
1 ピンと R ピンを外して、楽な作業姿勢になるようにシートの高さを調整します。



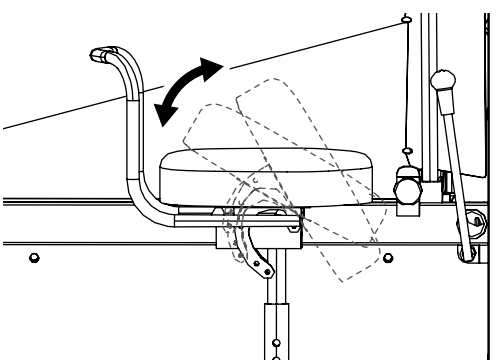
2 調整後は、ピンと R ピンで確実に固定します。

■ 角度の調整

1 ノブボルトを外して、シートの角度を調整します。



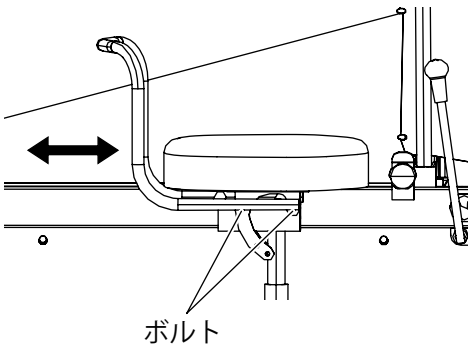
- 作業姿勢に合わせてシートの角度が通常の位置と傾いた位置とで 3 段階に調整できます。



2 調整後は、ノブボルトを締めて固定します。

■ 前後の調整

1 ボルトを外して、シートの前後の位置を調整します。

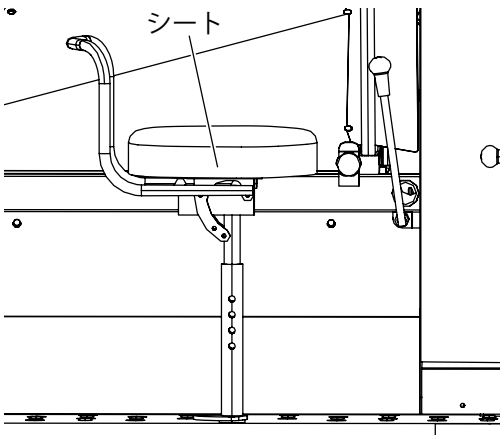


2 調整後は、ボルトで固定します。

■ 移動時

1 シートの向きを前方に向けます。（「■向きの調整」（→ p.32））

2 シートの角度を水平にします。（「■角度の調整」（→ p.32））

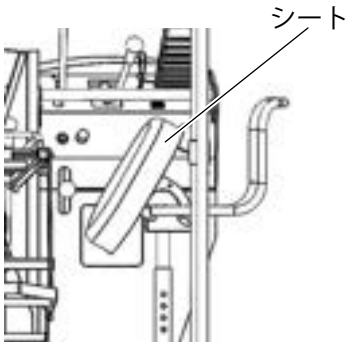


■ 作業時

1 ピンと R ピンを外して、シートの向きを作業台側に向けます。（「■向きの調整」（→ p.32））

2 変更した後は、ピンと R ピンで確実に固定します。

3 シート高さおよびシートの角度を、作業者に合う位置に合わせます。（「■角度の調整」（→ p.32））



作業時の基本姿勢

4 作業時は、しっかりとシートに体を保持させます。

⚠ 警 告

作業位置から離れるときは、必ず機械の走行を止めてください。

必ず実行 ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作物と圃場の条件

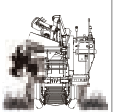
作物の条件や圃場の条件によっては、正常な収穫作業ができないことがあります。
作業前に作物の状態や圃場の条件を確認してから作業してください。

⚠警 告

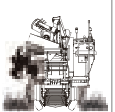
禁止
夜間は作業しないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行
エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺、うね周辺にある枯れたねぎや雑草などを取除くときは、必ずエンジンを停止させて行ってください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行
エンジン部分、マフラ周辺部、ベルトカバー内、バッテリ周辺に堆積している枯れたねぎや雑草などは、きれいに取除いてください。
＊ 火災が発生する恐れがあります。



必ず実行
収穫作業前は、うね周辺の枯れたねぎや雑草などを取除いてください。
＊ 火災が発生する恐れがあります。



作物の条件

機械の収穫に適する作物の条件は次のとおりです。

(a) 作物
白ねぎ（根深ねぎ）
うね立て栽培した白ねぎ
品種によっては収穫できないねぎがあります。
- 曲がりねぎ
- 下仁田ねぎ

お知らせ
- 腐り始めた作物、曲がった作物、病虫害にかかっている作物は収穫しないでください。

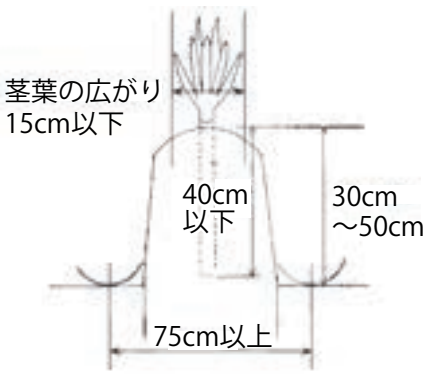
(b) 作物の水分
作物の葉の水分状態によっては正常な作業ができません。よく乾燥させてから作業してください。

取扱上の注意
- 雨天の日には作業しないでください。
機械の故障につながる恐れがあります。

圃場の条件

収穫に適する圃場の条件は次のとおりです。あくまで目安です。条件によっては収穫できないことがあります。

(a) 植付条件　：1 条
(b) うね間　：75cm 以上
(c) うね高さ　：30 ～ 50cm
(d) 圃場傾斜角度　：うね方向で 3° 以内

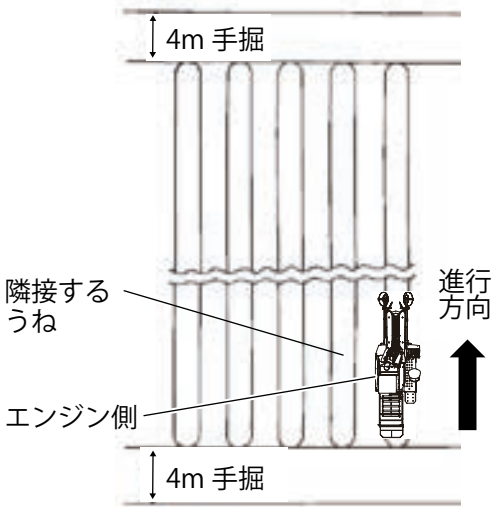


取扱上の注意
- 小石が多い圃場では作業しないでください。
小石が噛み込んでコンベアが外れたり、コンベアフレームが破損したりすることがあります。やむをえず作業する場合は、コンベアの外れがないか確認しながら作業してください。

お知らせ
- うね谷に水がたまっているときは、作業できないことがあります。事前に圃場の状態を確認してください。
- 気温が極端に低くなると、ねぎが割れやすく傷めることがあります。

枕地の確認と作業準備

収穫機の作業では圃場の両端に収穫機が旋回するための枕地が必要です。
あらかじめ圃場の両端約 4m を手などで掘取ってください。圃場の周囲が壁の場合は枕地が余計に必要です。



収穫作業は上図のように、機械の進行方向を隣接するうねが、エンジン側になるように作業することをお勧めします。
機械への乗り降りや、収穫したねぎの運搬が容易になります。

⚠注 意

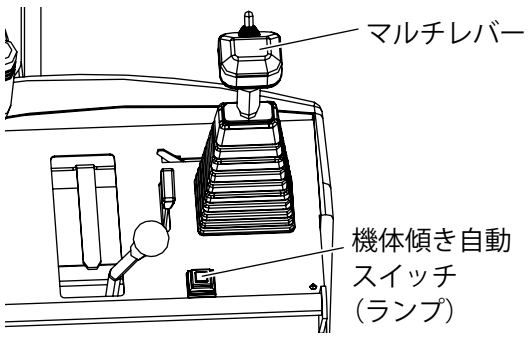
必ず実行

共同作業者との掘取り作業は、互いに合図をしながら安全を確認して、操作してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

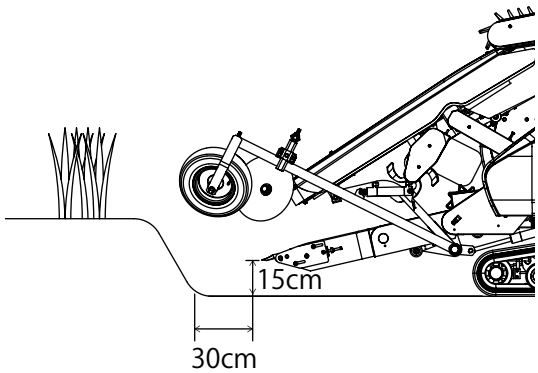
1 **機体傾き自動スイッチを「入」にします。**

⇒ 機体傾き自動スイッチのランプが点灯し、自動制御状態になります。

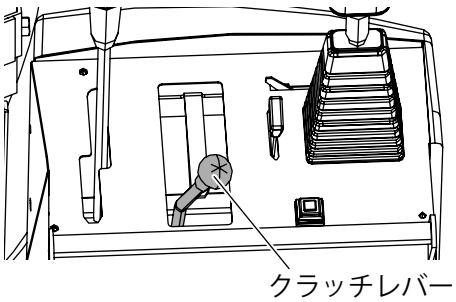


2 **作物のうね中心と、コンベアおよび挟持搬送ベルト中心が合うように圃場に入り、マルチレバーを前方に倒します。**

3 **コンベアを地面より 15cm の高さで止めます。**

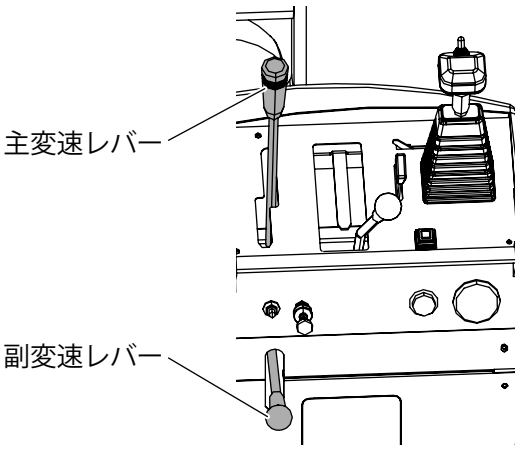


4 **掘はじめ手前約 30cm で作業クラッチレバーを「切」にして、一旦停止して作業の準備をします。**



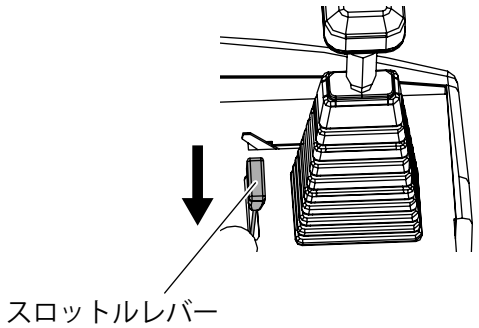
- 構造上クラッチレバーは、手を放すと走行側に戻ります。

5 副変速レバーを下げて「低速」に、主変速レバーを「中立」位置に合わせます。

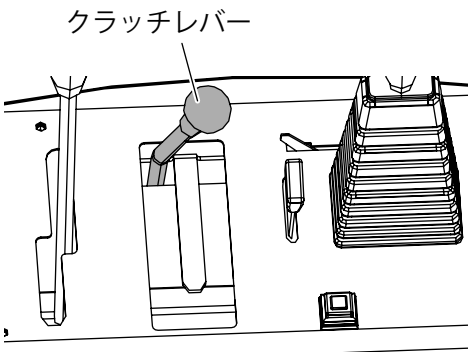


6 スロットルレバーを目安として「低速」から「高速」の方向へ約 1/2 ～ 2/3 開いた位置にします。

- 作業条件に合わせスロットルレバー位置を調整してください。



7 クラッチレバーを作業クラッチ側の「入」位置にします。



⇒ 作業の準備は完了です。

8 収穫作業を開始します。

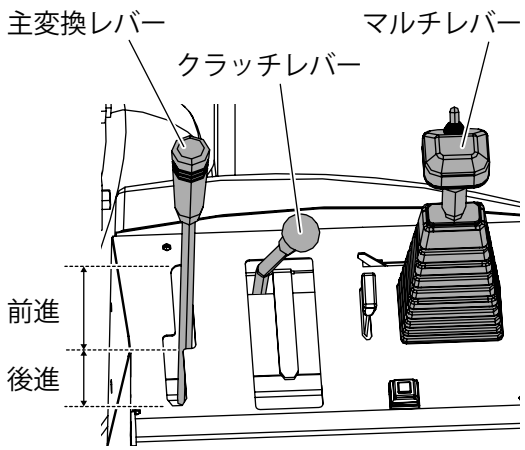
作業のしかた

ここでは作業のしかたについて詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

収穫作業

1 **クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒します。**

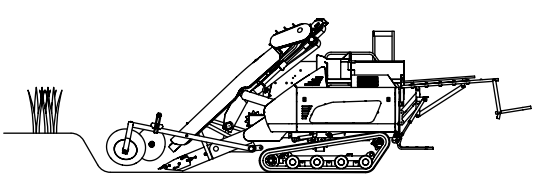
⇒ 収穫部の作動と同時に低速走行を開始します。



取扱上の注意

- 作業クラッチが「入」のときに、主変速レバーを後方側に倒すと作業クラッチが「切」に戻るようになっています。
- 主変速レバーが後進側になっているときは、作業クラッチは入りません。
  そのときに作業クラッチを無理に入れようとすると故障の原因になります。
  絶対に行わないでください。

2 **マルチレバーを前方に倒し、コンベア先端をうねに入れます。**



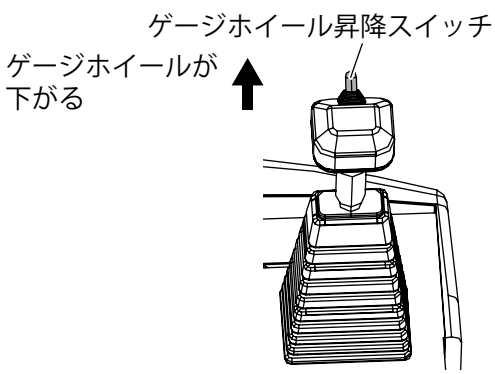
取扱上の注意

- エンジン回転がスロットル 1/2 より低いと、バッテリ充電ができなくなる恐れがあります。バッテリが放電し電圧が下がると、水平制御のコントローラが「OFF」状態となります。また HST に過負荷がかかり HST 故障の原因となります。
- コンベアを急にうねに入れすぎるとコンベアに無理な力がかかり、コンベアが止まったり、ゴムクローラがその場でスリップしたりします。ゆっくりと作業してください。

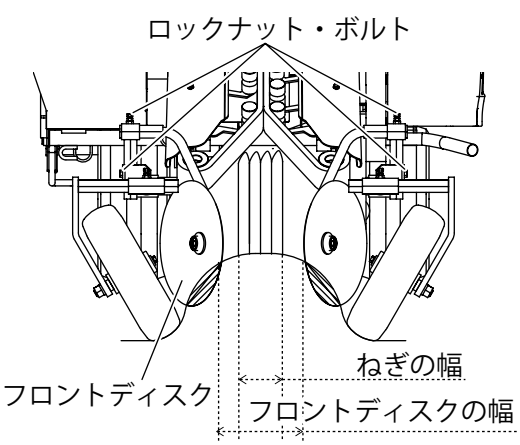
3 **コンベアがうねに入って機体が水平になり、掘取りシリンダが完全に縮まったら、マルチレバーから手を離し「中立」にします。**

4 **クラッチレバーを「切」にし、一旦停止します。**

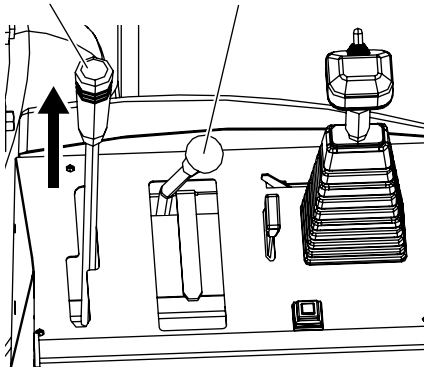
5 **ゲージホイール昇降スイッチで、ゲージホイールをうねの底につくまで下げます。そのとき、ゲージホイールの左右の位置を確認し、必要な場合は調整します。**



6 **フロントディスクがねぎを傷めずにうねの上部側面の土が取除けるように、フロントディスクの幅と高さを調整します。****（「フロントディスク」（→ p.29））**

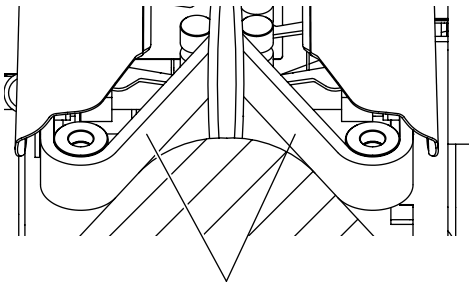


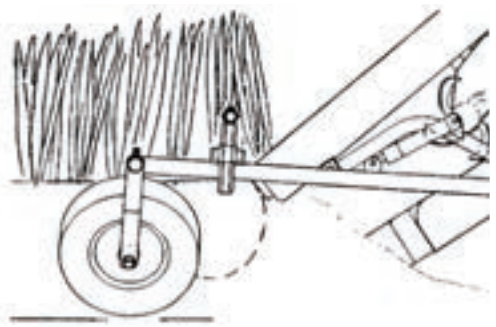
7 クラッチレバーを作業クラッチ「入」にし、主変速レバーを徐々に前進側に倒します。

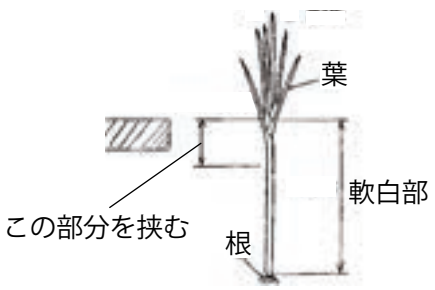


8 ゲージホイール昇降スイッチで、挟持搬送ベルトがねぎ軟白部を挟むように上下に調整します。

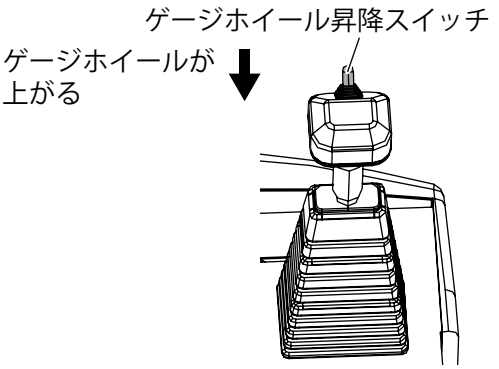
- 深く入れすぎると土を挟んでストップすることがあります。





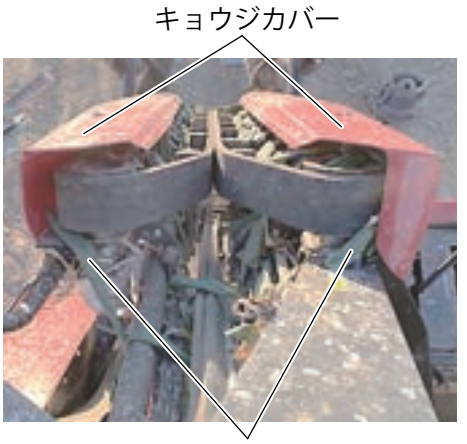


9 掘取り深さが浅く、ねぎを切るときには、ゲージホイール昇降スイッチでゲージホイールをわずかに上げて掘取り深さを深くします。

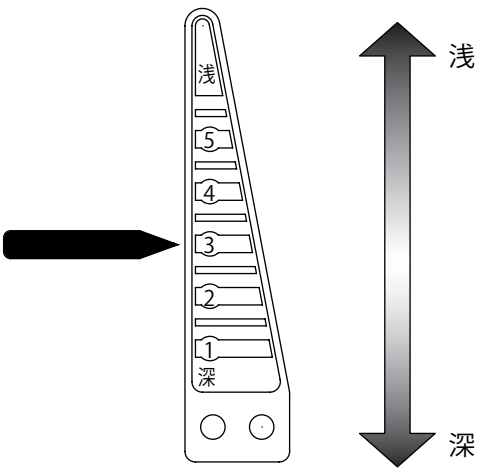


取扱上の注意

- 挟持搬送部後方に堆積した枯れたねぎや雑草などを定期的に掃除してください。
- 清掃後は必ずキョウジカバーを取付けしてから作業をしてください。

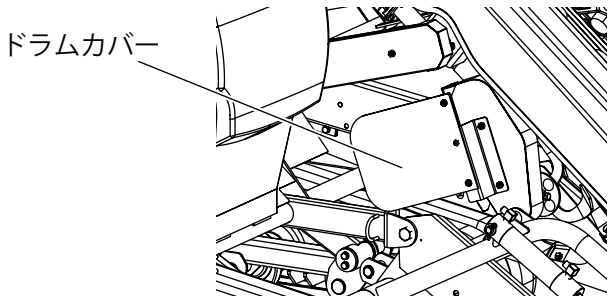


- 掘取り深さの目安として深さゲージを使用してください。



土落としドラムの高さ調整

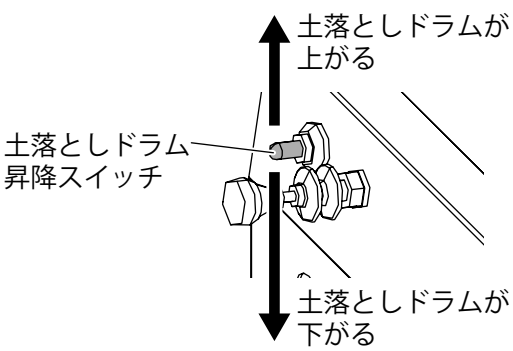
土落としドラムは、ねぎの根に付いた土を落とし、ねぎとねぎを分離する働きをします。



取扱上の注意

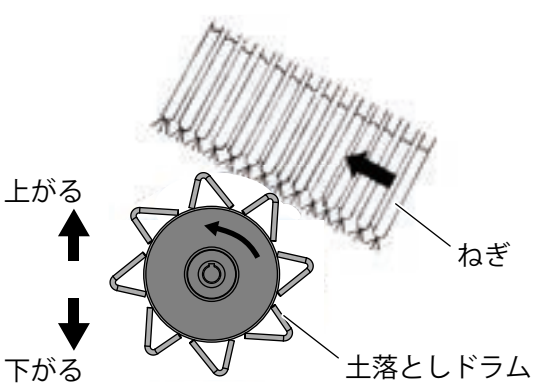
- 必ずドラムカバーが取付けされた状態で作業してください。

1 **ねぎの根に付いた土の具合に合わせて土落としドラム昇降スイッチで土落としドラムの位置を調整します。**



取扱上の注意

- 土落としドラムの高さは、ねぎを傷めないように調整してください。この作業は、その都度必要になります。
- 土落としドラムは消耗品です。
  消耗時は交換してください。（「消耗品一覧」（→ p.73））



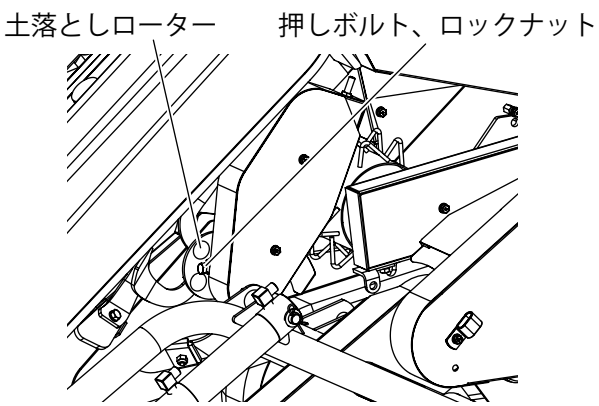
土落としローター

土落としローターは、コンベアで掘上げた土を砕いてねぎを搬送する働きと、ねぎの根に付いた土を落とす働きをします。

お知らせ

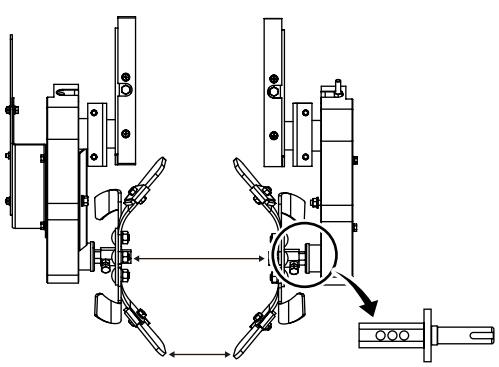
- 土落としローターの取付け位置は、最大幅位置にしています。

1 **ロックナットを緩めた後に、押しボルトを緩めます。（左右 1 か所ずつ、合計 2 か所）**



2 **土落としローターの取付け位置を必要な幅に調整し、押しボルトで固定します。**

- 3 段階の調整が可能です。



3 **押しボルトで固定後、必ずロックナットも固定してください。**

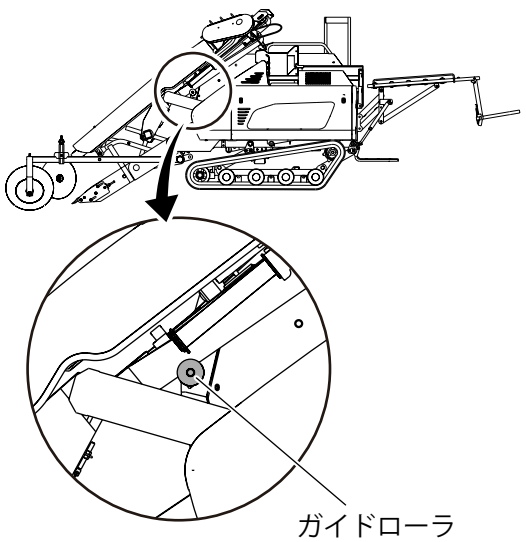
取扱上の注意

- 土落としローターとローターゴムは消耗品です。
  消耗時は交換してください。（「消耗品一覧」（→ p.73））

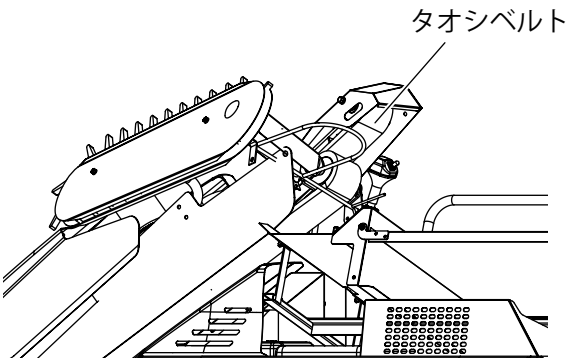
タオシベルト

1 **ガイドローラに付着した土や異物はこまめに除去します。**

- 土や異物をそのままにしておくと、ベルトの脱落や破損につながります。



2 **タオシベルトを調整します。（「整列搬送タオシベルトの張り調整」（→ p.58 ～ 59））**



3 **収穫作業が安定したところで収穫作業速度を主変速レバーとスロットルレバーで調整します。**
主に主変速レバーで調整します。（「■変速レバー」（→ p.15））

取扱上の注意

- ねぎを傷めない作業速度で収穫してください。

収容作業

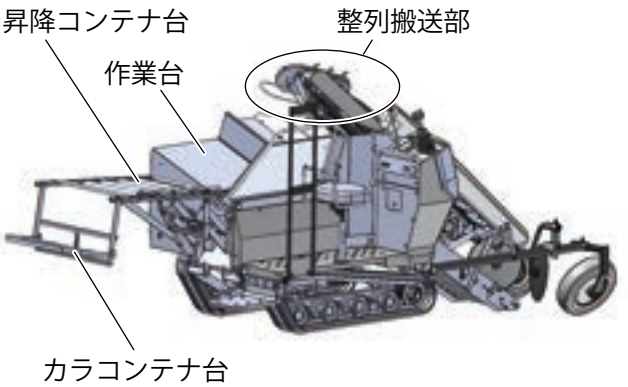
⚠注 意

禁止

整列搬送部に手を入れないでください。
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

禁止

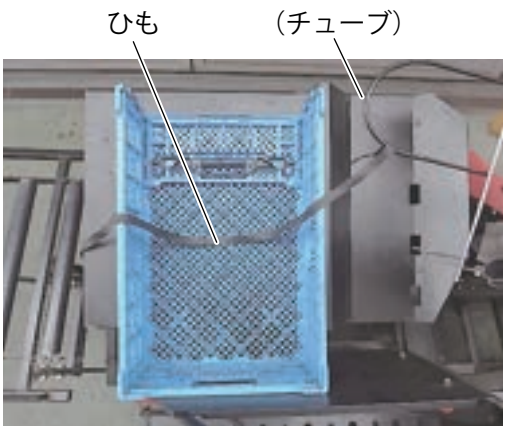
作業台には乗らないでください。
＊ 転落してケガをする恐れがあります。



1 **収穫されたねぎは、整列搬送部で横に倒されます。作業台のＶ形状のところに積み重ねられる形でストックできます。**

2 **ストックされたねぎは、あらかじめ作業台の上に用意したコンテナか収穫布または、ひもの上に載せ結束、または収容します。**

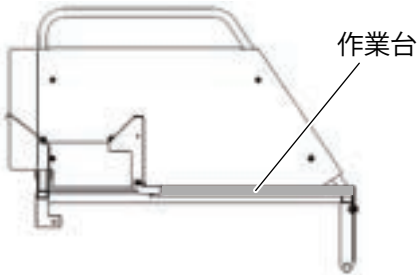
- 上記の収容方法はあくまで参考例です。
  収容方法に合わせて使用します。
  ひもを使用する場合は、写真のようにひもを配置します。



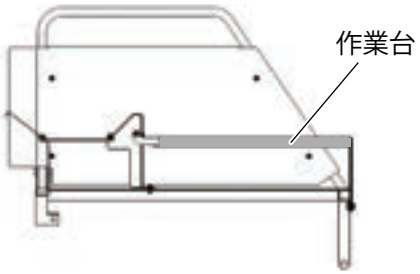
作業台

作業台は 2 段階の高さ調整が可能です。
収容方法に応じて高さを設定してください。

「低」位置の場合



「高」位置の場合



昇降コンテナ台・カラコンテナ台（HGX100）

昇降コンテナ台とカラコンテナ台の使用例を記載します。

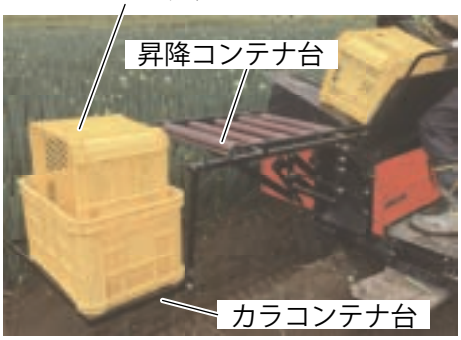
⚠注 意

禁止

昇降コンテナ台とカラコンテナ台には乗らないでください。
＊転落してケガをする恐れがあります。

■ 20kg コンテナの場合

1 **収容に使用するコンテナをカラコンテナ台に用意します。**

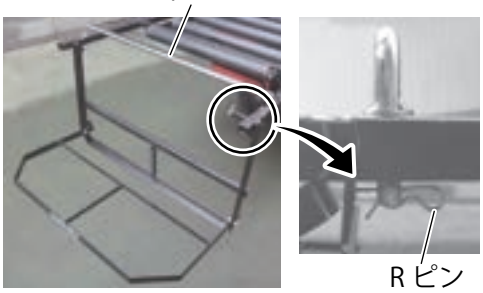


2 **コンテナにねぎを収容します。**

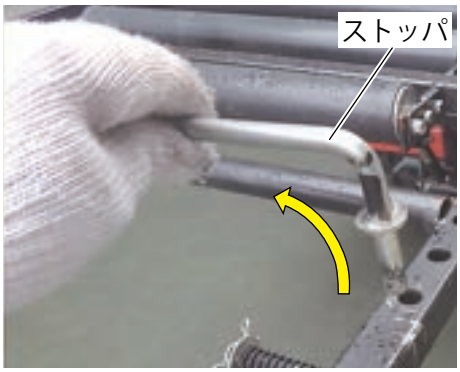
3 **昇降コンテナ台に載せて、後方へ移動させます。**

4 **昇降コンテナ台後方のストッパを解除します。**

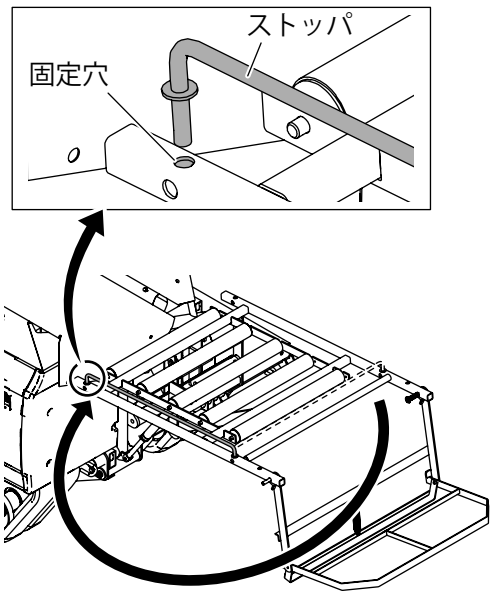
(1) ストッパ右側の R ピンを抜きます。



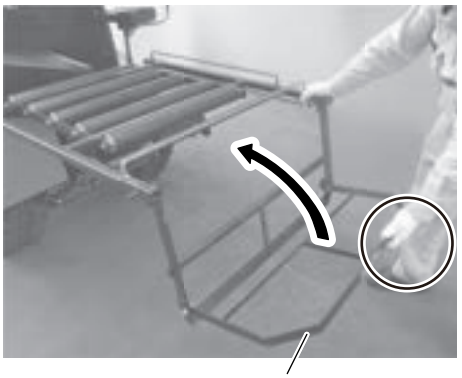
(2) ストッパを抜きます。



⑶ ストッパの左側を支点にしてストッパを回し、昇降コンテナ台左側の固定穴に差し込み固定します。



5 写真の丸で囲んでいる部位を持ってカラコンテナ台を閉じ格納します。
カラコンテナ台の格納方法は、「カラコンテナ台（HGX100）」（→ p.30 ～ 31）を参照してください。



⚠注 意

カラコンテナ台は、写真の丸で囲んでいる部位を持って開閉してください。

必ず実行　＊ ケガにつながる恐れがあります

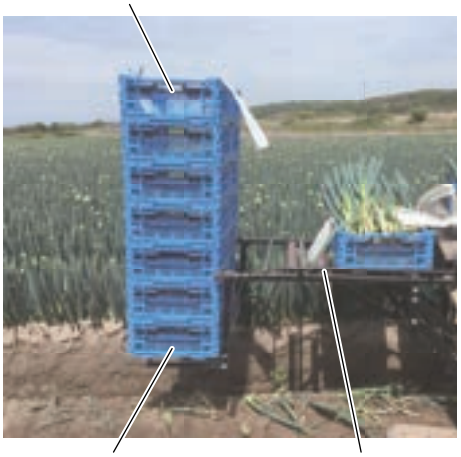
6 コンテナを昇降コンテナ台から降ろします。

7 積み降ろし後は、逆の手順で元に戻します。

■ 10kg コンテナの場合

1 作業台を「高」位置に設定します。（「作業台」（→ p.41））

2 収容に使用するコンテナをカラコンテナ台に用意します。



3 コンテナにねぎを収容した後、昇降コンテナ台に積み上げます。

（積載例）

- 2 列 3 段で積載します。

■ 収穫布の場合

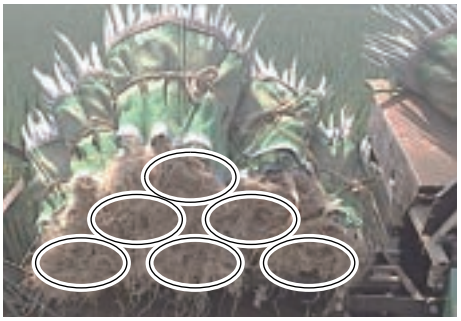
1 作業台を「高」位置に設定します。（「作業台」（→ p.41））

2 収容に使用する収穫布をコンテナに入れて、カラコンテナ台に用意します。

3 収穫布でねぎを収容した後、昇降コンテナ台に積み上げます。

（積載例）

- 3 列・2 列・1 列で 6 束積載します。



取扱上の注意

- 最大積載重量（昇降コンテナ台 100kg、カラコンテナ台 10kg）を超えないよう注意してください。
  積載オーバーすると、収穫部先端が持ち上がり、収穫作業に支障が発生します。

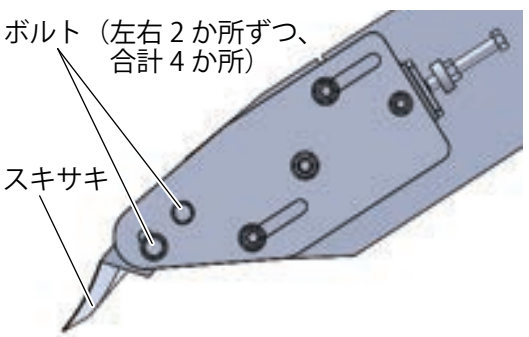
ワンポイントアドバイス

ここでは作業のコツについて詳しく記載しています。
作業中のトラブル時に参照してください。

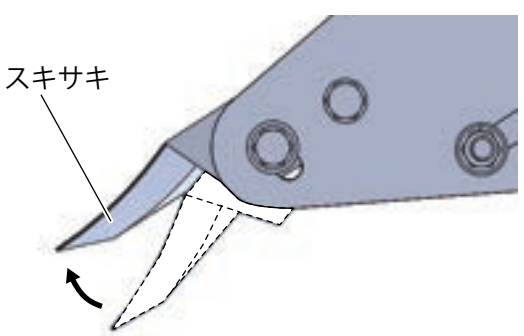
ゴムクローラが滑る

水分を多く含んだうねの条件ではゴムクローラが滑り、機械が進まなくなることがあります。
次の手順で対応してください。

1 スキサキを固定しているボルト（左右 2 か所ずつ、合計 4 か所）を緩めます。



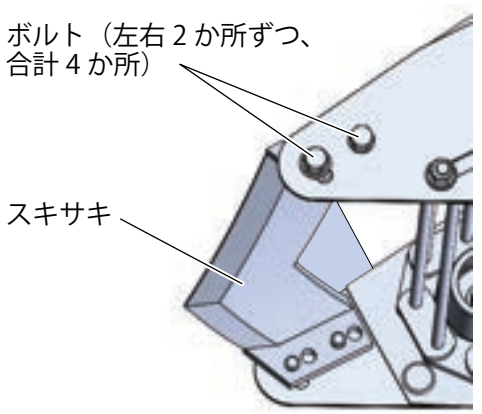
2 スキサキの角度を矢印の方向に調整します。



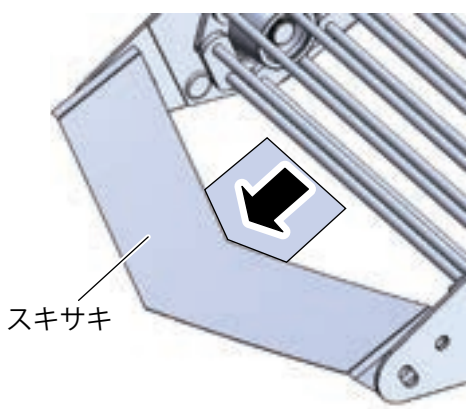
⇒ スキサキへの抵抗が少なくなり、うねの土を押さなくなります。

- 上記調整で、ねぎを切る場合は、手順**3** **4** の調整もしてください。

3 スキサキを固定しているボルト（左右 2 か所ずつ、合計 4 か所）を外します。

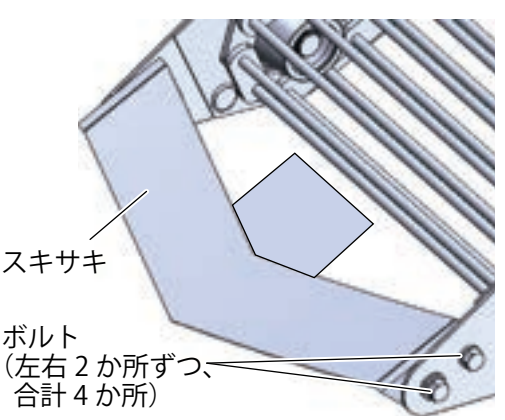


4 スキサキの位置を矢印の方向に調整します。2 段階の位置調整が可能です。



⇒ スキサキがうねに深く入るようになり、ねぎを切らなくなります。

5 スキサキをボルト（左右 2 か所ずつ、合計 4 か所）で固定します。



お知らせ

- ゲージホイールを下げて掘取り深さを浅くするのも有効です（「■高さの調整」（→ p.28））。掘取り深さは、浅くしすぎるとねぎを切ることがあります。

保守・点検

機械本来の性能を十分に、また長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。
また、故障を未然に防ぐため、機械の状態を常に知っておくことも大切です。

注意事項

⚠危 険

注意

燃料・オイルには火気を近づけないよう注意してください。

＊ 引火して火災が発生する恐れがあります。

⚠警 告

必ず実行

点検・整備・調整をするときは、交通の危険がなく、平坦な安定した場所で行ってください。

＊ 機械が転倒するなど、思わぬ事故の原因になります。

必ず実行

点検・整備をするときは、エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけ、各レバーを「切」位置にして、回転部分の停止を確認してから行ってください。

＊ 回転部に巻き込まれ重大な事故の原因になります。

必ず実行

カバーを取外して点検・整備したときは、必ずカバーを元の位置に取付けてください。

＊ 回転部に巻き込まれ重大な事故の原因になります。

必ず実行

掘取り部を上げて、点検・整備・調整をするときは、必ず収穫部昇降レバーロックを「ロック」の位置にして、掘取り部を固定してください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

必ず実行

室内で点検・整備をするときは、換気を十分に行ってください。

＊ エンジンの排気ガスで中毒を起こす恐れがあります。

必ず実行

複数で作業するときは、安全を確保するために、エンジンスイッチのキーを抜いてください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

点検・整備をするときは過熱部分が十分に冷めてから行ってください。

＊ 火傷をする恐れがあります。

保守・点検の準備

1. 機械を平坦な広い場所に駐車します。
2. エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけます。
3. 各レバーを「切」位置にし、回転部分の停止を確認します。
4. 掘取り部を上げて、点検・整備・調整をするときは、必ず収穫部昇降レバーロックを「ロック」の位置にして、掘取り部を固定してください。

保守・点検一覧表

No.	作業項目		周期								参照ページ
			作業前	作業後	50 時間（毎週）	200 時間（毎月）	1 年または 500 時間	随時	シーズンはじめ	その他	
1	燃料の点検・補充		○								p.48
2	エンジンオイルの点検	補充		○							p.48,50
		交換			○						p.51
3	各ボルトの緩み		○					○			p.49
4	各チェンへの注油		○					○			p.49
5	高温部からの枯れたねぎや雑草などの除去		○	○							p.49
6	パイプ・ホース類の点検・交換									2 年	p.49
7	エアクリーナの点検	清掃			○						p.54
		交換				○					p.54
8	燃料ストレーナの清掃					○					p.55
9	点火プラグの清掃					○				エンジン取説参照	-
10	スタータの清掃（エアブロー）				○						p.66
11	走行ミッションオイルの点検	補充							○		p.52
		交換								300 時間	p.52
12	HST 油圧オイルの点検・交換	補充						○			p.53
		交換					○				p.53
13	レベリングアーム支点部の点検グリス補給					○					p.57
14	コンベアの点検・調整							○			p.57
15	挟持搬送ベルトの点検・調整							○			p.58
16	整列搬送タオシベルトの点検・調整							○			p.58
17	ダンツキ V ベルトの点検・調整							○			p.59
18	挟持搬送部内部の点検・清掃			○							p.59
19	挟持搬送部後方の点検・清掃			○							p.59
20	整列搬送部内部の点検・清掃			○							p.60
21	収穫部駆動チェンの点検・清掃				○						p.63
22	挟持部駆動チェンの点検・清掃				○						p.63
23	土落としドラム駆動チェンの点検・調整				○						p.64
24	土落としローター駆動 V ベルトの点検・調整							○			p.64
25	土落としドラム支点部の点検グリス補給							○			p.66

No.	作業項目	周期								参照ページ
		作業前	作業後	50 時間（毎週）	200 時間（毎月）	1 年または 500 時間	随時	シーズンはじめ	その他	
26	リンクアーム支点部の点検 グリス補給						○			p.67
27	油圧ポンプテンションの調整						○			p.60
28	各ベルトの張り点検・調整						○			p.58,59 62,64
29	カウンタ V ベルトテンションの調整						○			p.62
30	バッテリの点検・充電								インジケータが黒色表記	p.55
31	各レバー支点部の点検・調整						○			p.63
32	ヒューズの点検・交換						○			p.65
33	駐車ブレーキレバーの点検・調整						○			p.65
34	各クラッチレバーの点検・調整						○			p.67,68
35	主変速レバー部プッシュプルケーブルの調整						○			p.69
36	昇降コンテナ台の点検						○			p.69
37	カラコンテナ台の点検						○			p.69

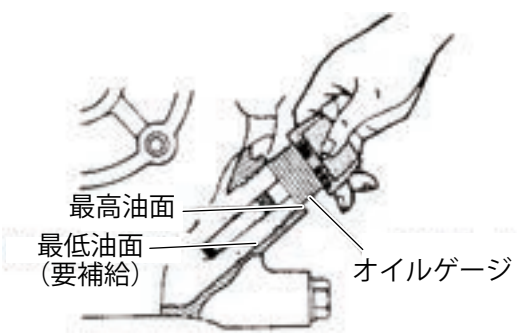
作業内容

エンジンオイルの量と汚れ

エンジンオイルが汚れていたり、少なかったり品質の悪いものを使用したりすると、エンジンの寿命を縮めます。
オイルゲージで規定量あるか調べてください。不足しているときは規定量まで入れてください。

取扱上の注意

- エンジンオイルは口もといっぱいまで入れてください。
- 補給後、オイルゲージを確実に締めてください。

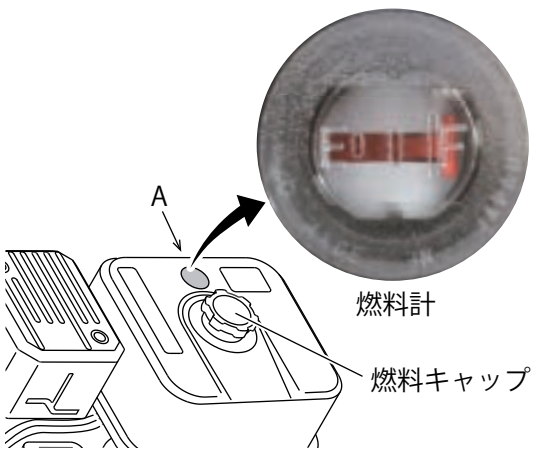


燃料の有無と油漏れ

⚠危 険	
禁止	**くわえタバコ、裸火照明は絶対にしないでください。** ＊引火して火災が発生する恐れがあります。
必ず実行	**燃料を補給するときは、エンジンを停止してください。** ＊引火して火災が発生する恐れがあります。
必ず実行	**燃料を補給するときは、燃料があふれないようにしてください。** **こぼれた場合は完全に拭き取ってください。** ＊引火して火災が発生する恐れがあります。

1 **燃料が満タンになっているか燃料計で確認します。**

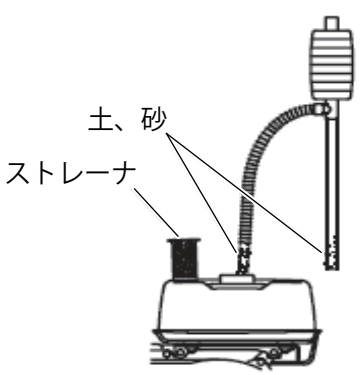
- 燃料計の写真は A の方から見た場合となります。
- 燃料計の「F」は満タン、「E」は空を表しています。



2 **不足している場合には、燃料キャップを外して、給油口より給油します。**

取扱上の注意

- 燃料タンク 給油口のストレーナを取外して給油しないでください。
- 携行缶の給油口や給油ポンプに土、砂などの異物が付着したままの状態で、給油しないでください。
  燃料タンクに土や砂などの異物が混入した場合、異物がキャブレターに到達すると、ニードル弁に引っ掛かり、燃料がオーバーフローすることがあります。



3 **補給後、燃料キャップを確実に締めます。**

4 **機械各部より燃料漏れのないことも確認します。**

各ボルトの緩み

以下のことを確認してください。

- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか。
  増し締めしながら確認してください。
- ピン類はすべてそろっているか。

各チェンへの注油

作業前には各チェンへ注油してください。（→ p.63）

⚠注 意

必ず実行

回転部などへ注油するときは、必ずエンジンを停止してください。

＊ 事故・ケガにつながる恐れがあります。

高温部からの枯れたねぎや雑草などの除去

⚠危 険

必ず実行

エンジンを始動する前にエンジンカバーを開け、高温部に枯れたねぎや雑草などが堆積していないか必ず確認し、あればきれいに取除いてください。

＊ マフラや排気管などの高温部に枯れたねぎや雑草などが堆積した状態で機械を運転すると、引火して火災が発生する恐れがあります。

必ず実行

エンジンの不調やマフラ断熱パイプなどが破損している場合は直ちに作業を中止し、修理してください。

＊ 枯れたねぎや雑草などが堆積して、火災が発生する恐れがあります。

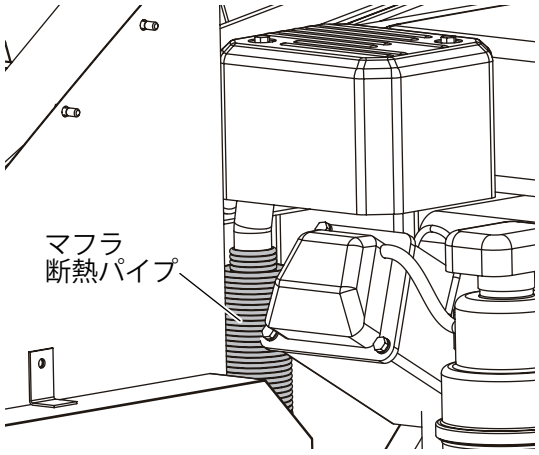
1 **始動前にエンジンカバーを開けます。**
（→ p.50）

2 **枯れたねぎや雑草などが高温部の近くにないか確認します。**

- 高温部の近くにある場合は、きれいに取除いてください。

3 **マフラ断熱パイプなどが破損していないか確認します。**

- 破損している場合は直ちに作業を中止し、修理してください。
  また、枯れたねぎや雑草などがマフラ周辺に堆積している場合は、きれいに取除いてください。冷却風の流れがさえぎられ、マフラが異常高温となり、引火する恐れがあります。



エンジンオイル漏れ点検

⚠ 警 告

必ず実行

エンジンオイル量、エンジンオイル漏れの点検は、必ずエンジンを停止させて行ってください。

＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

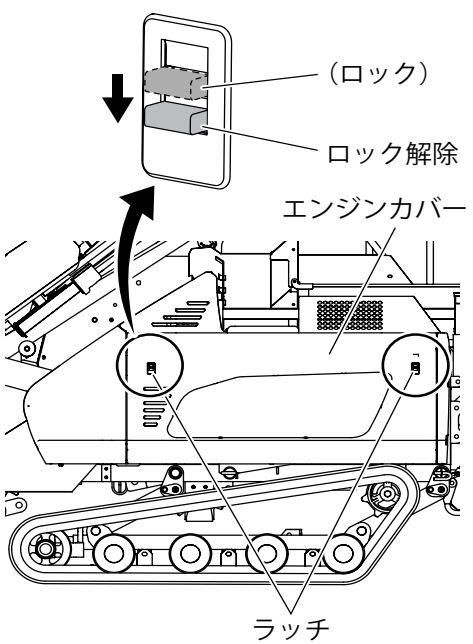
必ず実行

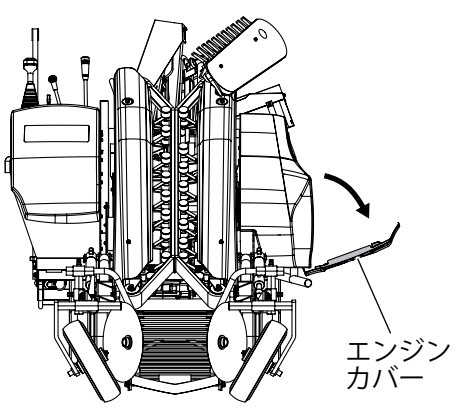
エンジンカバーを開いて点検するときは、以下のことを守ってください。

- 高温のためマフラおよびその付近に触れない
- HST のファンなど回転部に触れない
- 点検後、必ずエンジンカバーを元の位置に取付ける

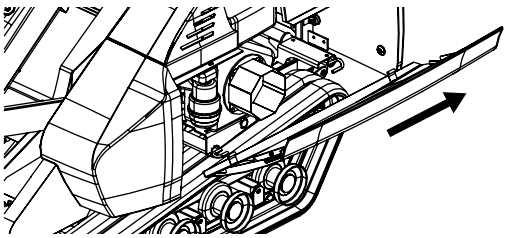
＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 ラッチ（2 か所）のロックを解除し、エンジンカバーを開けます。





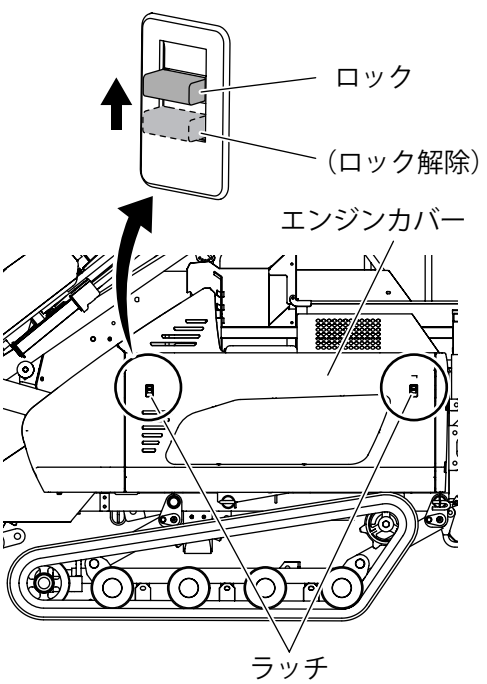
2 エンジンカバーを後方にずらし、必ず本体から外します。



3 エンジンオイル漏れを点検します。

4 エンジンオイル漏れ点検後、逆の手順でエンジンカバーを閉じます。

5 エンジンカバーを閉じた後は、必ずラッチ（2 か所）がロック状態であることを確認します。



エンジンオイルの交換

⚠警 告

必ず実行

機械稼働後は、エンジンオイルが冷えてからエンジンオイル交換を行ってください。

＊各部が高温になっているので、火傷をする恐れがあります。

⚠注 意

必ず実行

エンジンオイル交換は、必ずオイル受けを準備してから行ってください。

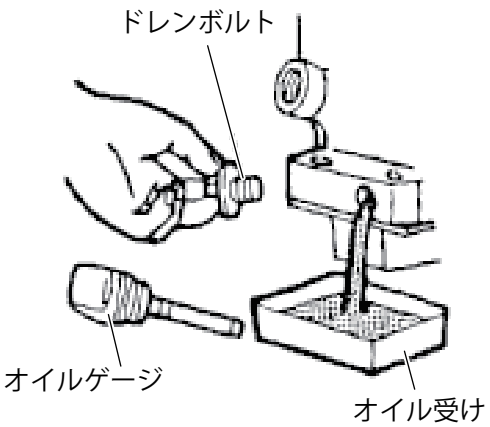
＊地面への垂れ流しや川への廃棄は、環境汚染につながります。

使用オイル	春～夏	SAE # 30
	秋～冬	SAE # 20
	年間	SAE 10W - 30
オイル量	約 1.0 L	

1 エンジンを停止します。

2 オイル受けをドレンボルトの下に準備します。

3 オイルゲージを取外します。



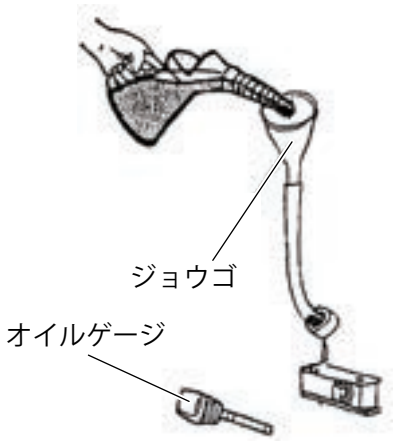
お知らせ

- オイルゲージを外しておくと早くオイルが抜けます。

4 エンジンオイルが冷えてからドレンボルトを外して、古くなったオイルを抜きます。

5 古くなったエンジンオイルを抜いたらドレンボルトを取付けます。

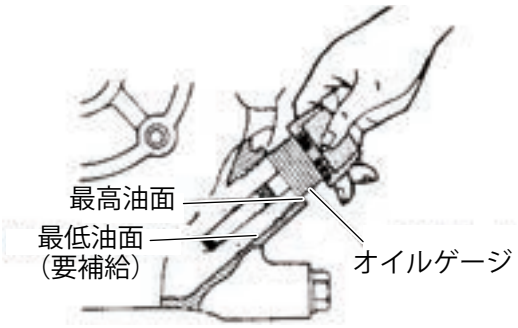
6 エンジンが水平になる状態で、付属品のジョウゴでエンジンオイルを注入します。



7 エンジンオイル量はオイルゲージをねじ込まずに計り、オイルゲージの上の刻み線まで入れます。

取扱上の注意

- エンジンオイルは、SE 級以上を使用してください。

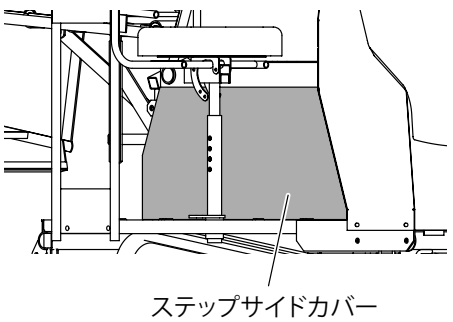


走行ミッションオイルの点検

毎シーズンはじめに走行ミッションオイルが規定量まで入っていることを確認してください。

1 **ステップサイドカバーを取外します。**

⇒ 走行ミッションが見えます。

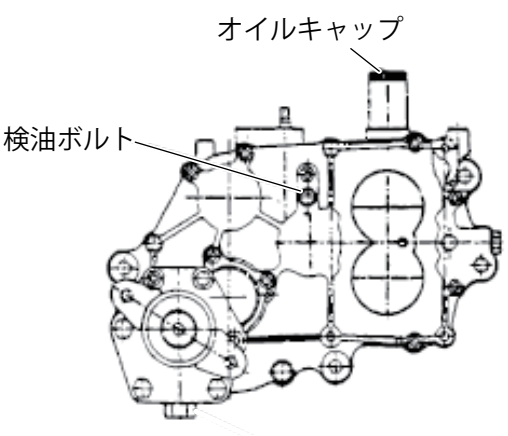


2 **走行ミッション側面にある検油ボルトを緩めて、走行ミッションオイルが規定量まで入っていることを確認します。**

取扱上の注意

- 少ない場合は補充してください。
  水平な場所で確認を行ってください。

使用オイル	ギヤーオイル # 90
オイル量	約 3.2 L



走行ミッションオイルの交換

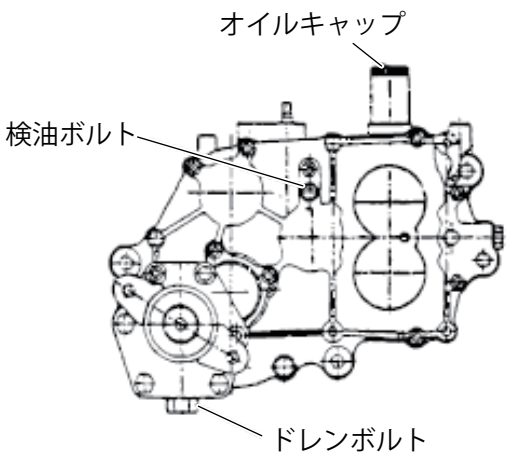
交換作業はお買い上げいただいた販売店に依頼してください。<u>お客様の方で交換作業は行いません。</u>

1 **オイル受けを準備します。**

2 **オイルキャップを取外します。**

お知らせ

- オイルキャップを外しておくと、走行ミッションオイルが早く抜けます。



3 **ドレンボルトを外して古くなった走行ミッションオイルを抜きます。**

4 **古くなった走行ミッションオイルを抜いた後、ドレンボルトを取付けます。**

5 **キャップ部より新しい走行ミッションオイルを検油ボルトまで入れます。**

使用オイル	ギヤーオイル # 90
オイル量	約 3.2 L

6 **オイルキャップを取付けます。**

HST 油圧オイルの点検

HST 油圧オイルが漏れたときのみ、HST 油圧オイルが規定量まで入っていることを確認してください。

HST 油圧オイルの交換

1 年または 500 時間ごとに HST 油圧オイルとオイルフィルタを同時に交換してください。
交換を怠ると、機械の寿命を短くする恐れがあります。
交換作業はお買い上げいただいた販売店に依頼してください。お客様の方で交換作業は行いません。

取扱上の注意

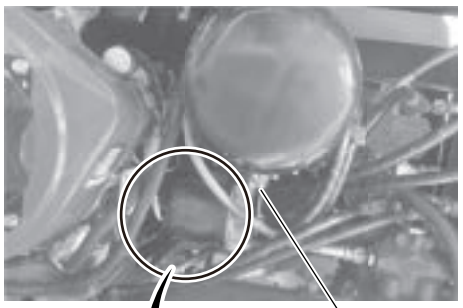
- HST 本体のドレンボルトを緩めての交換作業は絶対にしないでください。
- HST 油圧オイル、オイルフィルタは必ず指定品を使用してください。
- 他品との混用は機械の寿命を短くする恐れがあります。
- HST 油圧オイルは以下のものを使用してください。

品名	銘柄	オイル量
昭和シェルオイル	10 - 30 CD 級以上	2.7 L

1 **収穫部を下げて、地面に設置した状態にします。**

2 **オイル受けを準備します。**

3 **オイルタンク下側のドレンボルトを外して古い HST 油圧オイルを抜きます。**



4 **オイルフィルタの交換は、オイルフィルタを左に回して取外します。**
オイルフィルタの取外し時、HST 油圧オイルが少量出ます。

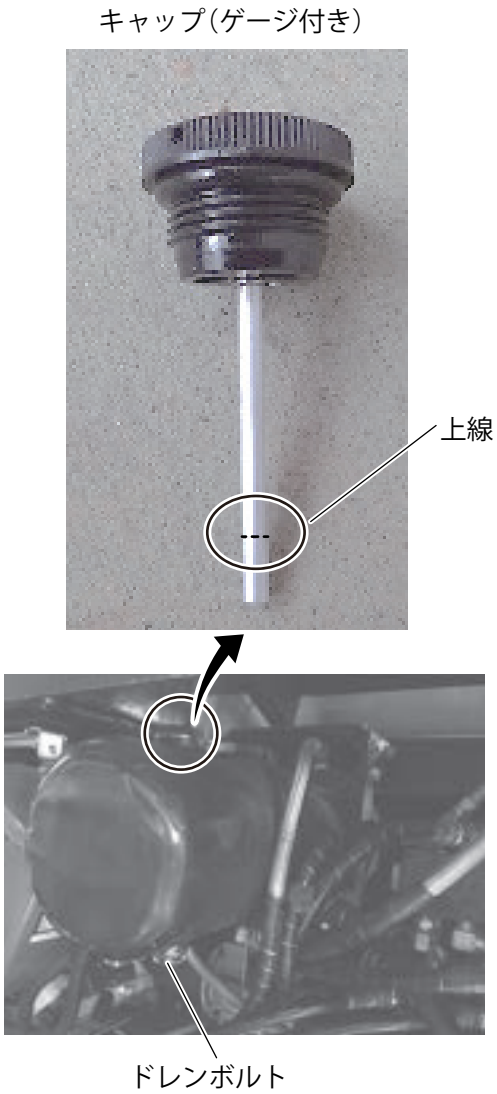
5 **新品のオイルフィルタを取付けます。**

(1) 新品のオイルフィルタ取付け面ゴムパッキン部に薄く HST 油圧オイルを塗ります。

(2) 右に回して手で締め付けます。

6 **ドレンボルトに新しいシールテープを巻き、本体に締め付けてから、キャップ部より新しい HST 油圧オイルを規定量入れます。**

7 **キャップを軽くねじ込んで、キャップのゲージ棒の先端から上線の範囲まで HST 油圧オイルが入っていることを確認します。**



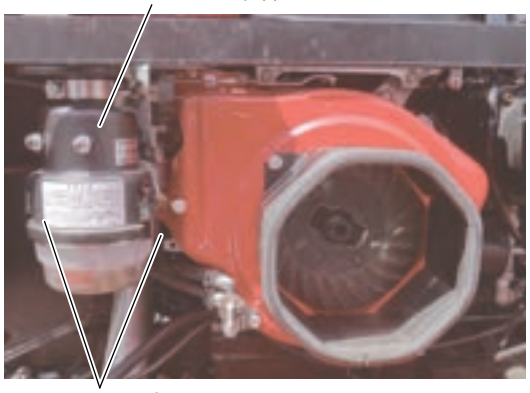
エアクリーナの清掃と交換

エアクリーナは空気中の塵埃を取除き、エンジンにきれいな空気を供給する働きをします。
内部にあるエアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、運転に不調をきたすことになります。
50 時間ごと（毎週）に清掃してください。

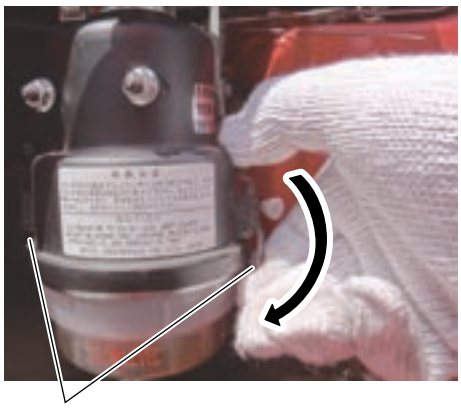
取扱上の注意

- エアクリーナエレメントが汚れたまま使用を続けたり、エアクリーナエレメントを取外して使用したりすると、エンジンの寿命を極端に短くします。定期的な清掃、交換を行ってください
- 清掃後は元どおりに組付けてください。

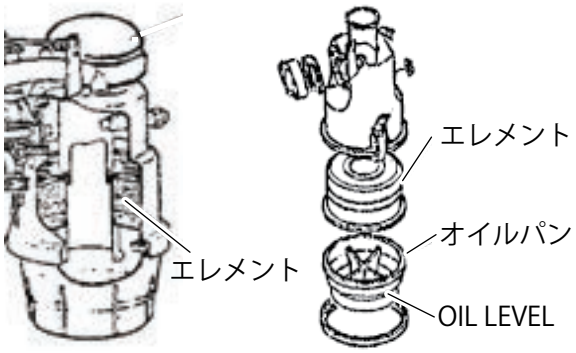
1 エアクリーナ本体からクランプを外します。



クランプ（2 か所）は、矢印の方向に下げると外れます。



2 オイルパンとエレメントを取出します。



3 エレメントを洗油（白灯油）で洗浄した後、エアブローなどで乾かします。

4 エンジンオイルをエレメントに塗布し、滴を振り切ります。

5 オイルパンとオイルパン内部を洗浄します。

6 新しいエンジンオイルを OIL LEVEL の線まで入れます。

7 エアクリーナ本体にエレメントを取付けます。

8 オイルパンをクランプで確実に固定します。

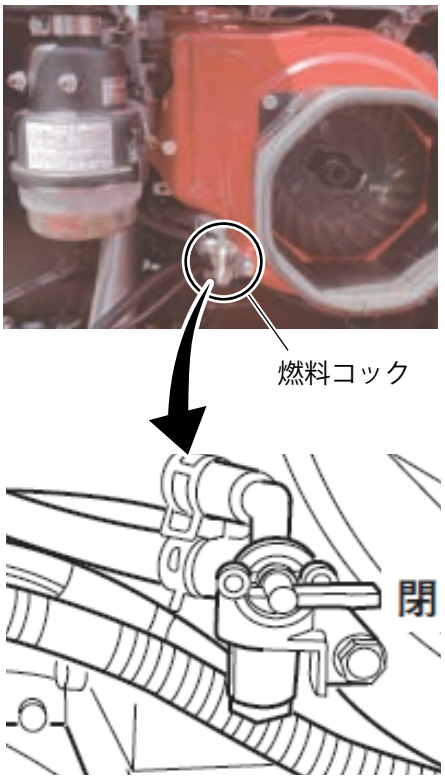
取扱上の注意

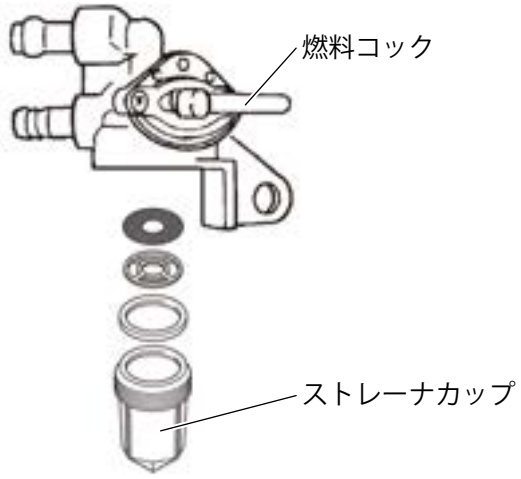
- オイルパンのオイルが汚れたり、なくなったまま使用したりすると、エンジンの寿命を極端に短くします。
  定期的な清掃、交換を行ってください。

燃料ストレーナの清掃

200 時間ごと（毎月）に清掃してください。

1 燃料コックを「閉」にし、ストレーナカップを左に回して取外します。





2 ストレーナカップ内の水やゴミを捨てます。

3 コシアミに付着しているゴミも除去し、洗油（白灯油）で洗います。

4 ストレーナカップを右に回して、本体に取付けます。

バッテリの点検

⚠危 険

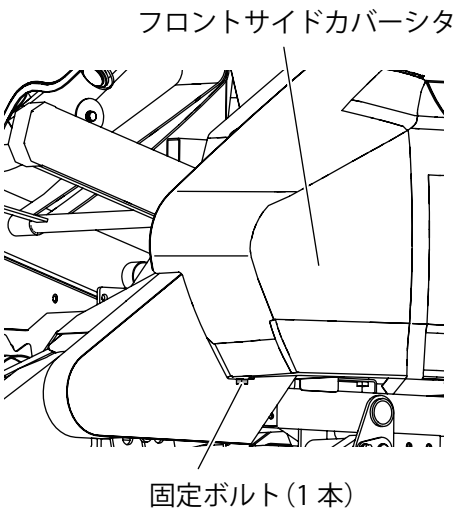
禁止	タバコなどの火気を近づけたり、スパークを起こすような行為をしたりしないでください。 ＊ バッテリは水素ガスを発生するので爆発の恐れがあります。
必ず実行	バッテリの点検・取扱いは、エンジンスイッチを「STOP」の状態で行ってください。 ＊ 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	バッテリ液が皮膚に付着したら、すぐに水で洗い落としてください。 目に入ったときは、直ちに水で洗い、その後、医師の治療を受けてください。 バッテリ液は希硫酸です。 ＊ 大ケガにつながる恐れがあります。
必ず実行	バッテリの取外しは、－側端子から取外し、取付けは＋側端子から行ってください。 ＊ 順番を間違えると事故・大ケガの恐れがあります。
必ず実行	＋端子と機体の間に工具などが触れないようにしてください。 ＊ スパークが発生し、爆発を起こし危険です。
必ず実行	端子はしっかり取付けてください。 ＊ 端子が緩んでいると、接触不良によりスパークが発生し、爆発を起こし危険です。
必ず実行	＋－の取付けは、絶対に間違えないよう正確に行ってください。 ＊ 事故・大ケガの恐れがあります。

1 機械を水平な場所に駐車します。

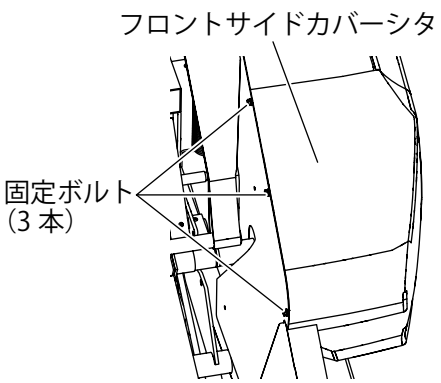
2 エンジンカバーを開けます。（→ p.50）

3 フロントサイドカバーシタを外します。

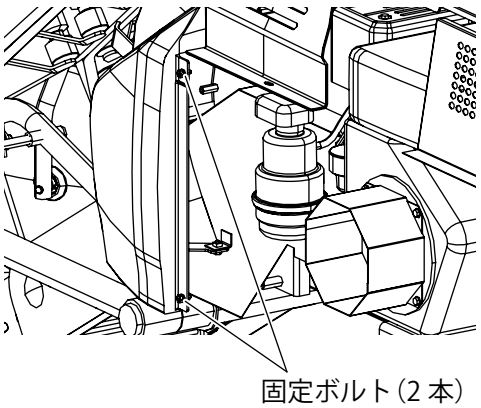
⑴ カバー下側の固定ボルト（1 本）を外します。



⑵ 機体内側の固定ボルト（3 本）を外します。



⑶ 機体外側の固定ボルト（2 本）を外します。



4 バッテリ上部に付いている充電インジケータの色で充電状態を確認します。

インジケータの色	充電状態	必要処理
グリーン	正常	正常使用できます
ブラック	不足	補充電が必要です
透明	液が不足	始動できないとき バッテリ交換

新品時装着されているバッテリは、注液口がなく、補水の必要がありません。
（密閉型で寿命まで補水不要タイプ）

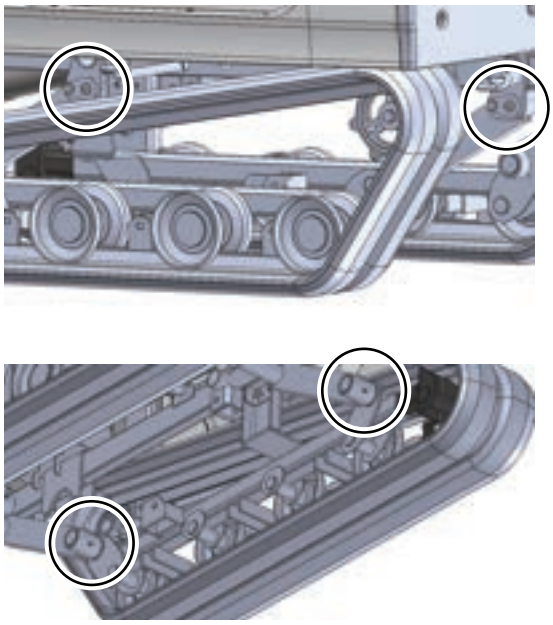
指定バッテリ
42B19L　相当 （部品コード No. 760-1068）

5 配線コード、ハーネスに、被覆の亀裂・摩耗・焼けなどがあれば交換します。

6 配線は振動したり動いたりする部分をさけ、結束バンドで固定します。

レベリングアームのグリスアップ

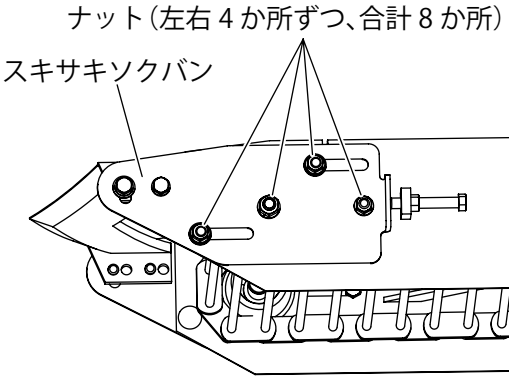
1 清掃後、下図の位置にグリスガンでグリスアップを行います。（左右 4 か所ずつ、合計 8 か所）



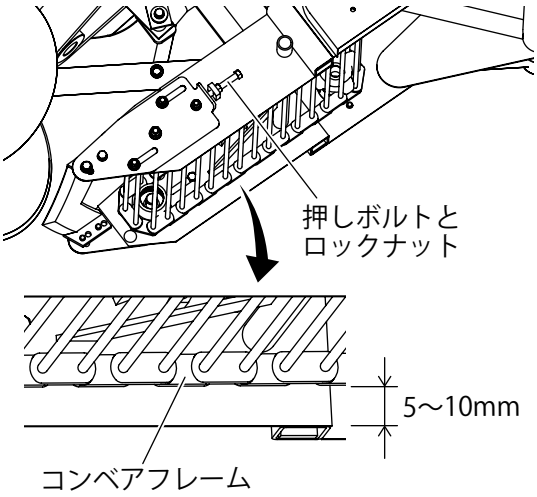
コンベアの張り調整

1 掘取り部が水平になるまでマルチレバーで操作します。（「■マルチレバー」（→ p.15））

2 ナット（左右 4 か所ずつ、合計 8 か所）を左右両面均等に緩め、スキサキソクバンがスライド可能な状態にします。



3 コンベアのたるみが、コンベアフレーム下位置から 5 ～ 10mm になるまで、押しボルトとロックナットで調整します。



4 調整終了後、緩めたナットとロックナットを締め付けます。

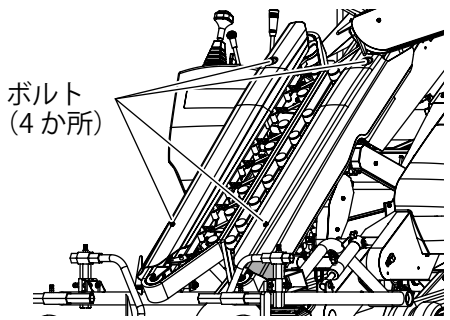
5 エンジンをかけます。

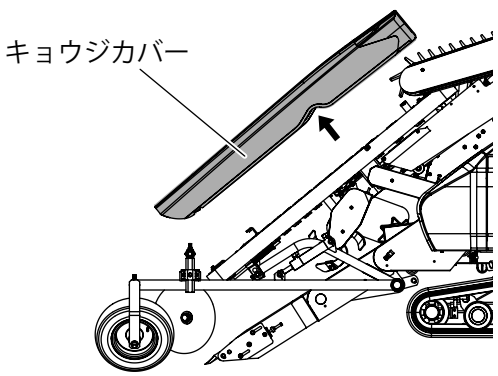
6 副変速レバーを「中立」位置に合わせ、作業クラッチを「入」にします。

7 主変速レバーを前に倒し、コンベアをしばらく回して異常がないことを確認します。

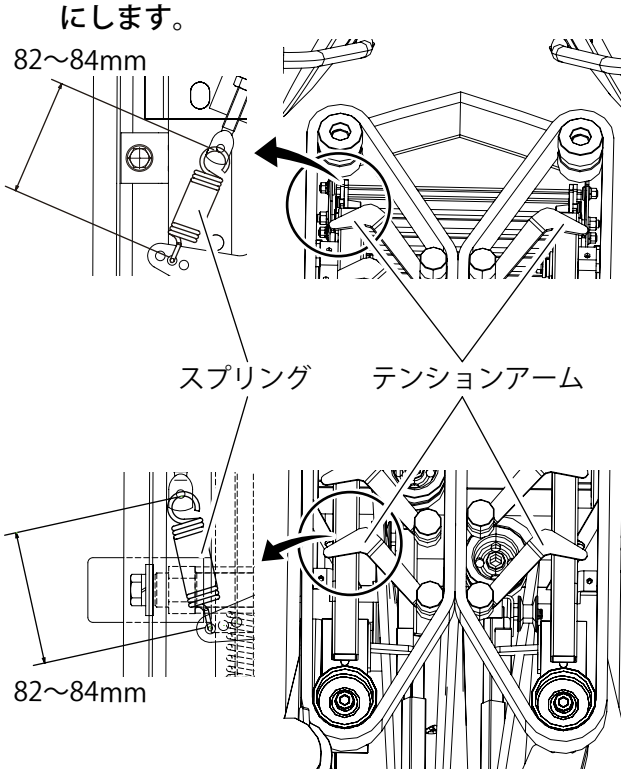
挟持搬送ベルトの張り調整

1 ボルト（4 か所）を外し、キョウジカバーを取外します。

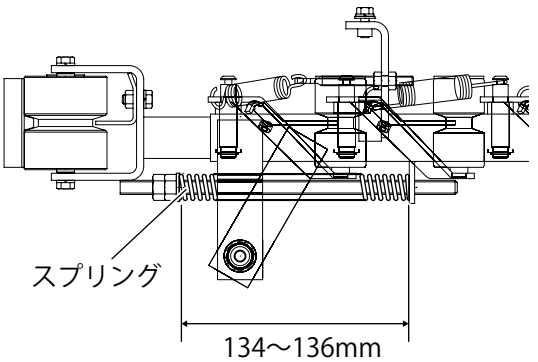




2 各テンションアームの張りを調整します。バネフック（4 か所）の長さは 82 ～ 84mm にします。



3 スプリングの長さを 134 ～ 136mm に調整します。



4 調整終了後、キョウジカバーをボルト（4 か所）で固定します。

5 主変速レバーと副変速レバーを「中立」位置、作業クラッチを「切」にし、エンジンをかけます。

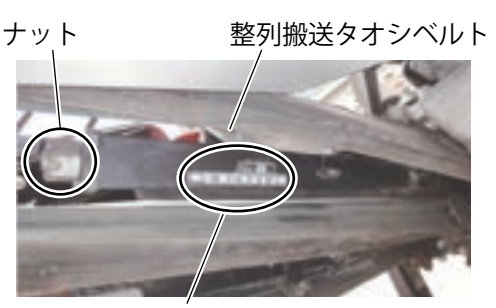
6 搬送ベルトをしばらく回転させ、異常がないことを確認します。

整列搬送タオシベルトの張り調整

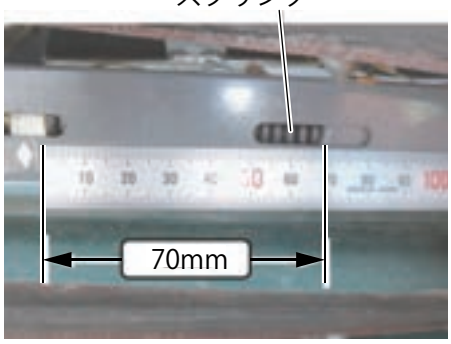
整列搬送タオシベルトが伸びたとき、または整列搬送タオシベルトを交換したときは、張り調整してください。
張りが弱いと整列搬送タオシベルトが外れやすくなります。

1 ナットを回転させ、スプリングの長さで張り調整を行います。

- ナットを反時計方向に回転させるとスプリング長が短くなり強く張ることができます。
- 整列搬送タオシベルトの張りは、スプリング長のぞき窓で確認します。



2 ナットを締め込み（反時計方向に回転）、スプリングの長さが 70mm になるように調整します。

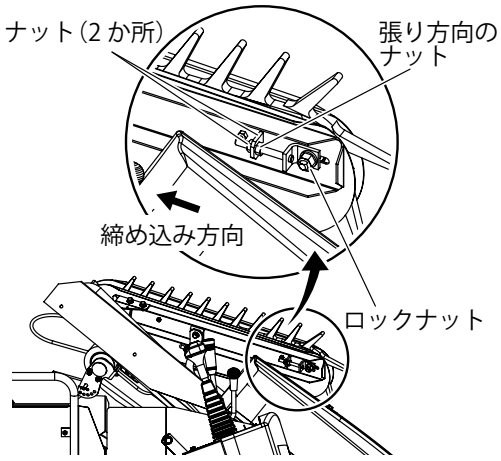


3 調整終了後、整列搬送タオシベルトをしばらく回転させ、異常がないことを確認します。

- 機械を走行させないで整列搬送タオシベルトを回転させる場合は、副変速レバーを「中立」位置に合わせ、作業クラッチを「入」にします。回転のスピードを変えるときは、主変速レバーを前に倒します。

ダンツキ V ベルトの張り調整

1 ロックナットを緩めます。



2 ナット（2 か所）を緩め、張り方向のナットを締め込んで調整します。

3 調整終了後、ナット（2 か所）とロックナットで固定します。

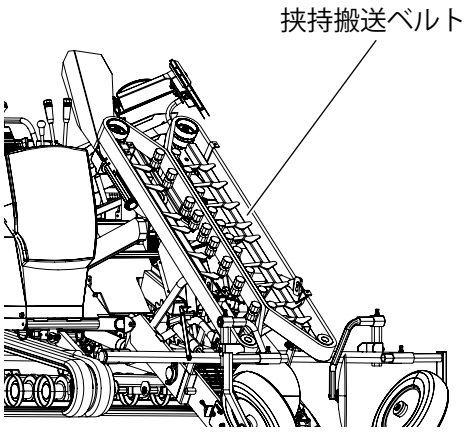
4 主変速レバーと副変速レバーを「中立」位置、作業クラッチを「切」に合わせ、エンジンをかけます。

5 ダンツキ V ベルトをしばらく回転させ、異常がないことを確認します。

挟持搬送部内部の点検

1 キョウジカバーを取外します。（「挟持搬送ベルトの張り調整」（→ p.58））

2 挟持搬送部内部に枯れたねぎや雑草、土が堆積していないか点検します。
堆積している場合は、掃除をします。



3 キョウジカバーを取付けます。（「挟持搬送ベルトの張り調整」（→ p.58））

挟持搬送部後方の点検

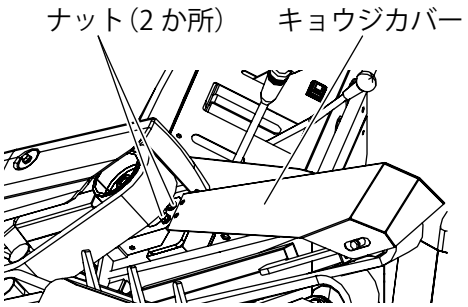
1 挟持搬送部後方に堆積した、枯れたねぎや雑草などを定期的に掃除します。

取扱上の注意

- 清掃後は必ずキョウジカバーを取付けしてから作業してください。

整列搬送部内部の点検

1 ナット（2 か所）を外し、キョウジカバーを取外します。

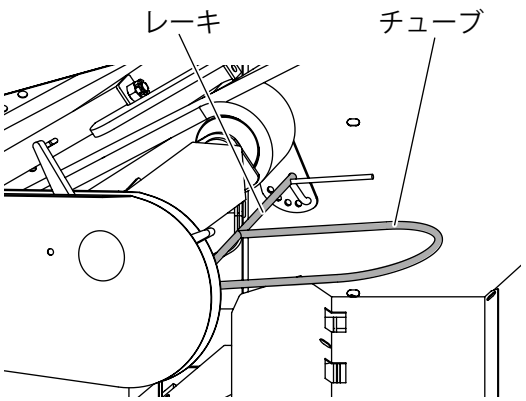


2 内部を点検し、枯れたねぎや雑草、土が堆積していないことを確認します。
堆積している場合は、掃除をします。

3 ナット（2 か所）を取付けてキョウジカバーを取付けます。

レーキの点検

レーキ先端に付いているチューブは、ねぎを仮受けするための部品です。



1 チューブがレーキから抜けていないことを確認します。
抜けている場合は、レーキの 根元までチューブを挿し込みます。

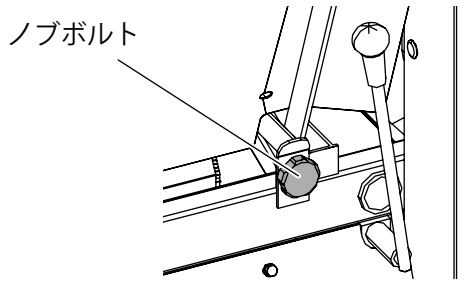
2 レーキ周辺に枯れたねぎや雑草などが堆積していないか点検します。
堆積している場合は、掃除をします。

油圧ポンプテンションの張り調整

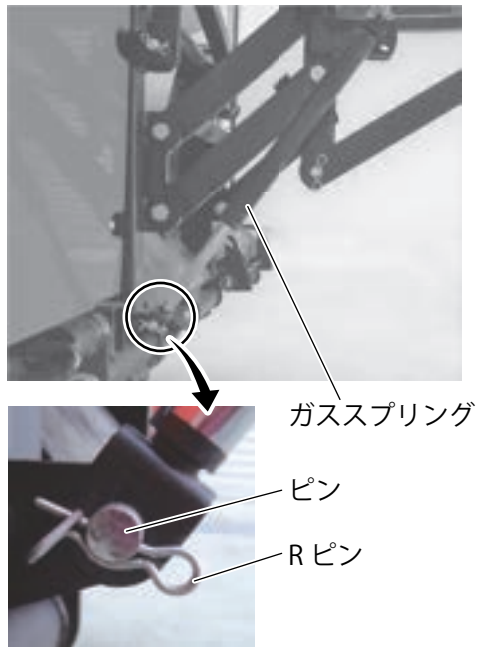
適時、点検・調整をしてください。

1 作業台を取外します。

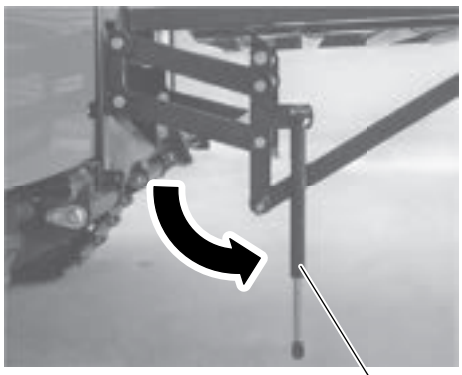
(1) ノブボルトを外します。



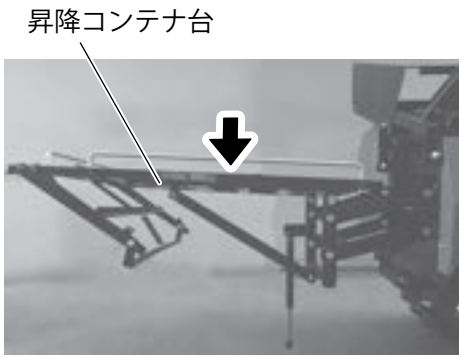
(2) ガススプリング、ピン、R ピンの位置を確認します。



(3) ピンと R ピンを外し、ガススプリングも外します。



(4) 昇降コンテナ台を下げます。



取扱上の注意

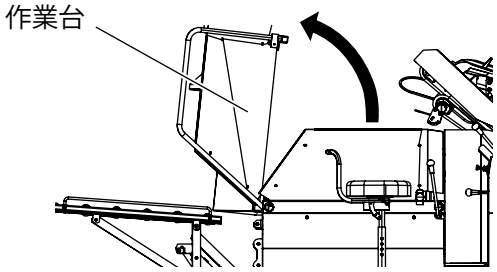
- 昇降コンテナ台を下げるときは、カラコンテナ台を格納し、平坦な場所で作業を行ってください。

(5) 掘取り部を、マルチレバーで一番下に下げます。（「■マルチレバー」（→ p.15））

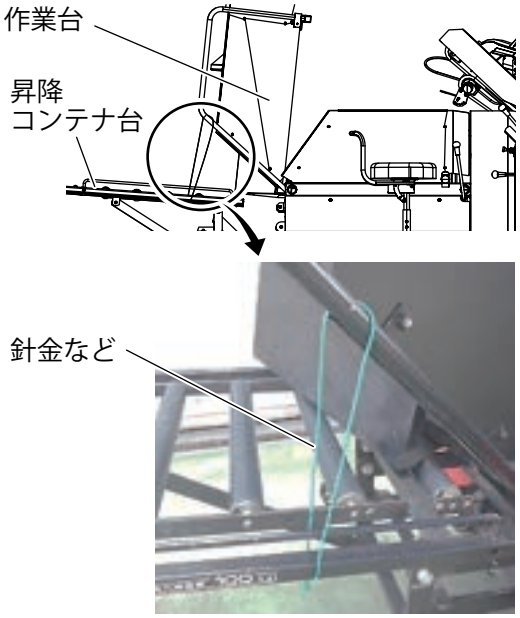
取扱上の注意

- 作業台を開けるときは掘取り部を一番下に下げてください。
  作業台と挟持搬送部の隙間が広がり、作業台をスムーズに開けます。

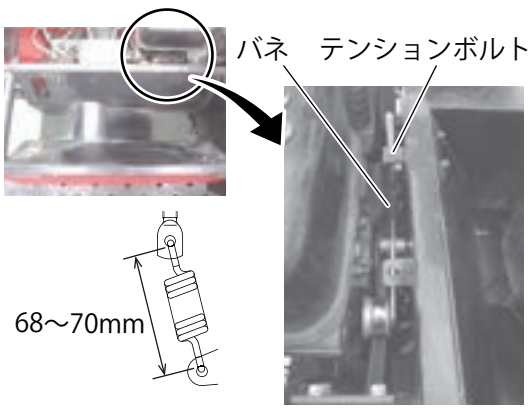
(6) 作業台を開けます。



(7) 作業台を針金などで昇降コンテナ台に固定します。



2 テンションボルトで、バネフックの長さを 68 ～ 70mm に調整します。



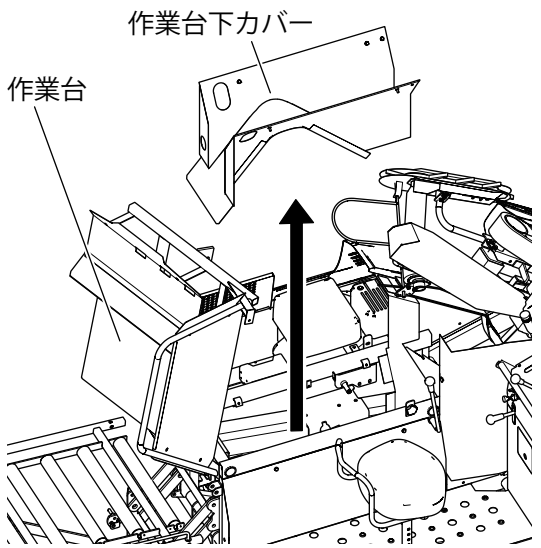
3 調整終了後、逆の手順で元に戻します。

カウンタ V ベルトテンションの張り調整

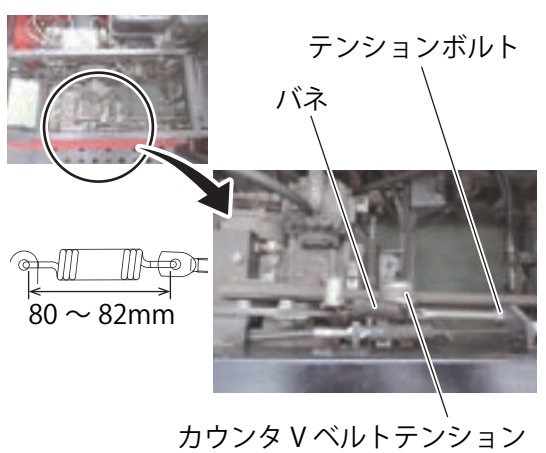
適時、点検・調整をしてください。

1 作業台を開けます。（→ p.61）

2 作業台下カバーを取外します。



3 テンションボルトで、バネフックの長さを 80 ～ 82mm に調整します。

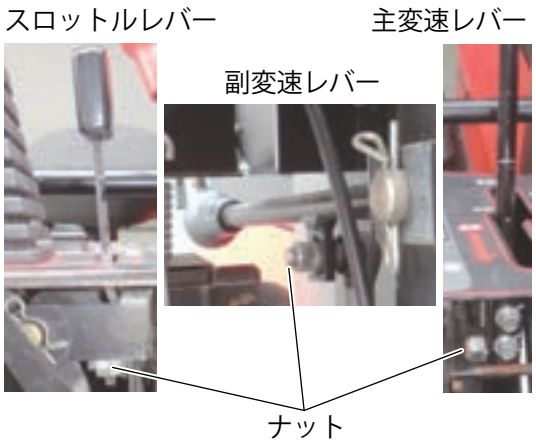


4 調整終了後、逆の手順で元に戻します。

変速レバー、スロットルレバー支点部緩み調整

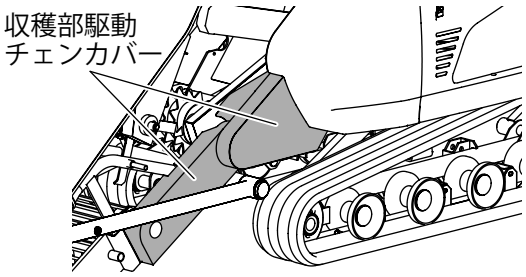
適時、点検・調整をしてください。

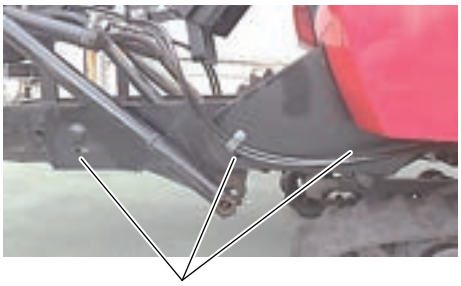
1 作業時に戻らないように締め付けて、ナットでロックします。

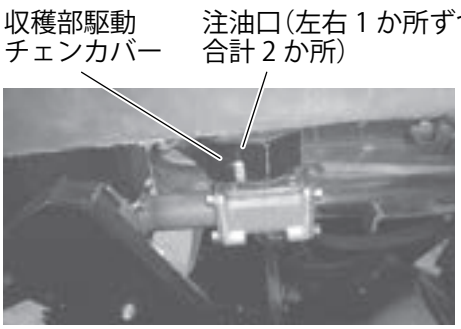


収穫部駆動チェンの点検

1 収穫部駆動チェンカバーの注油口からオイルを注油します。

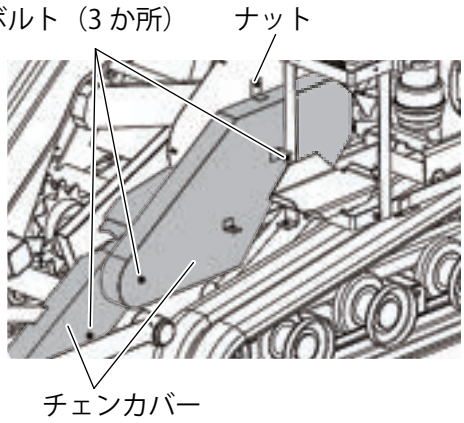






2 フロントサイドカバーシタを外します。（→ p.56）

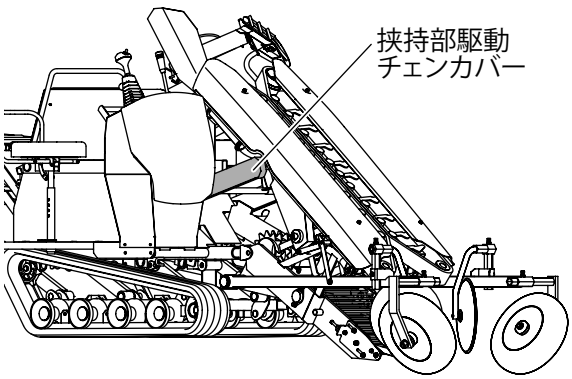
3 ボルト（3 か所）とナットを外して、チェンカバーを取外し、内部の点検・調整をします。



4 点検・調整後は、収穫部駆動チェンカバーとフロントサイドカバーシタを元の位置に取付けます。

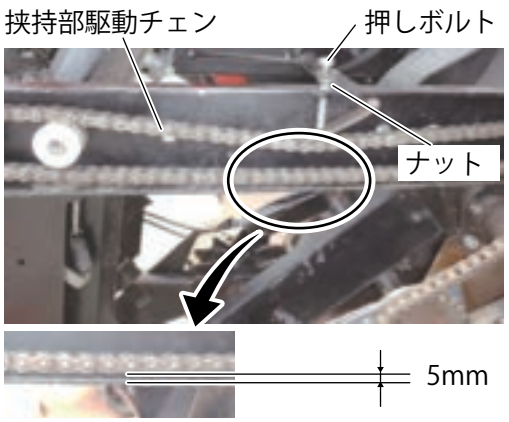
挟持部駆動チェンの点検

1 挟持部駆動チェンカバーを外します。



2 挟持部駆動チェンが緩んでいる場合は、ナットを緩めて、押しボルトでチェン張り調整をします。

・チェン下側の隙間 5mm 程度が目安です。

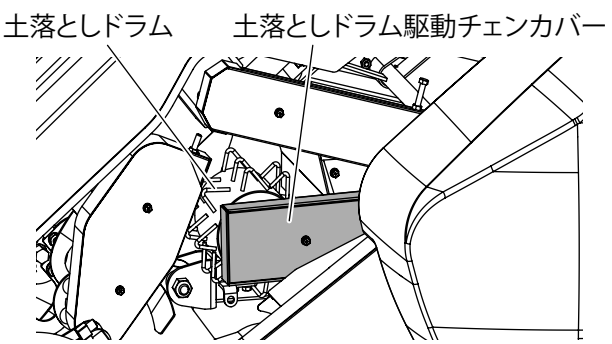


3 挟持部駆動チェン張り調整終了後、ナットで押しボルトを固定します。

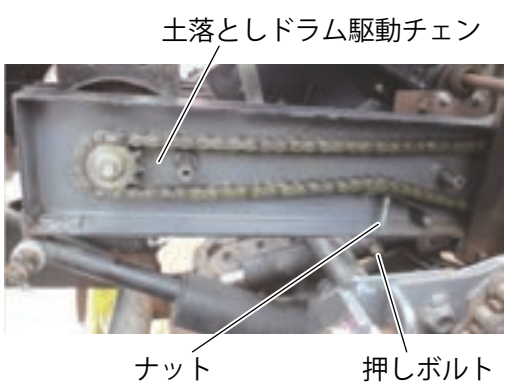
4 作業終了後、必ず挟持部駆動チェンカバーを元の位置に取付けます。

土落としドラム駆動チェンの点検

1 土落としドラム駆動チェンカバーを外します。



2 土落としドラム駆動チェンが緩んでいる場合は、ナットを緩めて押しボルトでチェン張り調整をします。

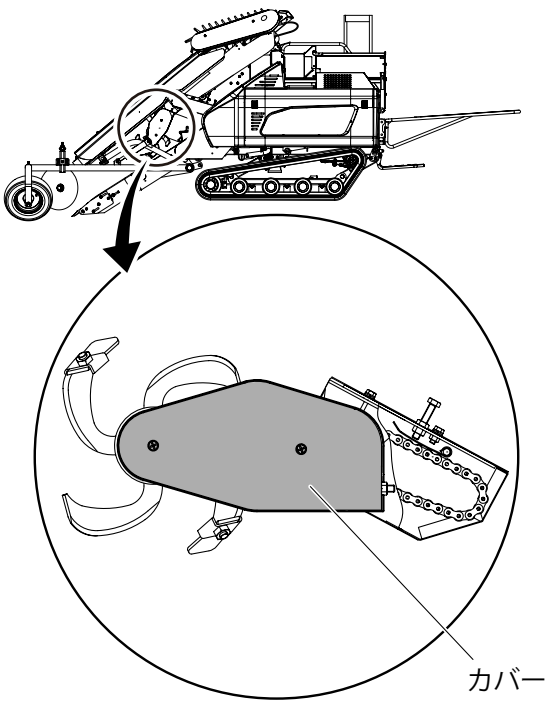


3 土落としドラム駆動チェン張り調整終了後、ナットで押しボルトを固定します。

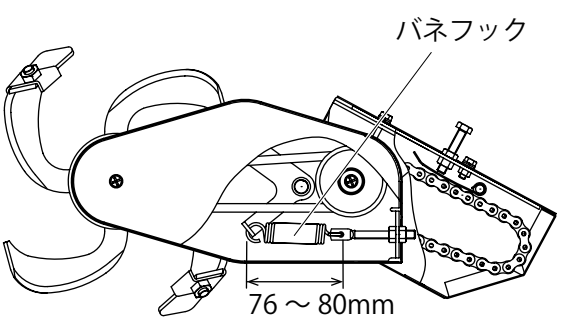
4 作業終了後、必ず土落としドラム駆動チェンカバーを元の位置に取付けます。

土落としローター駆動 V ベルトテンションの張り調整

1 カバーを取外します。



2 バネフックの長さを 76 ～ 80mm に調整します。



ヒューズの点検・交換

ヒューズボックスのフタを外して点検してください。
ヒューズボックスは、操作カバーの中にあります。

⚠警 告

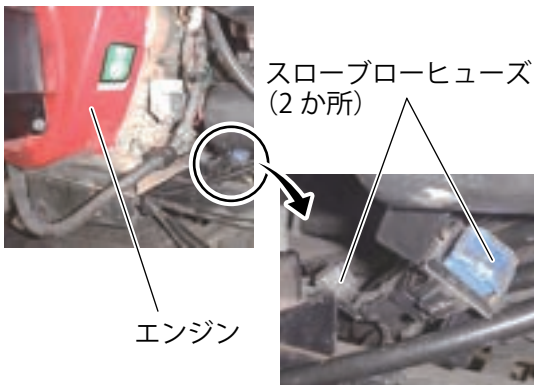
禁止	**指定以外のヒューズや針金・銀紙の使用は絶対にしないでください。** ＊火災が発生する恐れがあります。
必ず実行	**配線コード・ハーネスが他の部品に接触していないか、被覆のはがれがないか、作業前に点検してください。** ＊火災が発生する恐れがあります。

取扱上の注意

- 切れたヒューズは、必ず同容量のヒューズと交換してください。
- 針金や銀紙などの代用は、絶対にしないでください。機械の故障につながります。
- 交換してもすぐ切れる場合はショートしている恐れがあります。点検・修理をしてください。

スローブローヒューズの点検・交換

スローブローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
スローブローヒューズ（2 か所）はエンジンハーネスに付いています。



切れた場合は、速やかにお買い上げいただいた販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
交換するときは、必ず純正部品を使用してください。

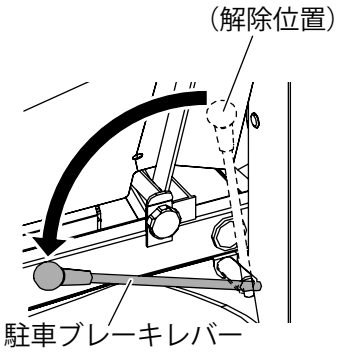
部品名	品目コード
スローブローヒューズ　規格 20A	7600654

駐車ブレーキレバーの調整

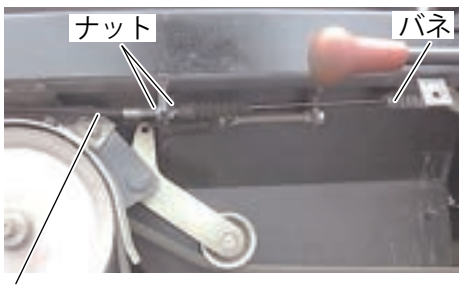
適時、点検・調整をしてください。

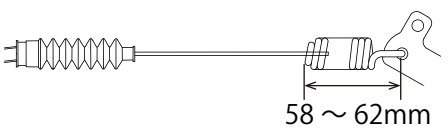
1 **ステップサイドカバーを取外します。**
（→ p.52）

2 **駐車ブレーキレバーを「駐車」位置にします。**



3 ナットでバネフックの長さを 58 ～ 62mm に調整します。





4 調整終了後、必ずステップサイドカバーを元の位置に取付けます。

スタータ内の砂ぼこりの除去

砂地のねぎ圃場で使用した後は、スタータ内をエアブローして、砂ぼこりを吹き出してください。

⚠注 意

必ず実行

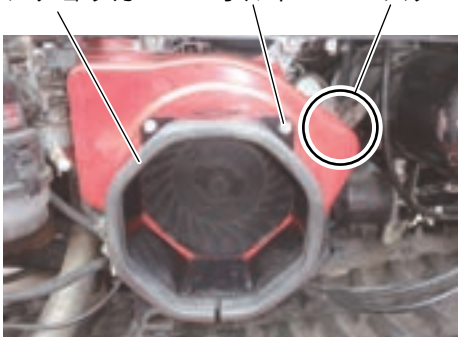
エアブローするときは、安全のため防塵マスクと保護メガネ（ゴーグル）を必ず着用してください。

＊ ケガをする恐れがあります。

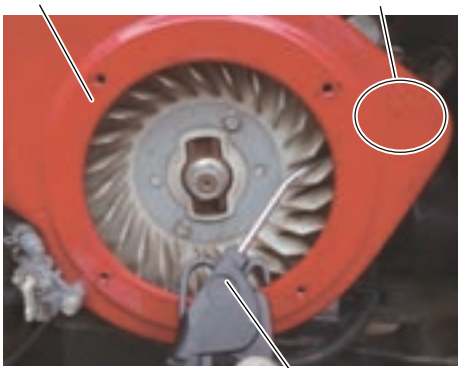
取扱上の注意

- 冷却風に混入した砂ぼこりがスタータ内に浸入すると、ピニオンシャフト軸受けの摩耗が早くなり、異音が発生する恐れがあります。
  また、ピニオンギヤの動きが悪くなり、エンジンが始動しにくくなることがあります。

1 ボルト（4 本）を緩めて、エンチョウカバーを取外します。



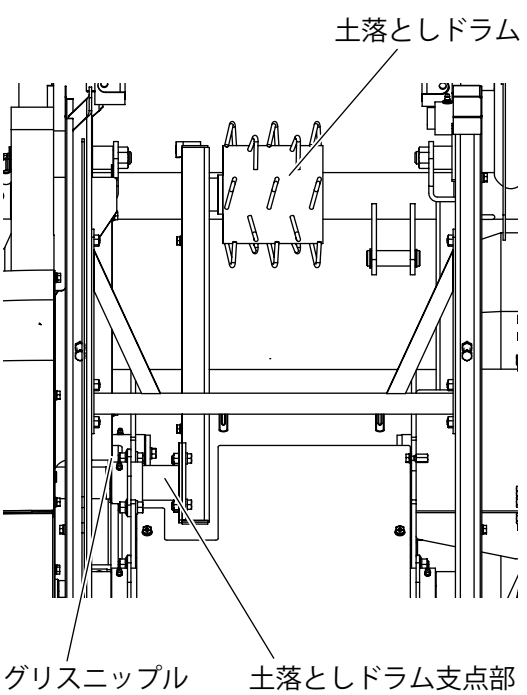
2 ファンケース内のスタータ取付け位置を目がけて、砂ぼこりが出なくなるまでエアガンでエアブローします。



3 作業終了後、必ずエンチョウカバーを元の位置に取付けます。

土落としドラム支点部のグリスアップ

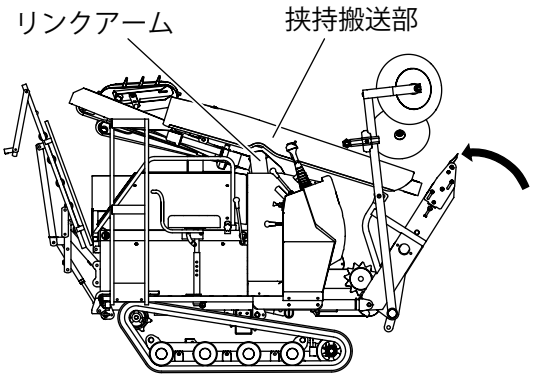
土落としドラム支点部が土ぼこりや錆などで固着しないよう、定期的にグリスニップルにグリスアップしてください。



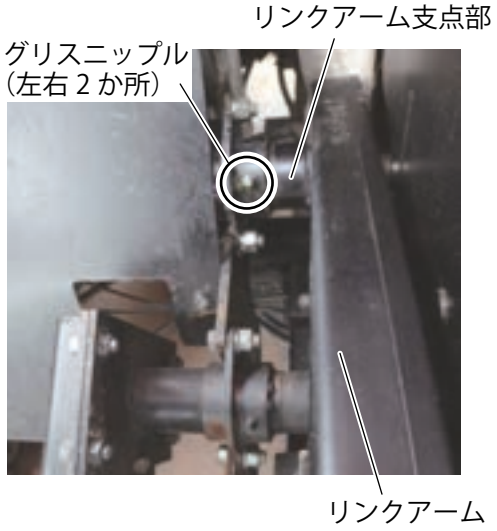
リンクアーム支点部のグリスアップ

リンクアーム支点部が土ぼこりや錆などで固着しないよう、定期的にグリスアップしてください。

1 **挟持搬送部を、マルチレバーで一番上まで上げます。（「■マルチレバー」（→ p.15））**

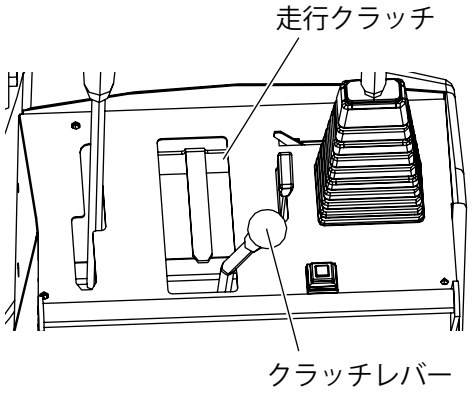


2 **ボルトを外してリンクアームのカバーを開けた後、グリスニップルに、グリスガンでグリスアップします。**

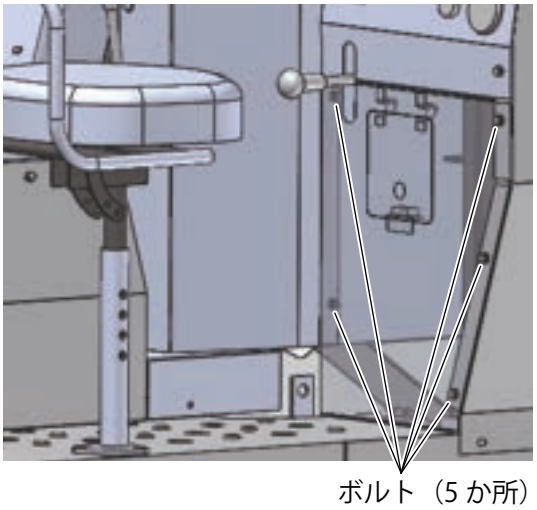


走行クラッチレバーの調整

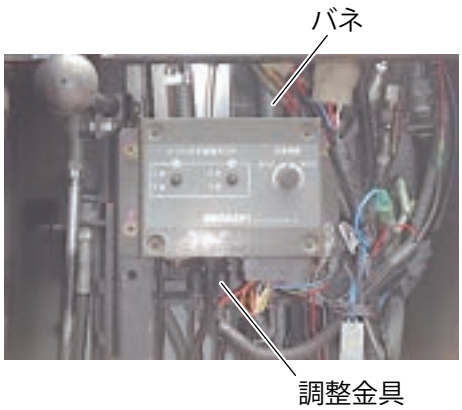
走行クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、走行クラッチレバーを「入」にしたとき、確実に動力が伝わるようにしてください。

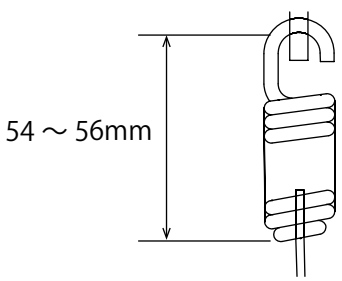


1 **ボルト（5 か所）を外して、ソウサカバーを取外します。**



2 走行クラッチレバーを「入」位置にして、バネフックの長さを 54 ～ 56mm に調整します。
調整は、走行クラッチワイヤの調整金具を使用します。

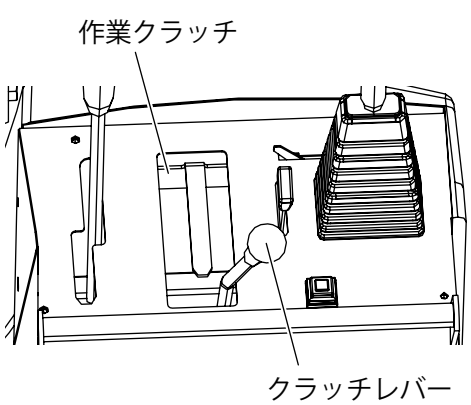




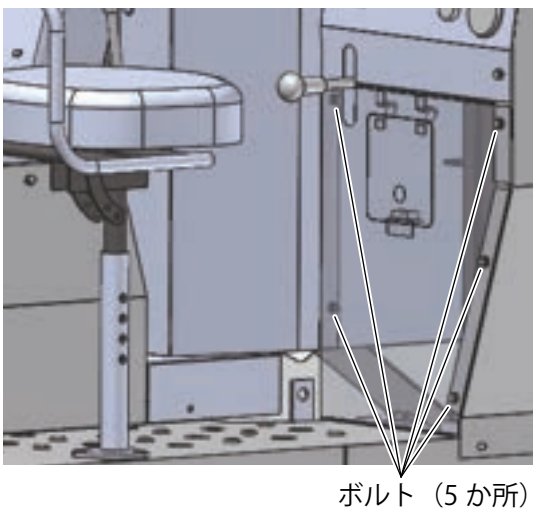
3 調整終了後、ソウサカバーを元の位置に取付けます。

作業クラッチレバーの調整

作業クラッチレバーは、走行クラッチと作業クラッチが同時に作動します。
作業クラッチレバーが「切」で確実にクラッチが切れ、レバーを「入」にしたとき、確実に動力が伝わるようにしてください。

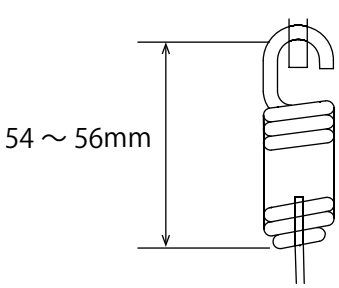


1 ボルト（5 か所）を外して、ソウサカバーを取外します。



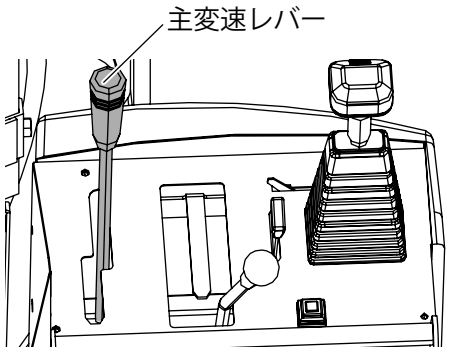
2 作業クラッチレバーを「入」位置にして、バネフックの長さを 54 ～ 56mm に調整します。

- 調整は、作業クラッチワイヤの調整金具を使用します。



3 調整終了後、ソウサカバーを元の位置に取付けます。

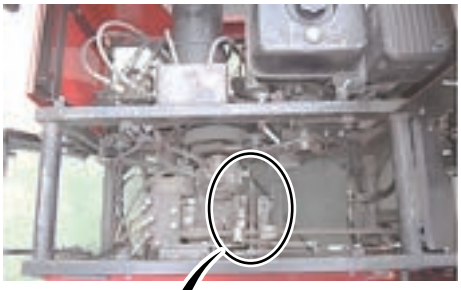
主変速レバー部プッシュプルケーブルの調整

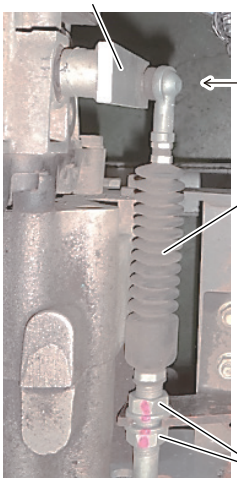


1 主変速レバーを「中立」位置にします。

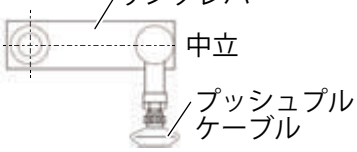
2 ステップサイドカバー、作業台下カバーを取外します。（→ p.52、62）

3 リンクレバーが「中立」位置になるよう、プッシュプルケーブルをナットで調整します。





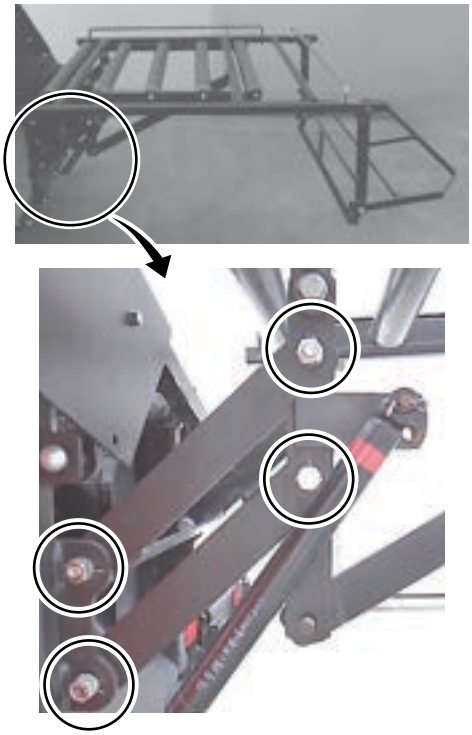
＜Aから見た場合＞



4 調整終了後、逆の手順で元に戻します。

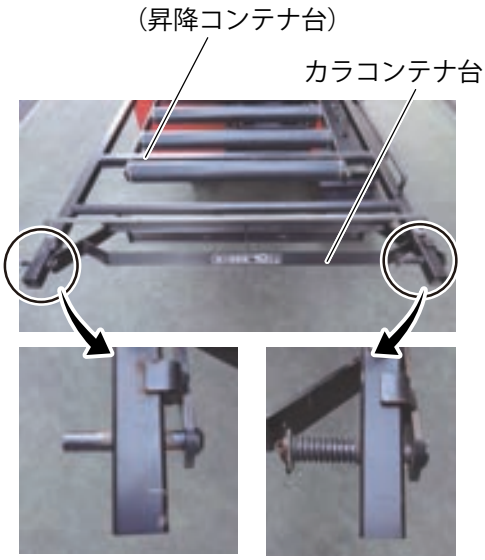
昇降コンテナ台の点検（HGX100）

1 昇降コンテナ台の支点部（左右 4 か所ずつ、合計 8 か所）にオイルを注油します。



カラコンテナ台の点検（HGX100）

1 カラコンテナ台の支点部（2 か所）にオイルを注油します。



スタックバルブ（電磁バルブ）手動操作方法

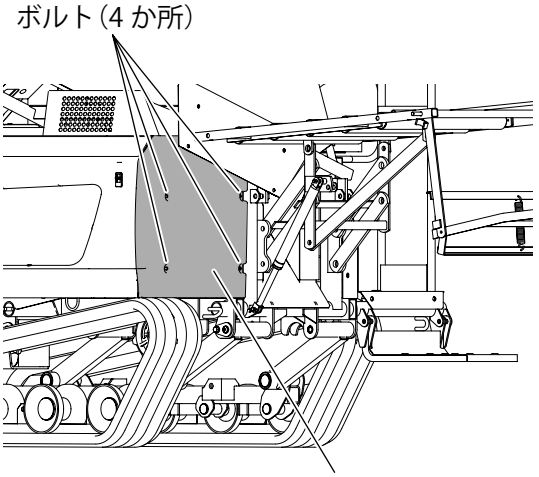
ゲージホイールおよび左右のゴムクローラを上下させるシリンダが、手元のスイッチで動かせなくなった場合は、次の手順で直接スタックバルブ（電磁バルブ）を操作します。

⚠注 意

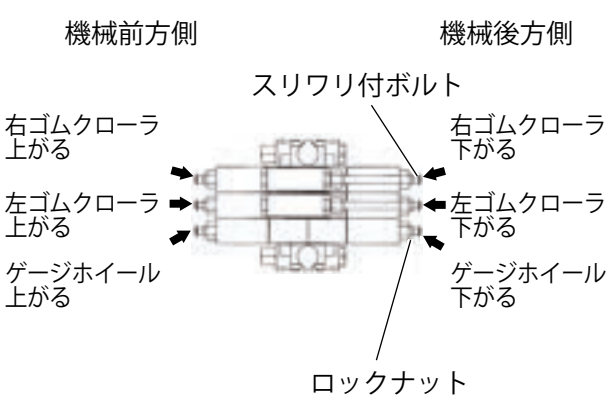
注意

手動でシリンダの動作を行う場合は、人やものへの接触に十分注意してください。
周囲が見えにくくなります。
＊ 事故やケガにつながる恐れがあります。

1 ボルト（4 か所）を外して、リヤーカバーシタを開けます。
スタックバルブ（電磁バルブ）の取付け位置を確認します。



2 動作させたいシリンダを確認し、手動操作するバルブの位置を決定します。



3 エンジンを始動し、バルブ先端のロックナットをいっぱいに緩め、スリワリ付ボルトを締め込んでいきます。

4 動かせたい位置まで移動したら、スリワリ付ボルトを逆に回してシリンダの動きをストップさせます。

5 他のシリンダを動作させたい場合は、2～4の手順で同じように行います。

6 作業終了後、リヤーカバーシタを閉じてボルト（4 本）で固定します。

作業後の手入れ

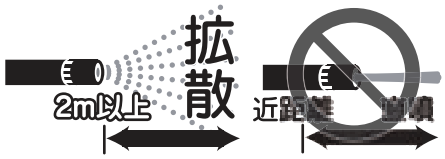
洗車

作業後には機械を水洗いし、ゴミや汚れを取除きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってください。
高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注意してください。
高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、機械を破損・損傷・故障させたりすることがあります。
高圧洗車機の取扱説明書・ラベルにしたがって、正しく使用してください。

⚠注 意

必ず実行

高圧洗車機で水洗いする場合
機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m 以上離して洗車してください。



＊ 直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故つながる恐れがあります。
例）
- 電気配線被覆の損傷
- 断線によるショート・火災の発生
- 電子部品などへの水侵入による故障
- シール・ラベルの剥がれ
- 樹脂類（カバーなど）の破損
- 塗装・メッキ皮膜の剥がれ

取扱上の注意

- 操作パネル周辺は高圧洗車機で水洗いしないでください。水侵入による故障が発生する恐れがあります。

警告表示ラベルの点検

警告表示ラベルの種類と位置（→ p.8）にしたがって、警告表示ラベルを点検してください。

- 警告表示ラベルが損傷したり破損したりしていないか。
- 警告表示ラベルが汚れていないか。
- 警告表示ラベルが剥がれていないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

消耗品の早期交換

「消耗品一覧表」（→ p.73）に記載の消耗品を点検してください。
必要に応じて、新品と交換してください。
早期の交換をお勧めします。

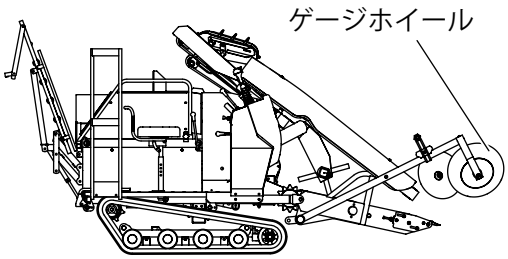
長時間使用しない場合の手入れ

⚠警 告

必ず実行

バッテリを機械に取付けたまま保管するときは、必ず－端子を外してください。
＊ ネズミなどの被害により、ショートして火災事故を起こす恐れがあります。

1 乾燥した風通しのよいところでゲージホイールを上げて、収穫部を下げて格納します。



取扱上の注意

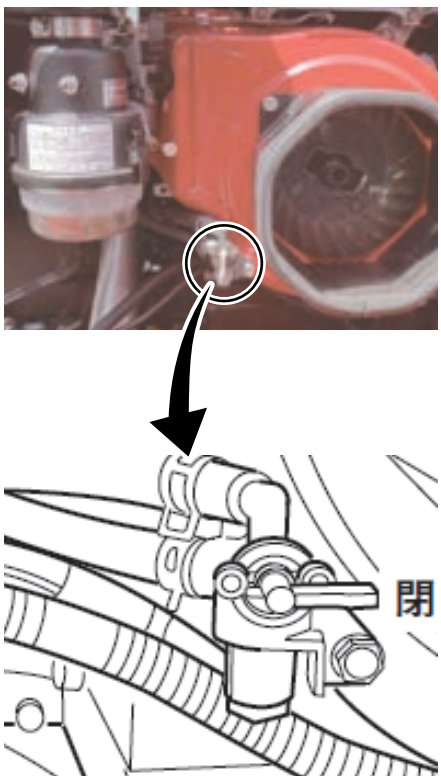
- 機械から離れる場合はエンジンを切って収穫部を接地させてください。
- 収穫部を上げた状態で長時間経過すると収穫部が下降します。

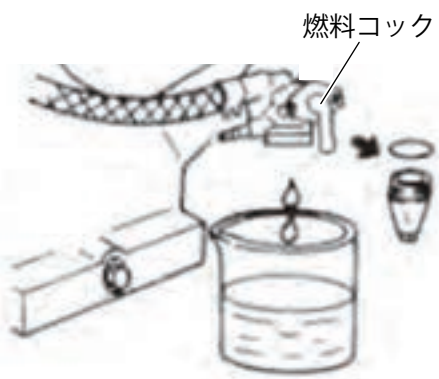
2 各クラッチを「切」にし、駐車ブレーキをかけます。

3 各部の錆やすい部分に、防錆油またはエンジンオイル・グリスを塗布します。

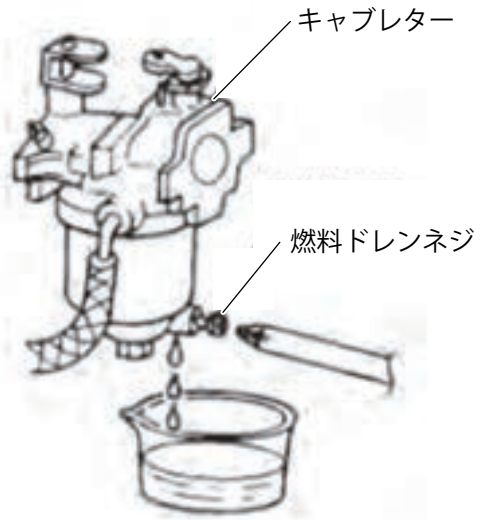
4 バッテリを完全充電し、なるべく機械から取外し、風通しのよい冷暗所に保管します。

5 燃料ストレーナを取外し、タンク内の燃料を完全に抜き取ります。





6 キャブレター内の燃料は、燃料ドレンネジを緩めて抜きます。



7 エンジンオイルの交換および注油をします。

8 機械を保護カバーでカバーして保管します。

⚠警 告

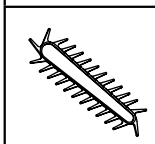
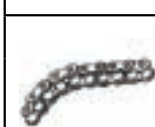
必ず実行

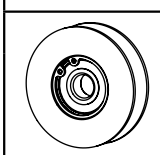
保護カバーをかける際、必ずエンジン、マフラが冷めてから、カバーをかけてください。

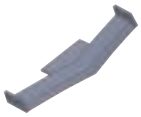
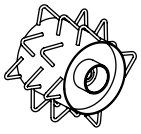
＊ 保護カバーが燃え、火災事故につながります。

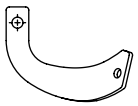
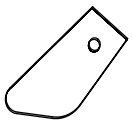
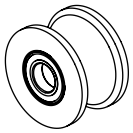
消耗品一覧

消耗部品は早めの交換をお勧めします。
当社では、お客様にご迷惑がかからないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合がございます。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をしていただき、早めの交換をお勧めします。

	部品名	キョウジベルト	部品コード	7600679	1 台分個数	2
	備考	75W X 3120L				
	部品名	タオシベルト	部品コード	7600843	1 台分個数	2
	備考	75W X 1860L				
	部品名	トッキツキ V ベルト	部品コード	7600313	1 台分個数	1
	備考	HDA-54				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440145	1 台分個数	1
	備考	#40 X 74 リンク（カウンタ～土落としドラム）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440148	1 台分個数	1
	備考	#40 X 116 リンク（カウンタ～リンクアーム）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440147	1 台分個数	2
	備考	#40 X 56 リンク（ドラムカウンタ～ホリトリカウンタ）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440155	1 台分個数	1
	備考	#40 X 81 リンク（ホリトリカウンタ～コンベア）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440150	1 台分個数	2
	備考	#40 X 38 リンク（カウンタ～土落としローター）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440149	1 台分個数	2
	備考	#40 X 112 リンク（キョウジベルト駆動）				
	部品名	ローラチェン	部品コード	9440151	1 台分個数	2
	備考	#40 X 30 リンク（タオシベルト駆動）				
	部品名	主変速ワイヤ	部品コード	7601027	1 台分個数	1
	備考	プッシュプルケーブル 1760				

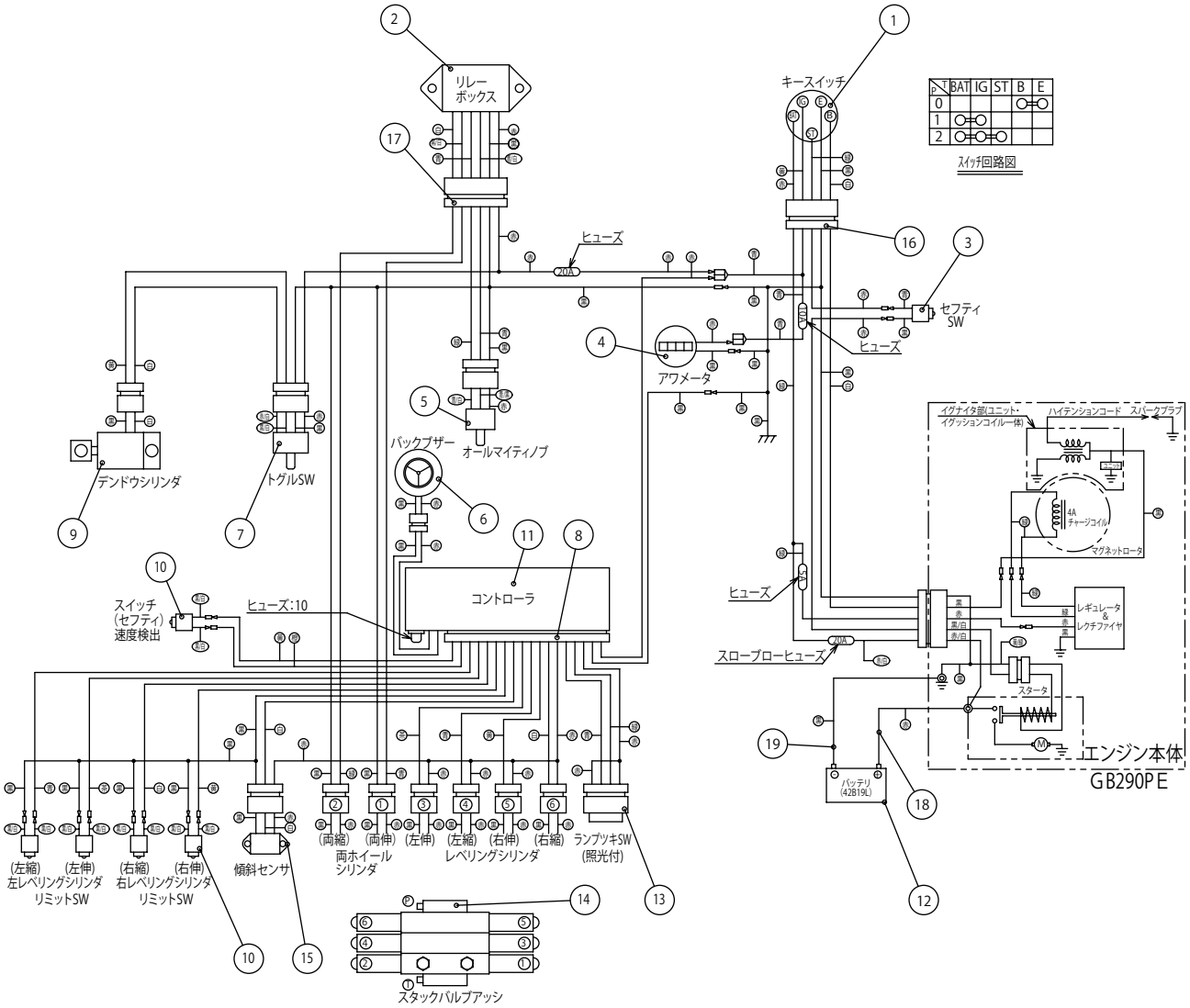
	部品名	走行クラッチワイヤ	部品コード	7601023	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	作業クラッチワイヤ	部品コード	7601024	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	アクセルワイヤー	部品コード	7600764	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	チョークワイヤー	部品コード	7600765	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	ブレーキワイヤ	部品コード	7601035	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	リターンワイヤ	部品コード	7601034	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	タイユホース	部品コード	7600254	1 台分個数	2
	備考	φ 9 X 550L				
	部品名	アイドラ	部品コード	7600102	1 台分個数	2
	備考	VFF-4020 - 6201（土落としローター駆動）				
	部品名	テンションプーリ ASSY	部品コード	7801118	1 台分個数	2
	備考	油圧ポンプ、収穫部駆動				
	部品名	アイドラ	部品コード	7710244	1 台分個数	1
	備考	VFF7020-6202				
	部品名	テンションプーリ	部品コード	7640177	1 台分個数	1
	備考	VFF-70306202（走行部駆動）				
	部品名	V アイドラ 62ASSY キット	部品コード	7600867	1 台分個数	1
	備考	トッキツキ V ベルト駆動				

	部品名	スプロケットアイドラ	部品コード	7710276	1 台分個数	3
	備考	VSAG-414（掘取り駆動）				
	部品名	クドウホイール	部品コード	7710011	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	クローラガイド F	部品コード	7600032	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	マガリスキサキレーキ	部品コード	7600927	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	スキサキソクバン	部品コード	備考参照	1 台分個数	各 1
	備考	スキサキソクバン L スキサキソクバン R		7600925 7600926		
	部品名	テーパコンベアローラ	部品コード	7600847	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	コンベアスプロケット 1	部品コード	7710309	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	バーコンベア	部品コード	7600068	1 台分個数	17
	備考					
	部品名	リングプレート 2	部品コード	7710508	1 台分個数	34
	備考					
	部品名	コンベアガイド	部品コード	7710284	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	ドラム	部品コード	7600545	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	イタバネ	部品コード	7630370	1 台分個数	5
	備考					

	部品名	土落としロータツメ	部品コード	備考参照	1 台分個数	各 2
	備考	3 ゴウナタツメ L　42242 3 ゴウナタツメ R　42241	（穴有り）	ナタツメ L　47342 ナタツメ R　47341	（穴無し）	
	部品名	ロータゴム	部品コード	7600093	1 台分個数	4
	備考					
	部品名	ネキリディスク	部品コード	7710608	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	テンションプーリ	部品コード	7600139	1 台分個数	16
	備考					
	部品名	クドウプーリ	部品コード	7601085	1 台分個数	4
	備考					
	部品名	ローラマエ R	部品コード	7600958	1 台分個数	3
	備考					
	部品名	ローラアト	部品コード	7600969	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	タオシベルトオサエ	部品コード	7600390	1 台分個数	1
	備考					
	部品名	タオシベルトガイド	部品コード	7600394	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	ガイドローラキット	部品コード	7601133	1 台分個数	2
	備考					
	部品名	ローラ	部品コード	7601013	1 台分個数	5
	備考	昇降コンテナ台				
	部品名	ローラブラケット	部品コード	7601014	1 台分個数	10
	備考	昇降コンテナ台				
	部品名	ガイドローラ	部品コード	7600966	1 台分個数	4
	備考	リンクアーム部				

電気配線図

ここでは電気配線図について記載します。



No.	品名	数	No.	品名	数	No.	品名	数
1	キースイッチ ASSY	1	8	コントローラハーネス	1	15	ケイシャセンサアッシ	1
2	リレーボックス	1	9	デンドウシリンダ	1	16	エンジンハーネス ASSY	1
3	セフティスイッチ	1	10	スイッチ（セフティ）	5	17	ホリトリハーネス	1
4	アワメータ	1	11	コントローラ	1	18	バッテリケーブル⊕	1
5	オールマイティノブ 1	1	12	バッテリ	1	19	バッテリケーブル⊖	1
6	バックブザー	1	13	ランプツキスイッチ	1			
7	トグルスイッチ	1	14	スタックバルブアッシ	1			

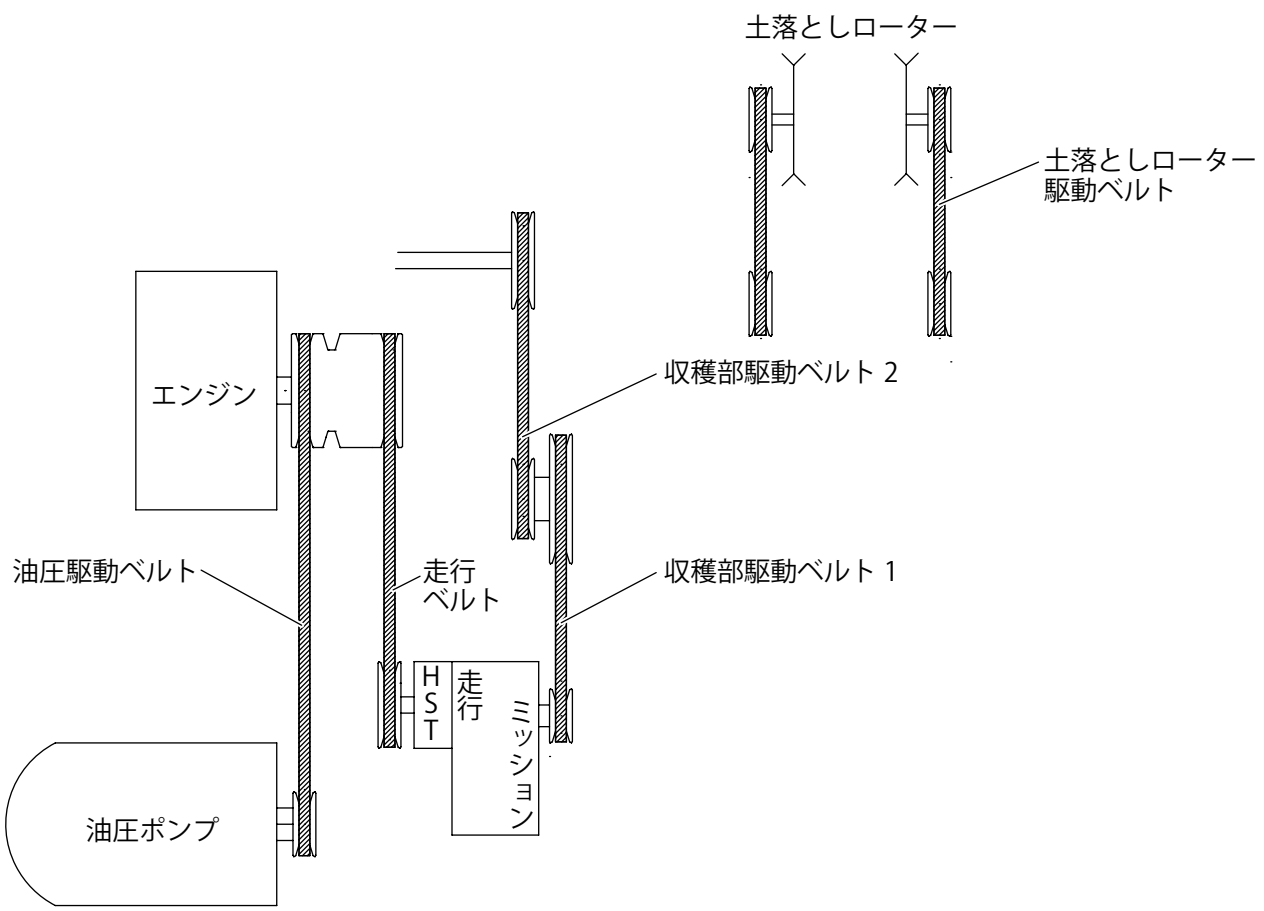
標準付属品・V ベルト規格

ここでは標準付属品と V ベルト規格について記載します。

標準付属品

品　名	数　量	適　用
プラグレンチ	1	
エンジン取扱説明書	1	
保護カバー	1	
取扱説明書	1	本書
ジョウゴ	1	

V ベルト規格



V ベルト規格

型式	エンジン	油圧駆動ベルト	走行ベルト	収穫部駆動ベルト 1	収穫部駆動ベルト 2	土落としローター駆動ベルト
HGX100	GB290PE	W400 SB40	W600 SB37	W600 SA33	W400 SB64	W400 SA25
	ミツビシ	オレンジ　LB40			オレンジ　LB64	オレンジ　LA25

主要諸元

ここでは主要諸元を紹介します。

型　式			コバシ HGX100	
区　分			HGX100	HGX100F
機体寸法 （　）：収納時	全長（mm）		4390（2660）	4130（2270）
	全幅（mm）		1360	
	全高（mm）		1530（1830）	
機体質量（kg）			715	710
エンジン	型式名		GB290PE（ミツビシ）	
	種類		空冷 4 サイクル傾斜形横軸 OHV 式ガソリンエンジン ※バランサシャフト付	
	総排気量 ℓ（cc）		0.296（296）	
	出力 / 速度（kw（ps）/rpm）		5.8（8.0）/ 3600	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	
	燃料タンク容量（ℓ）		6	
	始動方式		セルスタータ式	
走行部	クローラ幅×接地長（mm）		200 × 980	
	クローラ中心距離（mm）		720	
	接地圧（kpa（kgf/cm^2））		18（0.18）	
	変速方法（mm）		高低 2 段× HST 式無段変速	
	走行速度（m/s）	前進	低速 0 ～ 0.2　高速 0 ～ 0.85	
		後進	低速 0 ～ 0.17　高速 0 ～ 0.7	
	旋回方式		信地および超信地旋回	
収穫部	掘取条数		1 条	
	掘取幅（mm）		400	
	掘取部方式		バーコンベア	
	掘取部上下作動方式		油圧（複動シリンダ）	
	収穫部上下作動方式		油圧（複動シリンダ）	
	土砂分離方式	側面	ゴム付爪式	
		下面	突起付ドラム式	
	搬送部搬送方式		挟持搬送、スポンジ付きベルト	
自動車体水平制御			あり	
昇降コンテナ積載量（kg）			最大 100	-
カラコンテナ台積載量（kg）			最大 10	-
固定コンテナ台積載量（kg）			-	最大 100
乗車人員			1 名（2 名時は作業補助者）	
適応栽培様式（mm）			1 条植、うね間 750 以上、うね高さ 300 ～ 500	
作業能率（min/10a）			1 名作業時：730 （うね間 1000mm、うね長さ 50m）	1 名作業時：860 （うね間 1000mm、うね長さ 50m）
			2 名作業時：290（うね間 1000mm、うね長さ 50m）	
安全性検査合格番号			NARO 19/165（2018 年基準適合）	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症　状	原　因	対　策
走行部	スタータが回転しない	走行クラッチレバーと作業クラッチレバーが「切」になっていない	クラッチレバーを「切」にしてください
		セフティスイッチの作動不良、取付けの緩み	ボルト増し締め、セフティスイッチの調整
		バッテリ接続部の緩み、外れ、腐食	接続部を清掃、確実に接続する
		バッテリが放電している	バッテリの充電、交換
	スタータが回転してもエンジンが始動しない	燃料切れ	ガソリンの給油
		燃料フィルタの目づまり	燃料ストレーナの清掃
		プラグキャップの外れ	プラグキャップを点火プラグに取付ける
		点火プラグの火花が出ていない	点火プラグの交換
	エンジンの力が出ていない	エアクリーナの目づまり	エアクリーナの清掃・交換
		燃料が不足している	燃料系統のチェック
		エンジンオイルの不足	エンジンオイルを規定量まで給油
		点火プラグの緩み	点火プラグ増し締め
収穫部	収穫部が上がらない	エンジン回転不足	エンジン回転を少し上げる
		油圧駆動Ｖベルトの破断、緩み	Ｖベルトの交換
		コンベアが深く入りすぎている	後進後、油圧を上げる
		駆動Ｖベルトの緩み	Ｖベルトの張り調整
		油圧系統のつまり	パイロットチェック弁の継手の洗浄
	ゲージホイールが上がらない	エンジン回転不足	エンジン回転を少し上げる
		油圧駆動Ｖベルトの破断、緩み	Ｖベルトの交換
		駆動Ｖベルトの緩み	Ｖベルトの張り調整
		ヒューズ切れ	ヒューズの交換
	コンベアが作動しない	コンベアが深く入りすぎている	ゲージホイールを下げて浅くする
		石などが噛み込んでいる	噛み込み物の除去
		コンベアが伸びている	コンベアの張り調整
		コンベア駆動チェンの緩み	チェンの張り調整
		駆動Ｖベルトの緩み	Ｖベルトの張り調整
		HST オイル不足	HST オイルを規定量まで注油
搬送部	挟持搬送ベルトが作動しない	挟持搬送ベルトの緩み	挟持搬送ベルトの張り調整
		挟持搬送ベルトのテンション外れ	テンションの取付け
		駆動ローラに土付着	土の付着を除去
		駆動チェンの緩み	チェンの張り調整
		駆動Ｖベルトの緩み	Ｖベルトの張り調整
		HST オイル不足	HST オイルを規定量まで注油

本体各部	症　　状	原　　因	対　　策
搬送部	タオシベルトが作動しない	タオシベルトの緩み	タオシベルトの張り調整
		タオシベルトの外れ	タオシベルト取付け
		駆動ローラに土付着	土の付着を除去
		駆動チェンの緩み	チェンの張り調整
		駆動 V ベルトの緩み	V ベルトの調整
		HST オイル不足	HST オイルを規定量まで注油
	ダンツキ V ベルトが作動しない	ダンツキ V ベルトの緩み	ダンツキ V ベルトの張り調整
		ダンツキ V ベルトの内部にねぎの葉などが噛み込んでいる	噛み込んだねぎの葉などの除去
操作部	走行クラッチレバー・作業クラッチレバーを「入」にしても走行しない	走行 V ベルトの緩み	V ベルトの張り調整
		走行 V ベルトの破断	V ベルトの交換
		変速レバーが中立になっている	変速レバーを低速または高速に入れる
		掘取り部（スキサキ）が深く入りすぎている	掘取り部（スキサキ）の深さを適正にする
		駆動 V ベルトの緩み	V ベルトの張り調整
		変速レバーが戻っている	変速レバーをゆっくり動かす
		変速レバーの緩み	支点のネジを締めて調整
	マルチレバーを倒しても旋回しない	ブレーキが効かずスリップしている	ブレーキの調整
		クラッチの緩み	クラッチの調整
		走行 V ベルトの緩み	V ベルトの張り調整
		変速レバーが戻っている	変速レバーをゆっくり動かす
		変速レバーの緩み	支点のネジを締めて調整
		油圧ポンプのオイル不足	油圧ポンプのオイルを規定量まで注油
	土落としドラムが昇降しない	ヒューズ切れ	ヒューズの交換
標準収容台部	昇降コンテナ台が昇降しない	ガススプリングの油漏れ	ガススプリングの交換
エンジン部	キャブレターからの燃料漏れ	キャブレターに土や砂などの異物が混入	キャブレター、燃料タンクの中、燃料ストレーナの清掃

廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰されることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置は、適切な処理をしてください。

注意事項

この機械やその保守時に発生する廃棄物の処分は、国、または地方行政の法令の規制対象となるものがあります。
廃棄する際は、国または地方行政の法令にしたがい産業廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてください。

⚠注 意

必ず実行

この機械やその保守時に発生した廃棄物を廃棄するときは、国または地方行政の法令にしたがってください。

＊ 間違った廃棄を行うと、機械からオイルが漏れ、川・海に流れだし汚染することがあります。

MEMO

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

http://www.kobashiindustries.com

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎(0166)49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎(0197)71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎(028)687-1600
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎(086)250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎(096)286-0202